４　特定課題

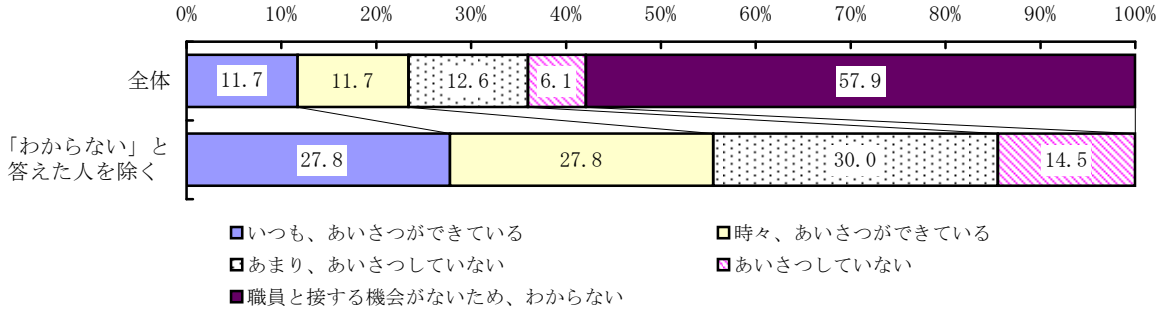
県職員の意識改革
問３３　県職員のあいさつ

あなたが、愛媛県の庁舎（県庁や地方局庁舎など）に行ったとき、県職員はあなたに対して、あいさつをしていますか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

		(%)
1	いつも、あいさつができている	１１．７
2	時々、あいさつができている	１１．７
3	あまり、あいさつしていない	１２．６
4	あいさつしていない	６．１
5	職員と接する機会がないため、わからない	５７．９

県職員のあいさつについて聞いたところ、「職員と接する機会がないため、わからない」と答えた人の割合が57.9%で、「いつも、あいさつができている」と「時々、あいさつができている」と答えた人の割合が共に11.7%、「あまり、あいさつしていない」が12.6%、「あいさつしていない」が6.1%となっている。

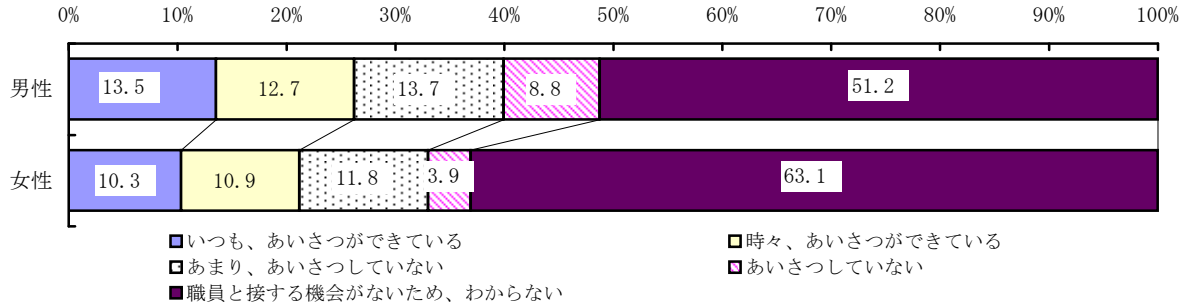
また、「職員と接する機会がないため、わからない」と答えた人を除いて再計算すると、「いつも、あいさつができている」と「時々、あいさつができている」と答えた人の割合が共に27.8%、「あまり、あいさつしていない」が30.0%、「あいさつしていない」が14.5%となる。



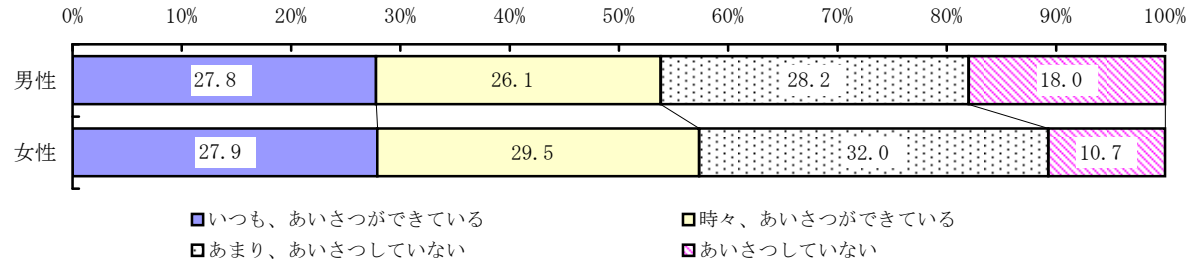
【性別】

性別にみると、「職員と接する機会がないため、わからない」と答えた人の割合が、男性で51.2%、女性で63.1%となっている。

また、「職員と接する機会がないため、わからない」と答えた人を除いて再計算すると、「いつも、あいさつができている」と答えた人の割合は、男性（27.8%）と女性（27.9%）でほぼ同じ割合であるが、「あいさつしていない」と答えた人の割合は、男性（18.0%）が、女性（10.7%）より7.3ポイント多い。

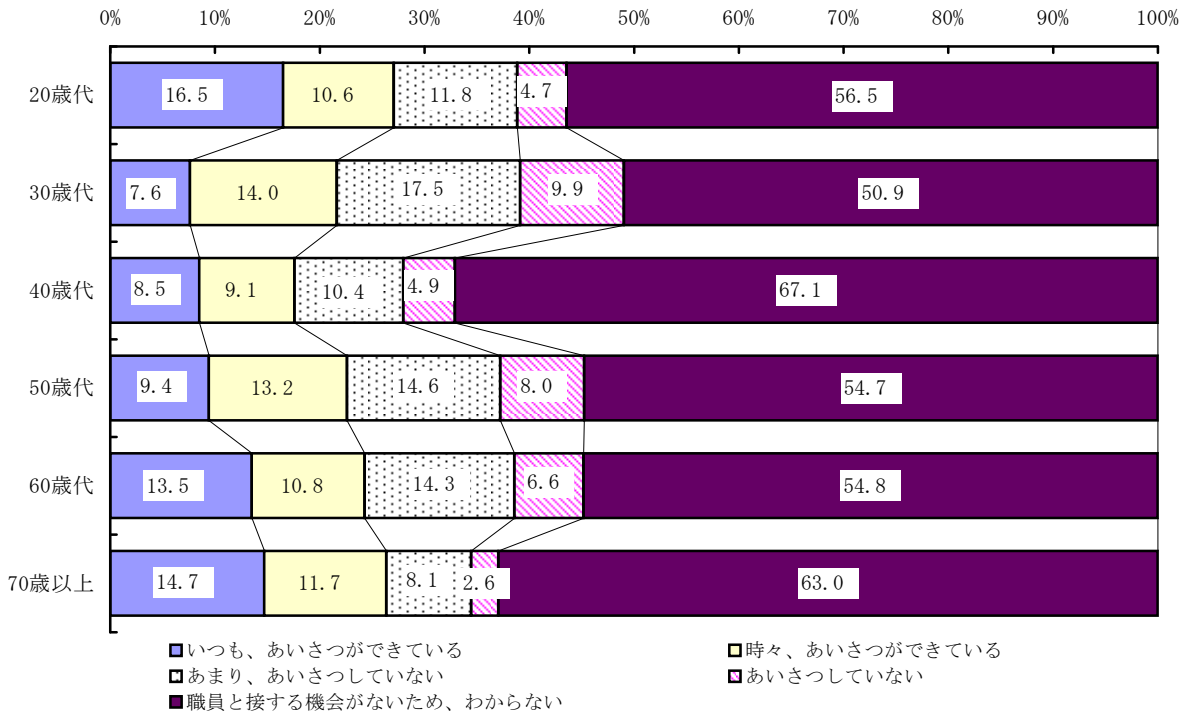


＜参考＞「職員と接する機会がないため、わからない」と答えた人を除く



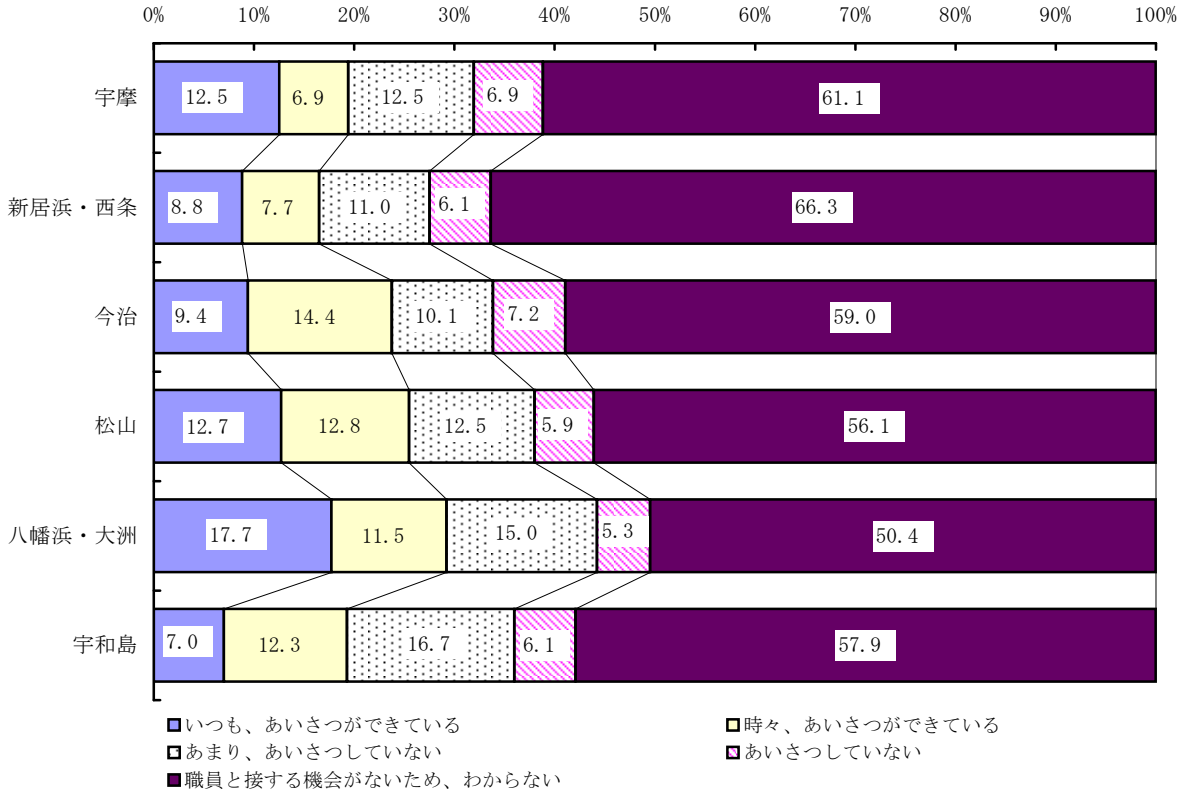
【年齢別】

年齢別にみると、「いつも、あいさつができている」と「時々、あいさつができている」と答えた人の割合の合計から、「あまり、あいさつしていない」と「あいさつしていない」の合計を引くと、20歳代（+10.6ポイント）、30歳代（-5.8ポイント）、40歳代（+2.3ポイント）、50歳代（±0ポイント）、60歳代（+3.4ポイント）、70歳以上（+15.7ポイント）となる。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、「いつも、あいさつができている」と「時々、あいさつができている」と答えた人の割合の合計から、「あまり、あいさつしていない」と「あいさつしていない」の合計を引くと、宇摩圏域（±0ポイント）、新居浜・西条圏域（-0.6ポイント）、今治圏域（＋6.5ポイント）、松山圏域（+7.1ポイント）、八幡浜・大洲圏域（+8.9ポイント）、宇和島圏域（-3.5ポイント）となる。



問３３－1　県職員の意識改革の進度

県では、人材育成方針において、５つの意識改革を実践する職員を今後の愛媛県政に求められる職員像の一つとし、その育成に努めているところですが、あなたは、県職員について、その**５つの意識改革のうち**、課題に対する前向きな姿勢（**『何故できないか』から『どうすればできるか』へ**）や県民の目線に立った業務の遂行（**『やってあげる』から『一緒にやる』へ）について**の意識改革が進んでいると感じていますか。次の中から**<u>一つ選んで</u>**番号を○で囲んでください。

《５つの意識改革》

○『何故できないか』から『どうすればできるか』へ
○『自治体に倒産はない』から『自治体に倒産はありえる』へ
○『やってあげる』から『一緒にやる』へ
○『失敗を隠す』から『失敗を積極的に明らかにする』へ
○『情報に振り回される』から『情報を活用する』へ

		(%)
1	十分に進んでいる	３．９
2	ある程度進んでいる	１０．０
3	あまり進んでいない	１６．８
4	全く進んでいない	４．０
5	職員と接する機会がないため、わからない	６５．３

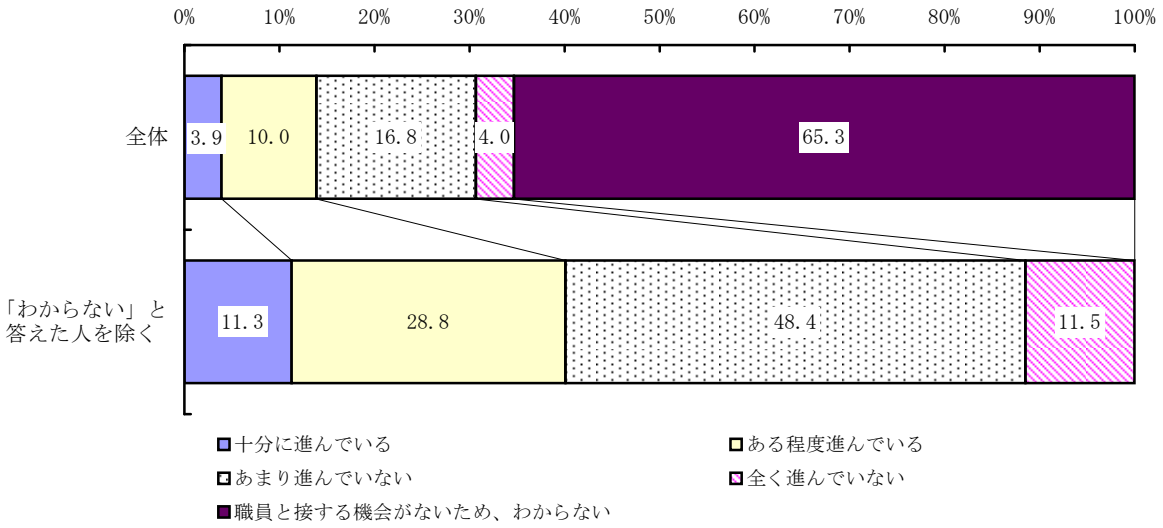
あなたは、どのような理由で県職員の意識改革が進んでいないと感じていますか。次の中から**<u>いくつでも選んで</u>**番号を○で囲んでください。

（回答者＝３３２人）（複数回答）

		(%)
1	県職員の対応は、高圧的であると感じる	２８．９
2	県職員の対応は、丁寧さに欠けると感じる	２８．０
3	県職員の対応は、親切心に欠けると感じる	３６．７
4	県職員の対応は、遅いと感じる	３２．２
5	県職員は、柔軟な対応ができていないと感じる	４９．７
6	県職員は、困難な課題には逃げ腰になると感じる	３０．１
7	その他	６．６

県職員の意識改革の進度について聞いたところ、「職員と接する機会がないため、わからない」と答えた人の割合が65.3%で、「十分に進んでいる」が3.9%、「ある程度進んでいる」が10.0%、「あまり進んでいない」が16.8%、「全く進んでいない」が4.0%となっている。

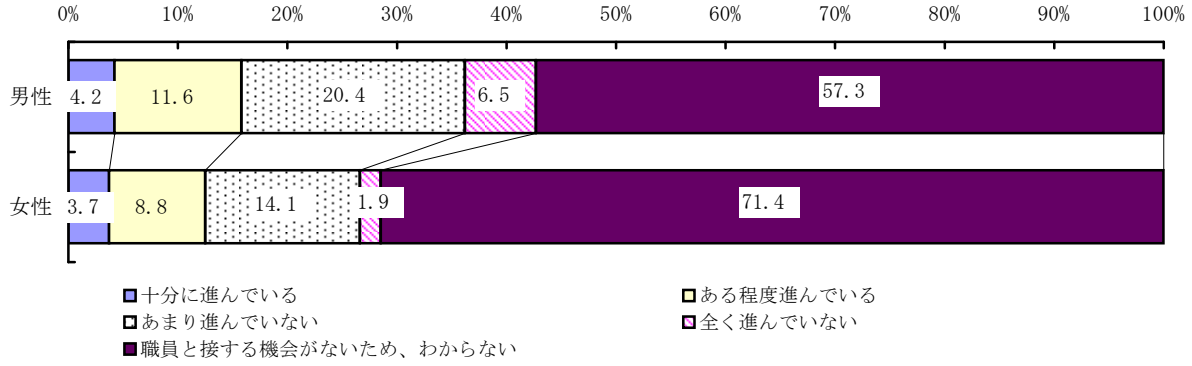
また、「職員と接する機会がないため、わからない」と答えた人を除いて再計算すると、「十分に進んでいる」が11.3%、「ある程度進んでいる」が28.8%、「あまり進んでいない」が48.4%、「全く進んでいない」が11.5%となる。



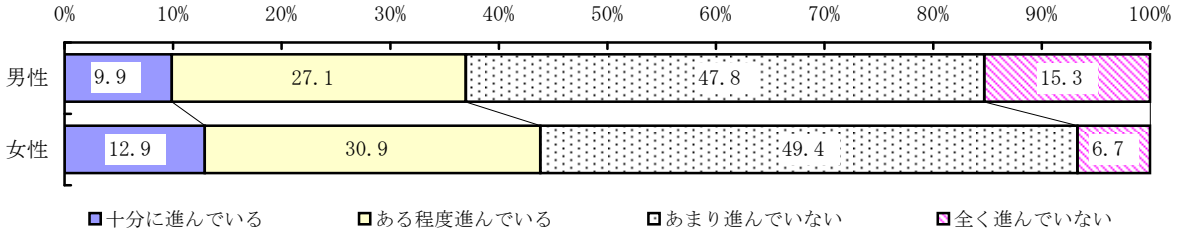
【性別】

性別にみると、「職員と接する機会がないため、わからない」と答えた人の割合が、男性で57.3%、女性で71.4%となっている。

また、「職員と接する機会がないため、わからない」と答えた人を除いて再計算すると、「十分に進んでる」と「ある程度進んでいる」と答えた人の割合の合計は、男性（37.0%）よりも女性（43.8%）の方が6.8ポイント多い。

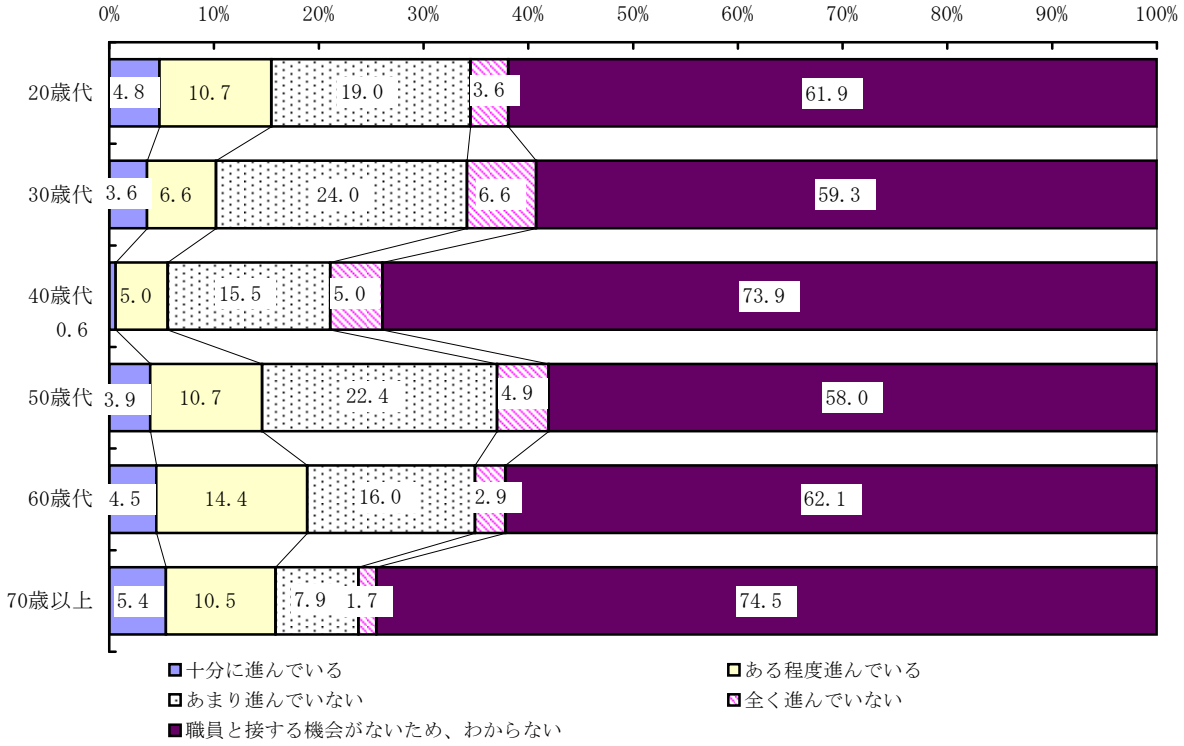


＜参考＞「職員と接する機会がないため、わからない」と答えた人を除く



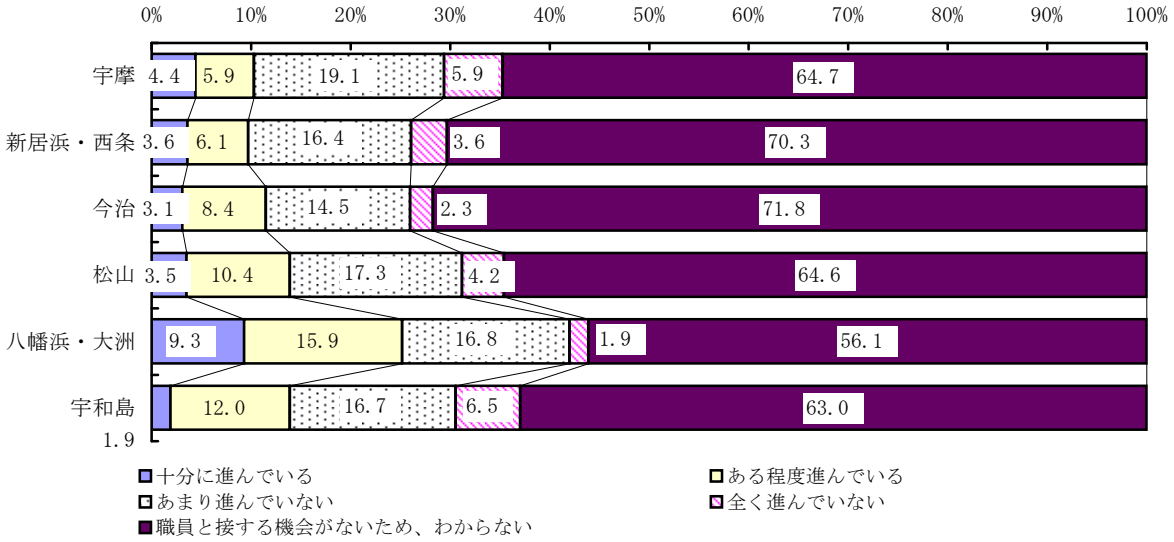
【年齢別】

年齢別にみると、「十分に進んでいる」と「ある程度進んでいる」と答えた人の割合の合計から、「あまり進んでいない」と「全く進んでいない」の合計を引くと、20歳代（-7.1ポイント）、30歳代（-20.4ポイント）、40歳代（-14.9ポイント）、50歳代（-12.7ポイント）、60歳代（±0ポイント）、70歳以上（+6.3ポイント）となる。



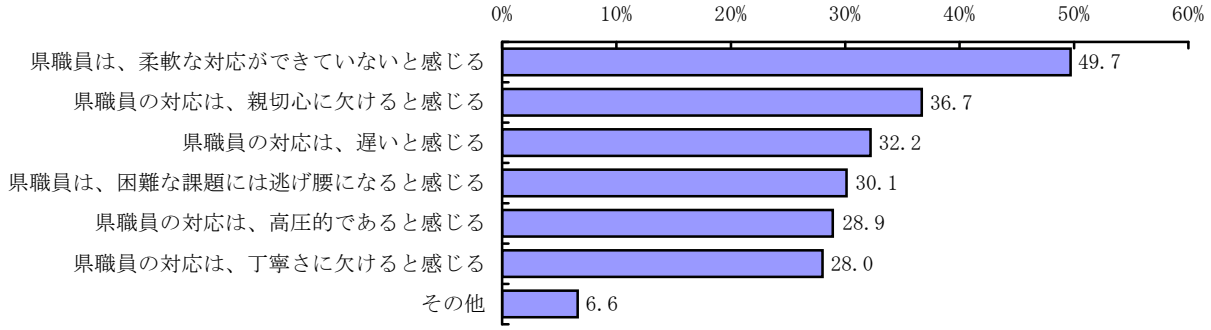
【生活圏域別】

生活圏域別にみると、「十分に進んでいる」と「ある程度進んでいる」と答えた人の割合の合計から、「あまり進んでいない」と「全く進んでいない」の合計を引くと、宇摩圏域（-14.7ポイント）、新居浜・西条圏域（-10.3ポイント）、今治圏域（-5.3ポイント）、松山圏域（-7.6ポイント）、八幡浜・大洲圏域（+6.5ポイント）、宇和島圏域（-9.3ポイント）となる。



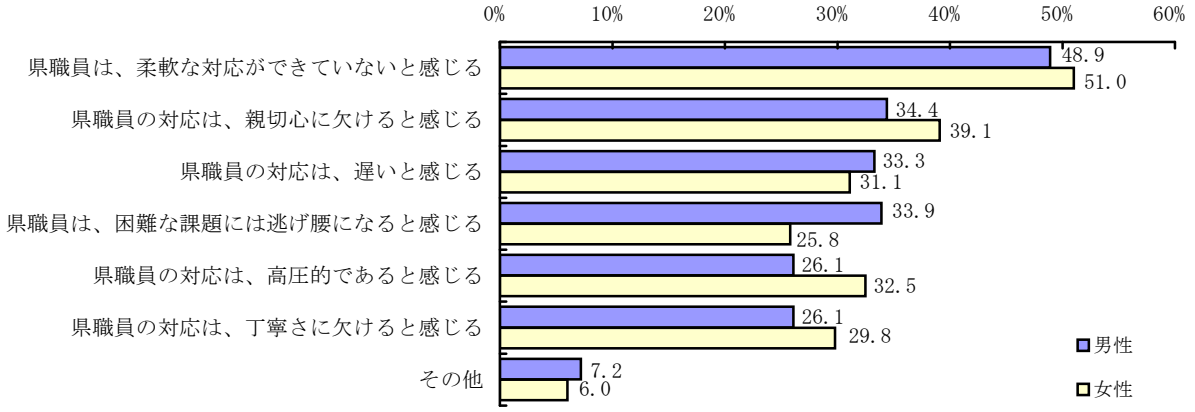
《県職員の意識改革が進んでいない理由》

問33-1で、「ある程度進んでいる」、「あまり進んでいない」及び「全く進んでいない」と答えた人に、県職員の意識改革が進んでいない理由について聞いたところ、「県職員は、柔軟な対応ができていない」と答えた人が49.7%と最も多く、以下「県職員の対応は、親切心に欠ける」（36.7%）、「県職員の対応は、遅い」(32.2%)、「県職員は、困難な課題には逃げ腰になる」（30.1%）などの順となっている。



【性別】

性別に見ると、「県職員は、柔軟な対応ができていない」と答えた人の割合が、男性（48.9%）、女性（51.0%）で共に最も多く、「県職員は、困難な課題には逃げ腰になる」と答えた人の割合は、男性の方が特に多く、「県職員の対応は、親切心に欠ける」や「県職員の対応は、高圧的である」と答えた人の割合は、女性の方が特に多い。



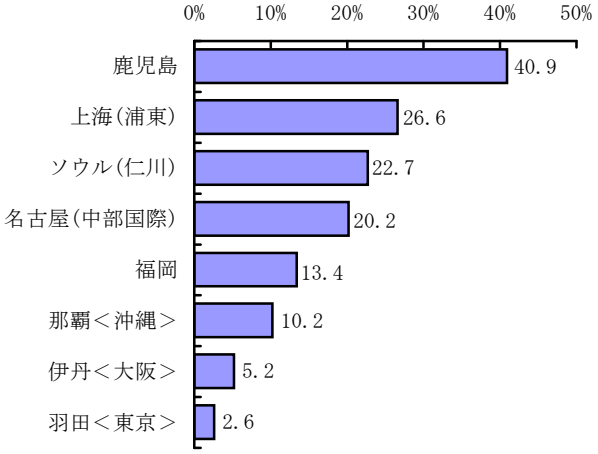
松山空港の定期航空路線
問３４　松山空港からの直行便の認知度

次に掲げるものは、現在、松山空港からの定期路線がある空港ですが、直行便があることを**知らなかったもの**を、次の中から**全て選んで**番号を○で囲んでください。

		（複数回答）（%）
1	羽田〈東京〉	２．６
2	伊丹〈大阪〉	５．２
3	福岡	１３．４
4	名古屋（中部国際）	２０．２
5	那覇〈沖縄〉	１０．２
6	鹿児島	４０．９
7	ソウル（仁川）	２２．７
8	上海（浦東）	２６．６

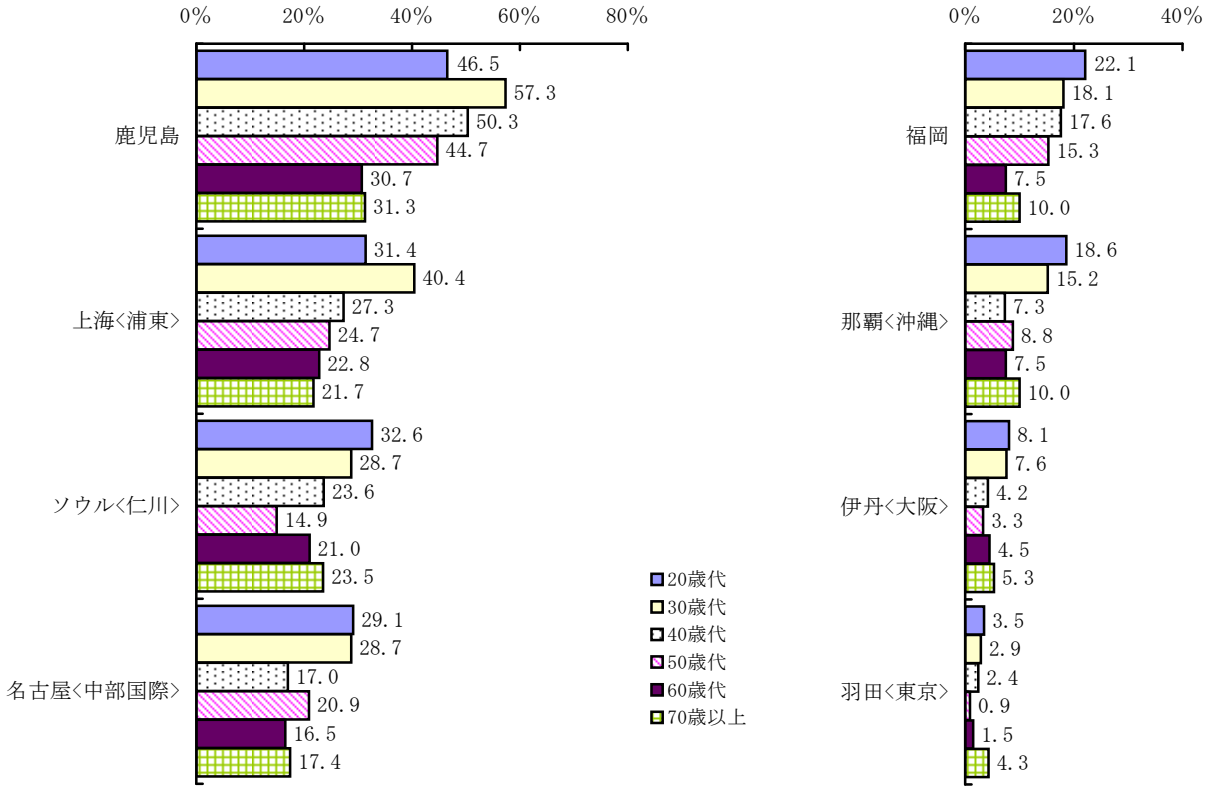
松山空港からの直行便があることを**知らなかった**空港について聞いたところ、「鹿児島」と答えた人の割合が40.9%で最も多く、以下「上海（浦東）」(26.6%)、「ソウル（仁川）」（22.7%）と国際便が続き、「名古屋（中部国際空港）」（20.2%）の順となっている。

一方で、「羽田＜東京＞」（2.6%）、「伊丹＜大阪＞」（5.2%）の認知度は高く、「那覇＜沖縄＞」（10.2%）、「福岡」（13.4%）は比較的認知度が高くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、「鹿児島」を**知らなかった**と答えた人の割合が全ての年齢層で最も多い。「ソウル」を知らなかったと答えた人の割合は、50歳代は14.9%で他の年齢層と比較して極端に少ない。また、全体的に20歳代及び30歳代は、他の年齢層と比較して各直行便とも知らなかったと答えた人の割合が多い。



問３４－１　松山空港の定期路線の利用経験の有無

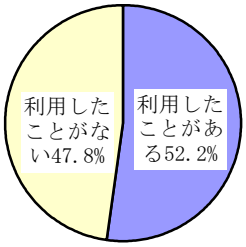
松山空港の定期路線のうち、**過去５年以内の**利用経験の有無について、１又は２の該当する方**いずれかの番号を**○で囲んでください。
また、２と答えた方は、路線の①～⑧のうち**利用したことのある路線**を**全て選んで**番号とその利用目的を○で囲んでください。

		(%)
１	利用したことがない。（過去５年以内）	４７．８
２	利用したことがある。（過去５年以内）	５２．２

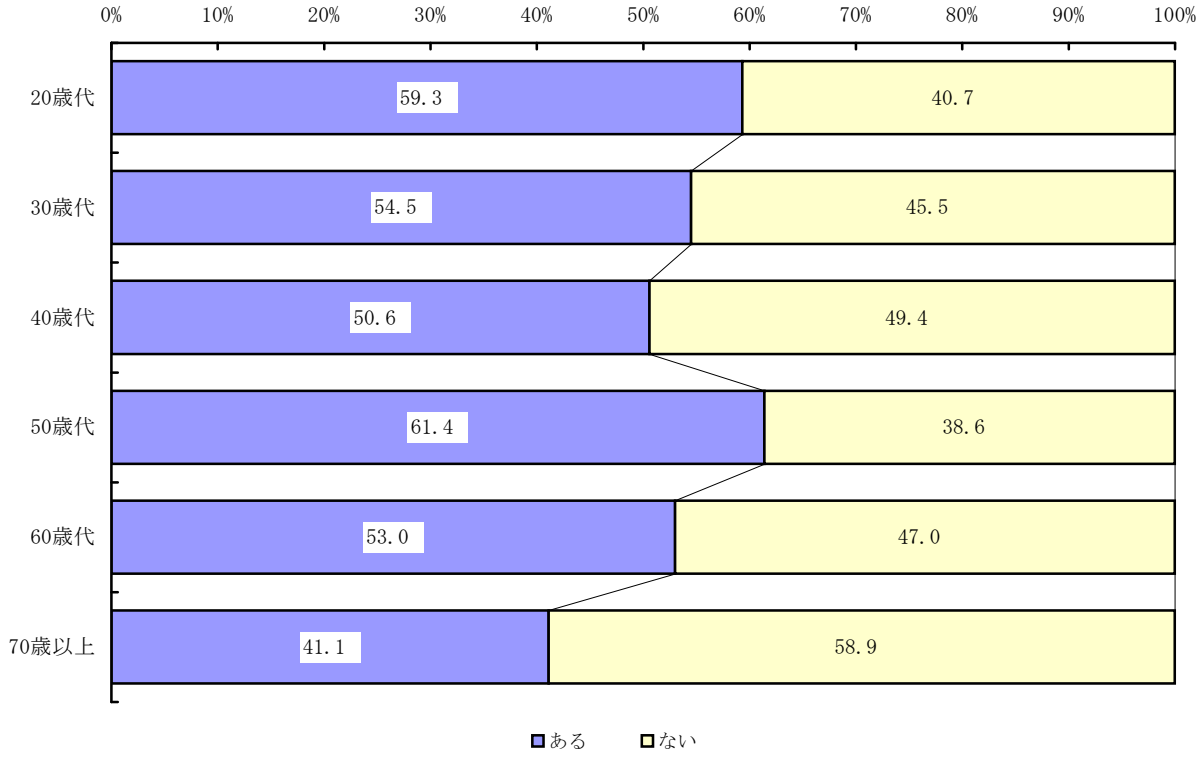
（回答者＝５８３人）　（複数回答）

						(%)
①羽田＜東京＞	〔観光	ビジネス	帰省・知人訪問	その他〕		７９．１
②伊丹＜大阪＞	〔観光	ビジネス	帰省・知人訪問	その他〕		４３．１
③福岡	〔観光	ビジネス	帰省・知人訪問	その他〕		１３．４
④名古屋(中部国際)	〔観光	ビジネス	帰省・知人訪問	その他〕		１３．４
⑤那覇＜沖縄＞	〔観光	ビジネス	帰省・知人訪問	その他〕		２１．４
⑥鹿児島	〔観光	ビジネス	帰省・知人訪問	その他〕		４．６
⑦ソウル(仁川)	〔観光	ビジネス	帰省・知人訪問	その他〕		９．８
⑧上海(浦東)	〔観光	ビジネス	帰省・知人訪問	その他〕		６．３

松山空港の定期路線のうち利用経験の有無について聞いたところ、「利用したことがある」と答えた人の割合が52.2%、「利用したことがない」が47.8%となっている。

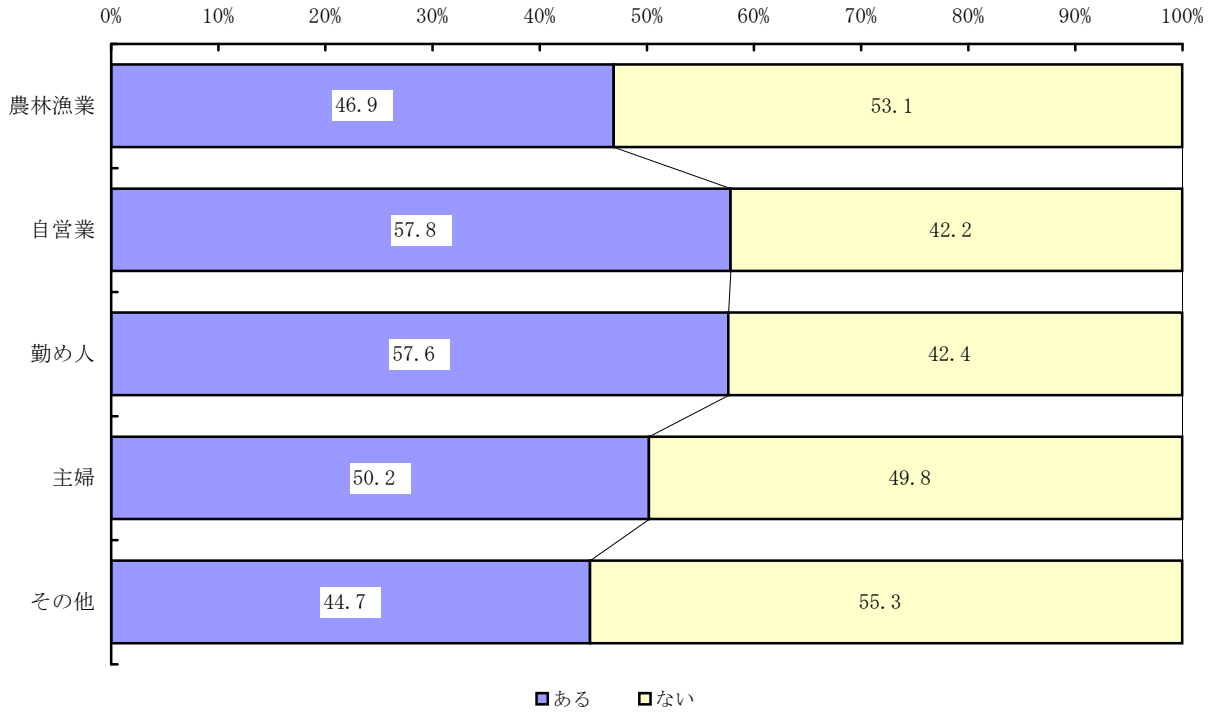


【年齢別】
年齢別にみると、「松山空港の定期路線を利用したことがある」と答えた人の割合は、70歳以上を除く全ての年齢層で50%を超えているが、20歳代（59.3%）及び50歳代（61.4%）で他の年齢層と比較して割合が多い。70歳以上では41.1%で比較的少ない。



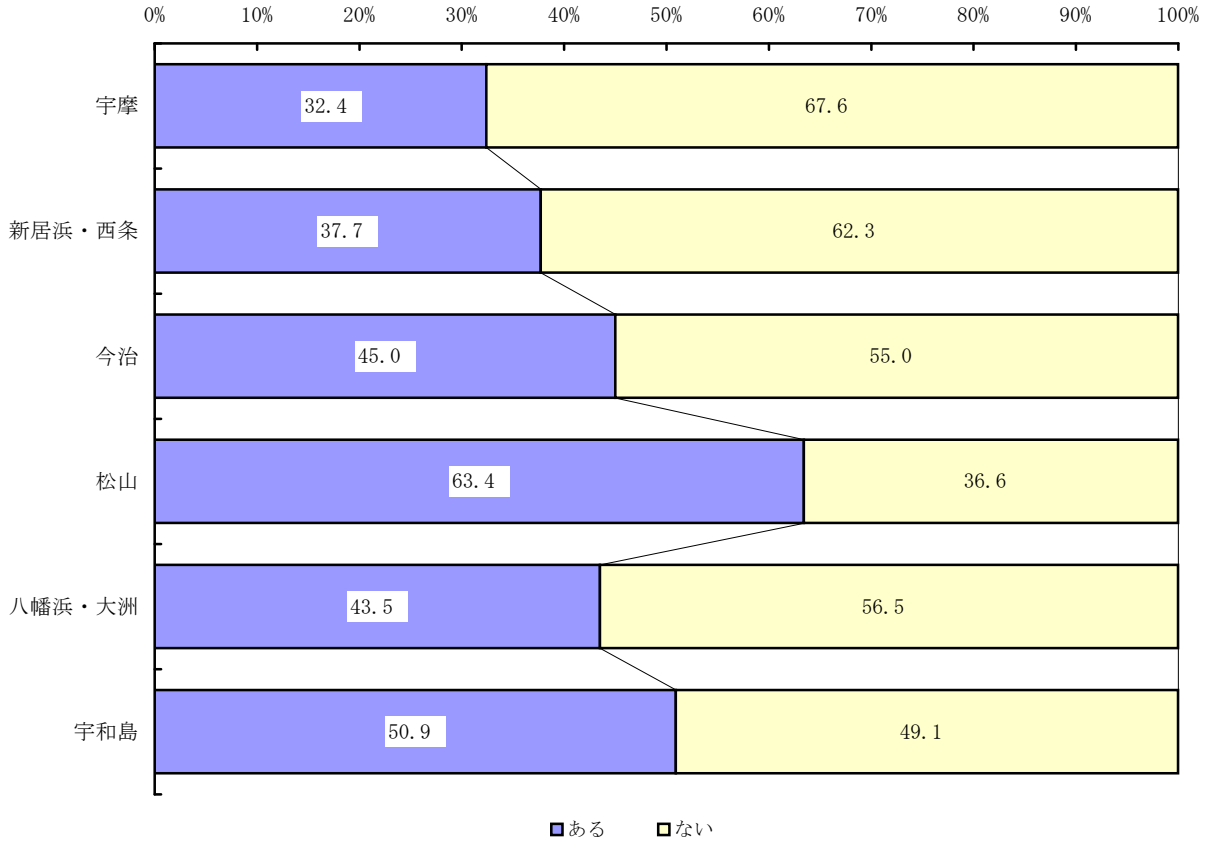
【職業別】

職業別にみると、「松山空港の定期路線を利用したことがある」と答えた人の割合は、自営業（57.8%）及び勤め人（57.6%）で他の職種と比較して多く、農林漁業（46.9%）及びその他（44.7%）で少ない。



【生活圏域別】

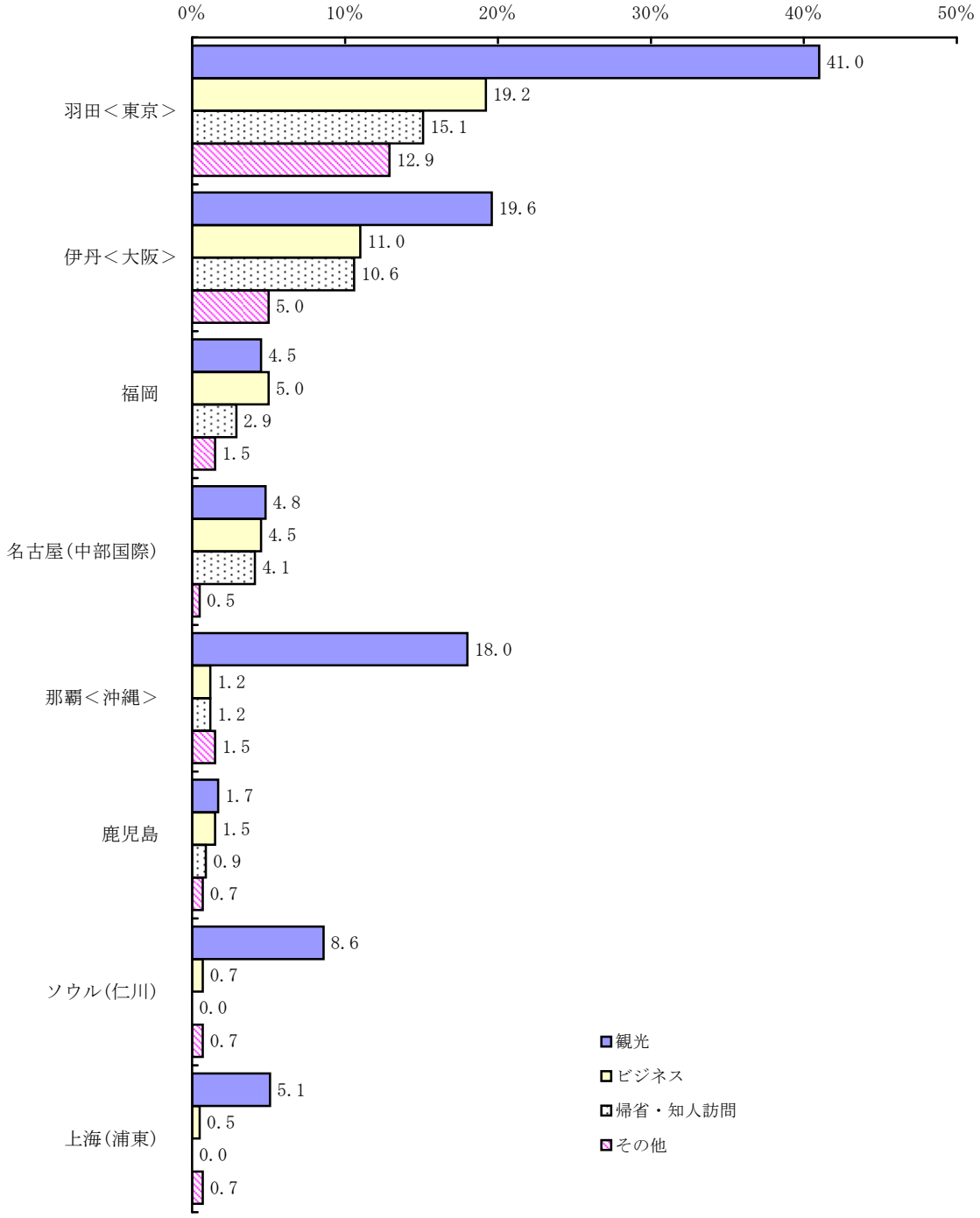
生活圏域別にみると、「松山空港の定期路線を利用したことがある」と答えた人の割合は、松山圏域（63.4%）で特に多いが、松山圏域及び宇和島圏域（50.9%）以外の圏域では50%を切っており、宇摩圏域（32.4%）及び新居浜・西条圏域（37.7%）で特に少ない。



《利用したことがある定期路線と利用目的》

問34-1で、「松山空港の定期路線を利用したことがある」と答えた人に、利用したことがある定期路線とその利用目的を聞いたところ、「福岡」を除く全ての路線で、利用目的は「観光」が最も多い。「福岡」は「観光」より「ビジネス」と答えた人の割合が若干多くなっている。

（回答者数＝５８３人）



問３４－２　新路線が開設された場合の利用したい空港

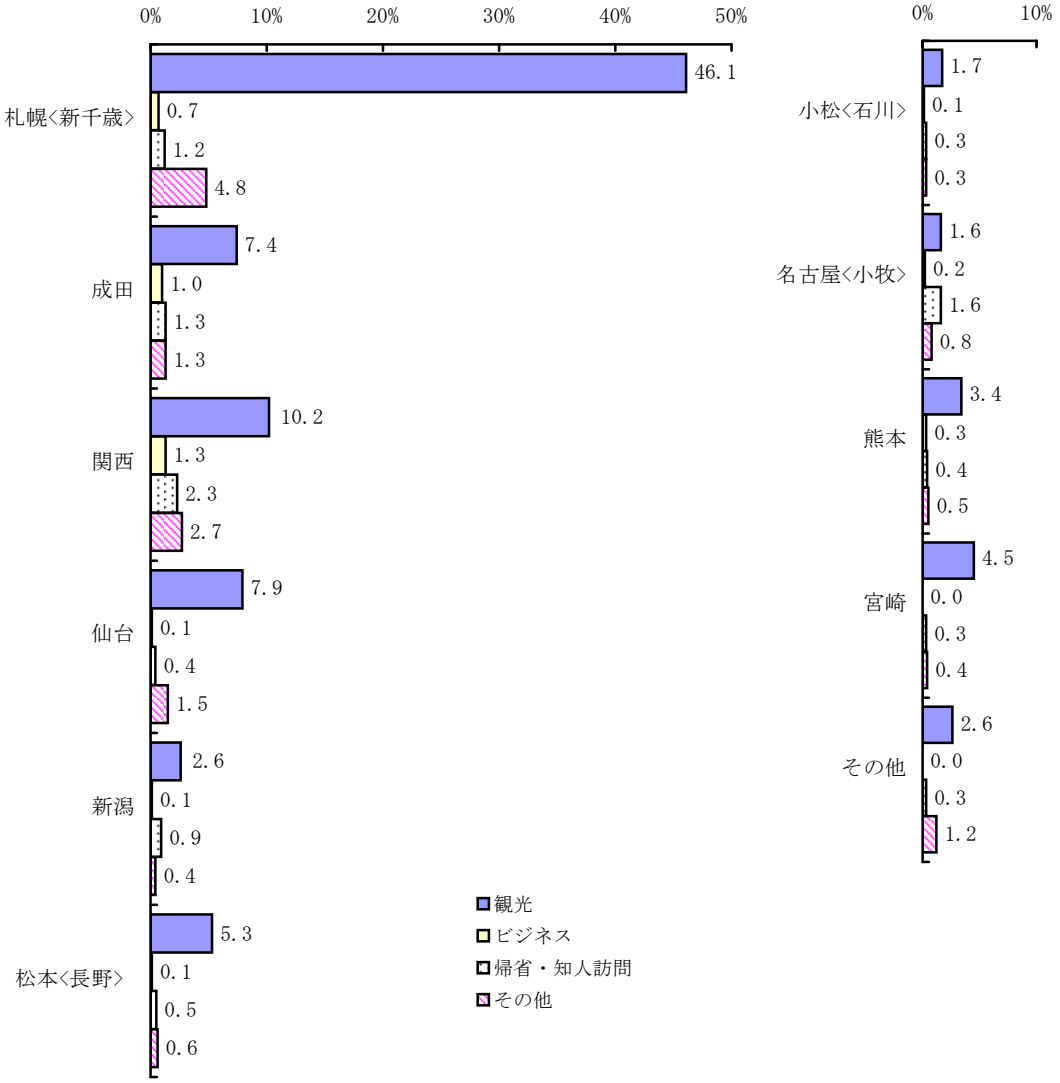
新たに路線（直行便）が開設された場合、是非利用したい空港（あれば便利というだけでなく、**利用する見込みがあると思われるもの**）を次の中から**<u>二つまで選んで</u>**番号とその利用目的を○で囲んでください。

（複数回答）　（%）

1	札幌（新千歳）	〔観光	ビジネス	帰省・知人訪問	その他〕	５２．２
2	成田	〔観光	ビジネス	帰省・知人訪問	その他〕	１０．８
3	関西	〔観光	ビジネス	帰省・知人訪問	その他〕	１５．７
4	仙台	〔観光	ビジネス	帰省・知人訪問	その他〕	９．９
5	新潟	〔観光	ビジネス	帰省・知人訪問	その他〕	３．９
6	松本＜長野＞	〔観光	ビジネス	帰省・知人訪問	その他〕	６．４
7	小松＜石川＞	〔観光	ビジネス	帰省・知人訪問	その他〕	２．４
8	名古屋（小牧）	〔観光	ビジネス	帰省・知人訪問	その他〕	４．１
9	熊本	〔観光	ビジネス	帰省・知人訪問	その他〕	４．５
10	宮崎	〔観光	ビジネス	帰省・知人訪問	その他〕	５．１
11	その他	〔観光	ビジネス	帰省・知人訪問	その他〕	４．０

新路線が開設された場合に利用したい空港とその利用目的を聞いたところ、「札幌」と答えた人の割合は52.2%で最も多く、以下「関西」(15.7%)、「成田」(10.8%)、「仙台」(9.9%)などの順となっている。

利用目的では、すべての空港で「観光」と答えた人の割合が最も多く、特に「札幌＜新千歳＞」は46.1%が「観光」で利用したいと答えている。



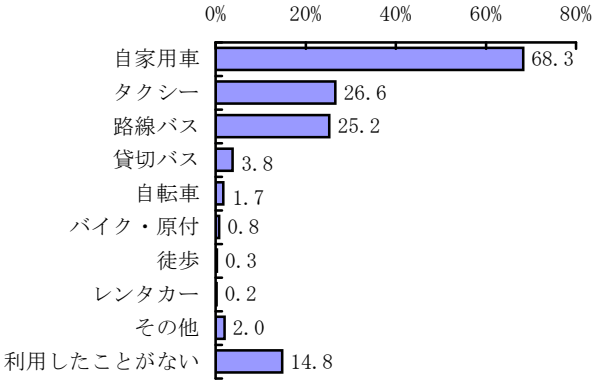
問３４－３　松山空港までの交通手段

あなたは、松山空港までの交通手段として、何を利用していますか。よく利用するものを**<u>二つまで選んで</u>**番号を○で囲んでください。

（複数回答）　（%）

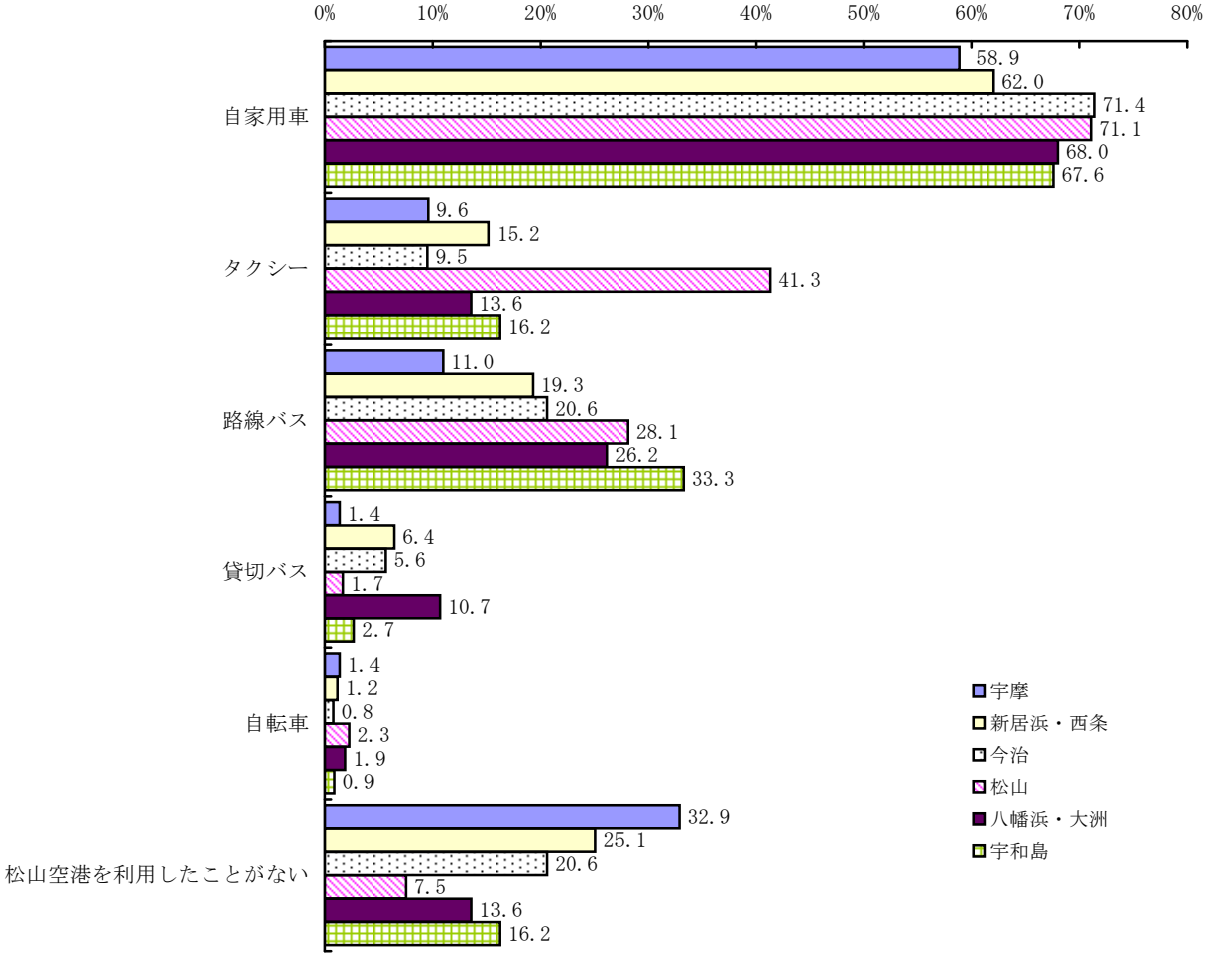
1	路線バス	２５．２	2	賃切バス	３．８
3	タクシー	２６．６	4	レンタカー	０．２
5	自家用車	６８．３	6	バイク・原付	０．８
7	自転車	１．７	8	徒歩	０．３
9	その他	２．０			
10	松山空港を利用したことがない	１４．８			

松山空港までの交通手段を聞いたところ、「自家用車」と答えた人が68.3%で最も多く、以下「タクシー」(26.6%)、「路線バス」(25.2%)の順で、その他の交通手段は、いずれも5%以下となっている。



【生活圏域別】

上位五つの交通手段及び「松山空港を利用したことがない」と答えた人について、生活圏域別にみると、全ての圏域で「自家用車」を利用する人が最も多い。松山圏域では「タクシー」を利用する人が41.3%で他の圏域と比較して特に多く、「路線バス」を利用すると答えた人の割合は、松山圏域（28.1%）、八幡浜・大洲圏域（26.2%）及び宇和島圏域（33.3%）で多い。

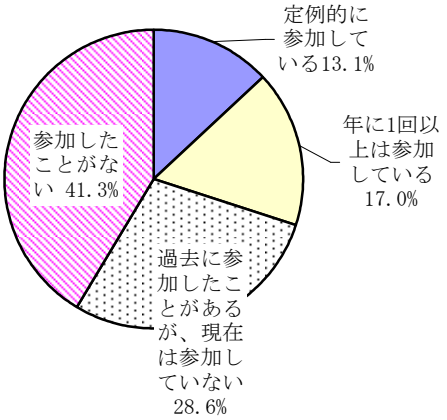


ボランティア活動の活性化
問３５　ボランティア活動など社会貢献活動への参加状況

あなたは、現在、ボランティア活動や自治会活動など社会貢献活動に参加していますか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

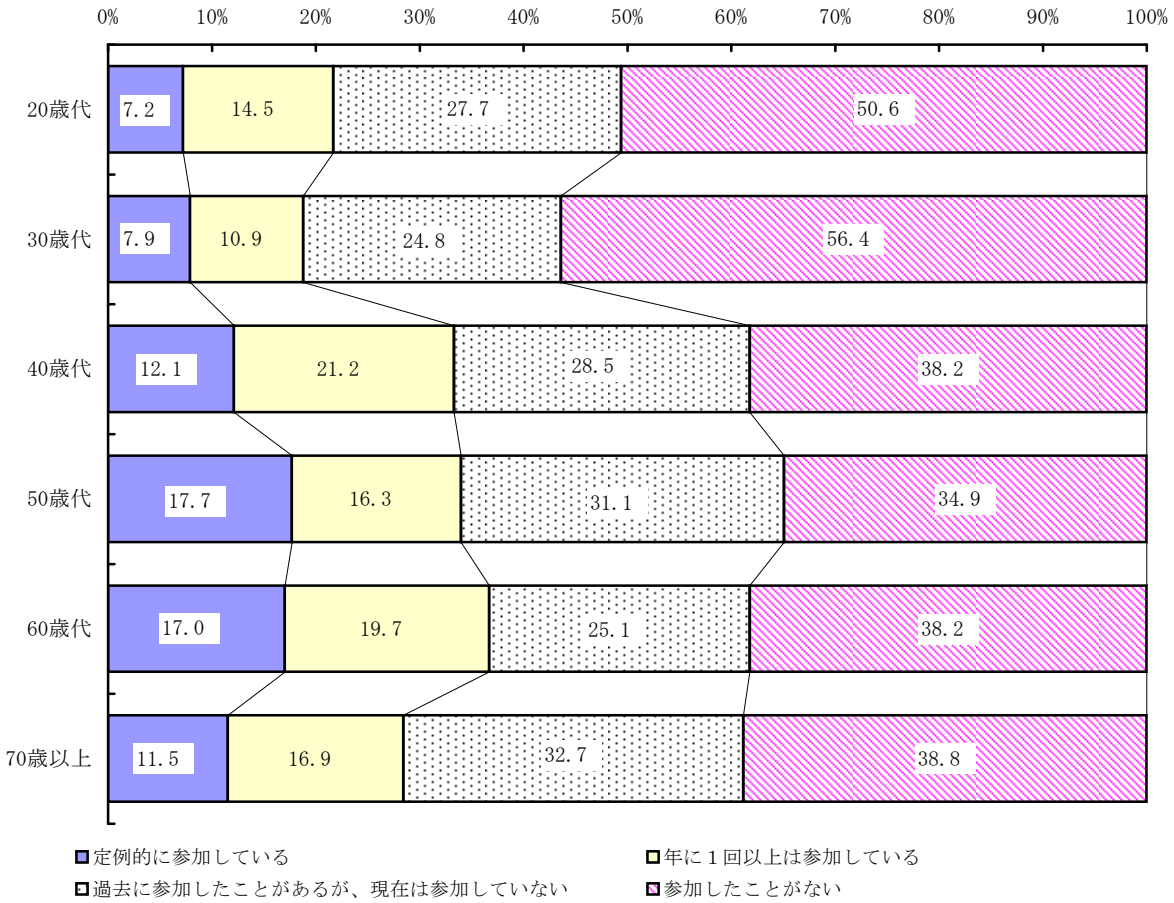
		(%)
1	定例的に参加している	１３．１
2	年に１回以上は参加している	１７．０
3	過去に参加したことがあるが、現在は参加していない	２８．６
4	参加したことがない	４１．３

現在、ボランティア活動など社会貢献活動に参加しているかを聞いたところ、「定例的に参加している」（13.1%）、「年に１回以上は参加している」（17.0%）、「過去に参加したことがあるが、現在は参加していない」（28.6%）、「参加したことがない」（41.3%）となっている。



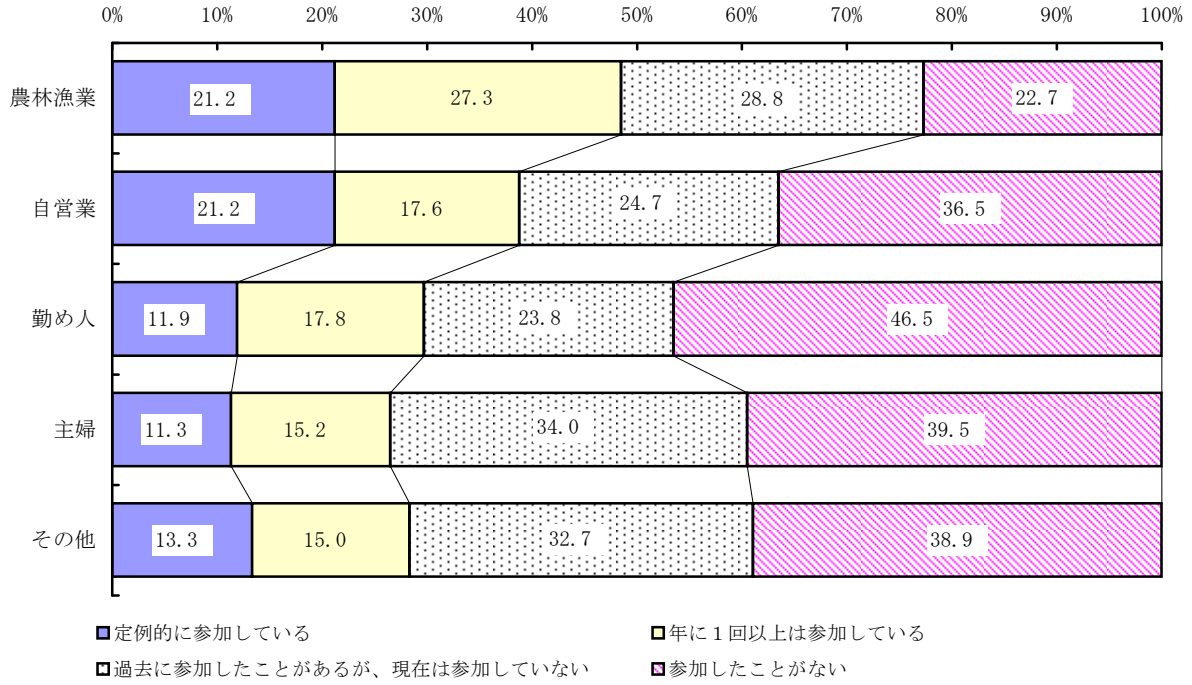
【年齢別】

年齢別にみると、「定例的に参加している」と答えた人の割合は、50歳代（17.7%）及び60歳代（17.0%）で他の年齢層と比較して多くなっており、これに、「年に１回以上は参加している」と「過去に参加したことがあるが、現在は参加していない」を加えた参加経験のある人の割合は、40歳代以上で多く、30歳代が最も少ない。



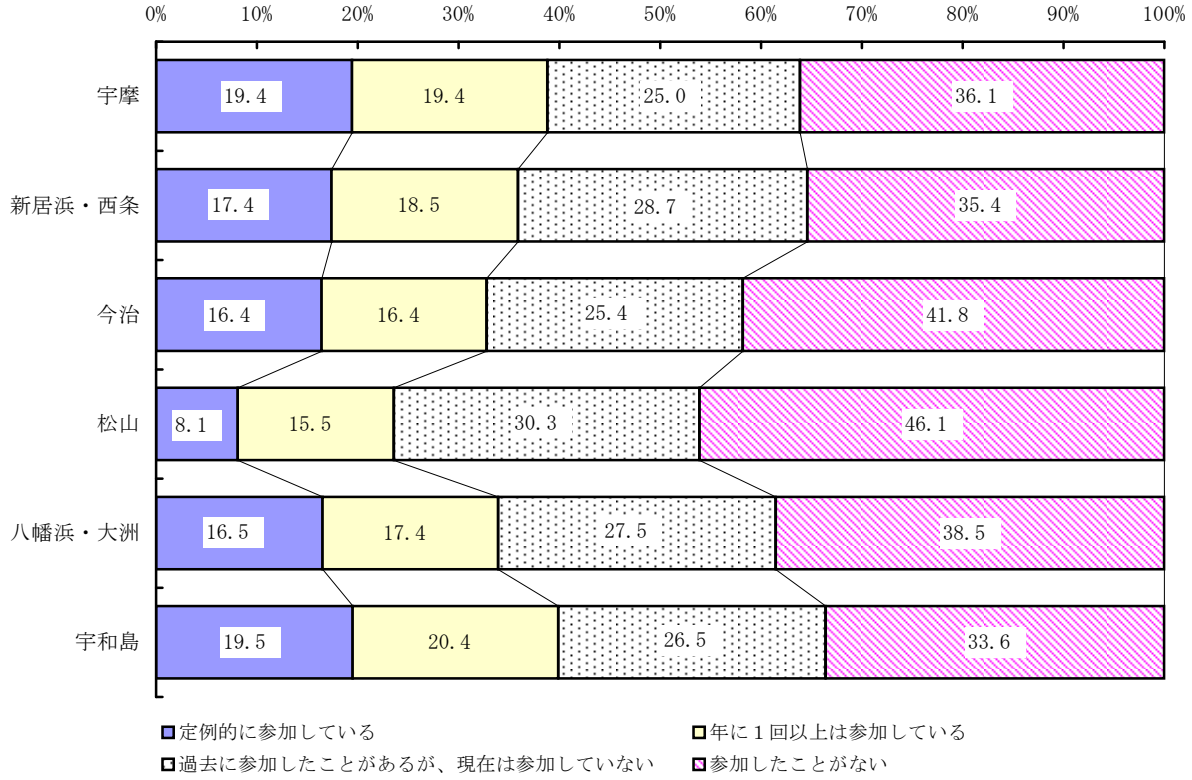
【職業別】

職業別にみると、「定例的に参加している」と答えた人の割合は、農林漁業及び自営業が共に21.2%で他の職種と比較して多くなっており、これに「年に１回以上は参加している」と「過去に参加したことがあるが、現在は参加していない」を加えた参加経験のある人の割合は、農林漁業で77.3%で特に多く、勤め人が53.5%で最も少ない。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、「定例的に参加している」と答えた人の割合は、宇摩圏域（19.4%）及び宇和島圏域（19.5%）で他の圏域と比較して多くなっており、これに「年に１回以上は参加している」と「過去に参加したことがあるが、現在は参加していない」を加えた参加経験のある人の割合は、宇摩圏域（63.8%）、新居浜・西条圏域（64.6%）及び宇和島圏域（66.4%）で多く、松山圏域では53.9%で最も少ない。

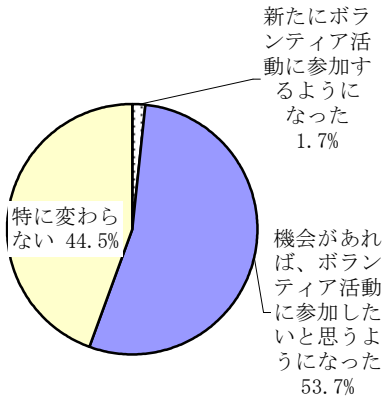


問３５－１　東日本大震災後の参加意識の変化

あなたは、東日本大震災を契機に、ボランティア活動への参加意識に変化がありましたか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

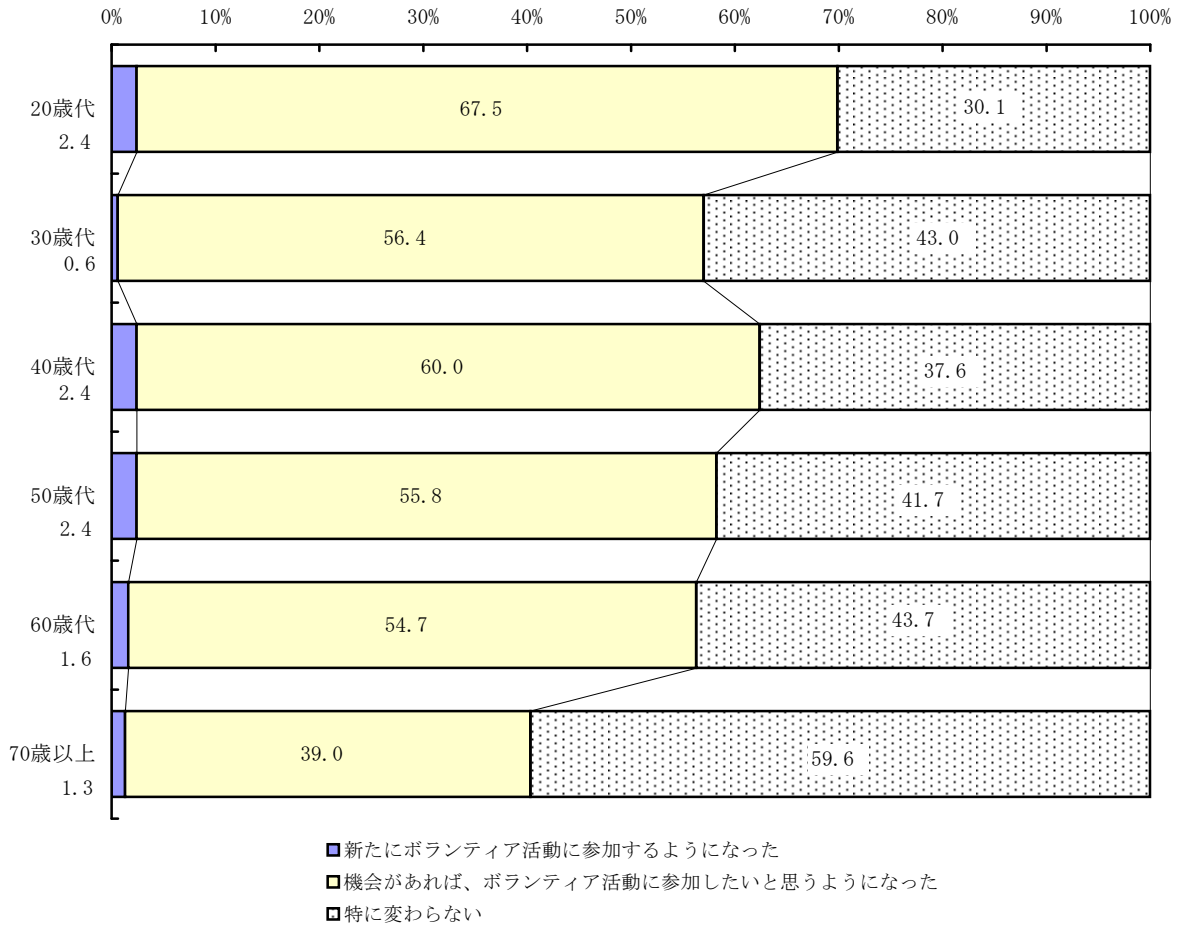
		(%)
１	新たにボランティア活動に参加するようになった	１．７
２	機会があれば、ボランティア活動に参加したいと思うようになった	５３．７
３	特に変わらない	４４．５

東日本大震災を契機に、ボランティア活動への参加意識に変化があったかを聞いたところ、「新たにボランティア活動に参加するようになった」と答えた人の割合が1.7%、「機会があれば、ボランティア活動に参加したいと思うようになった」が53.7%で、「特に変わらない」が44.5%となっている。



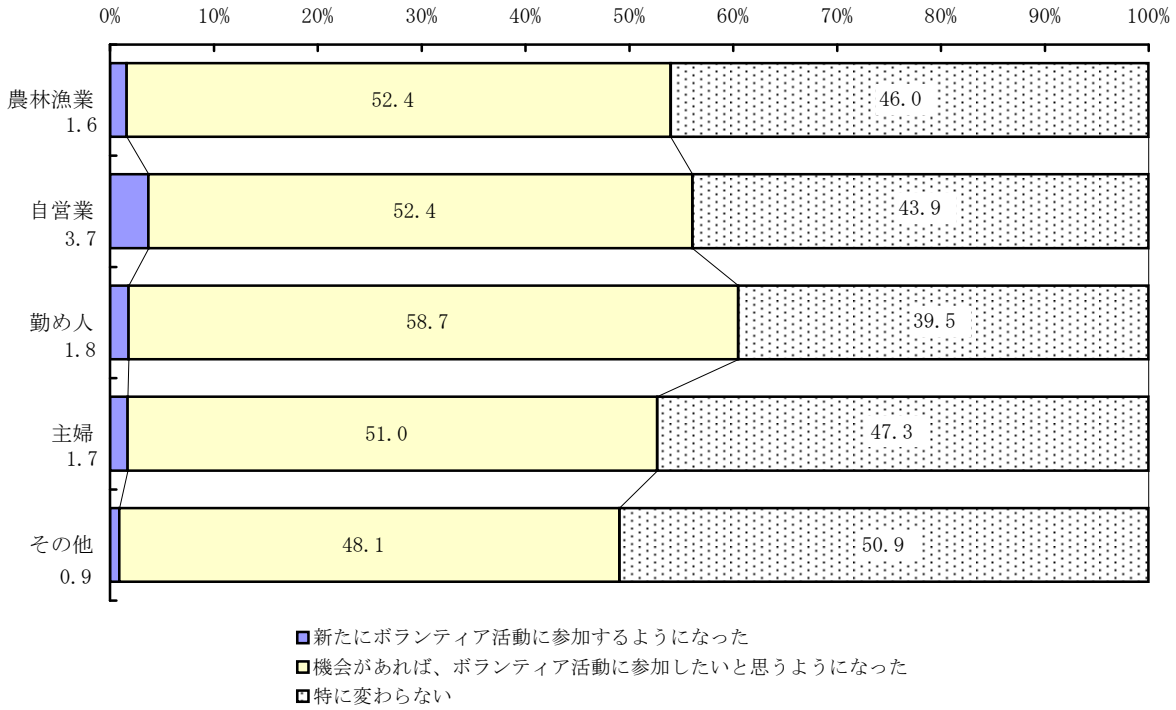
【年齢別】

年齢別にみると、70歳以上を除く全ての年齢層で「新たにボランティア活動に参加するようになった」と「機会があれば、ボランティア活動に参加したいと思うようになった」と答えた人の割合の合計は、「特に変わらない」と答えた人の割合よりも多く、中でも20歳代では69.9%が参加意識に変化があったと答えている。70歳代では「特に変わらないが」と答えた人の割合が59.6%となっている。



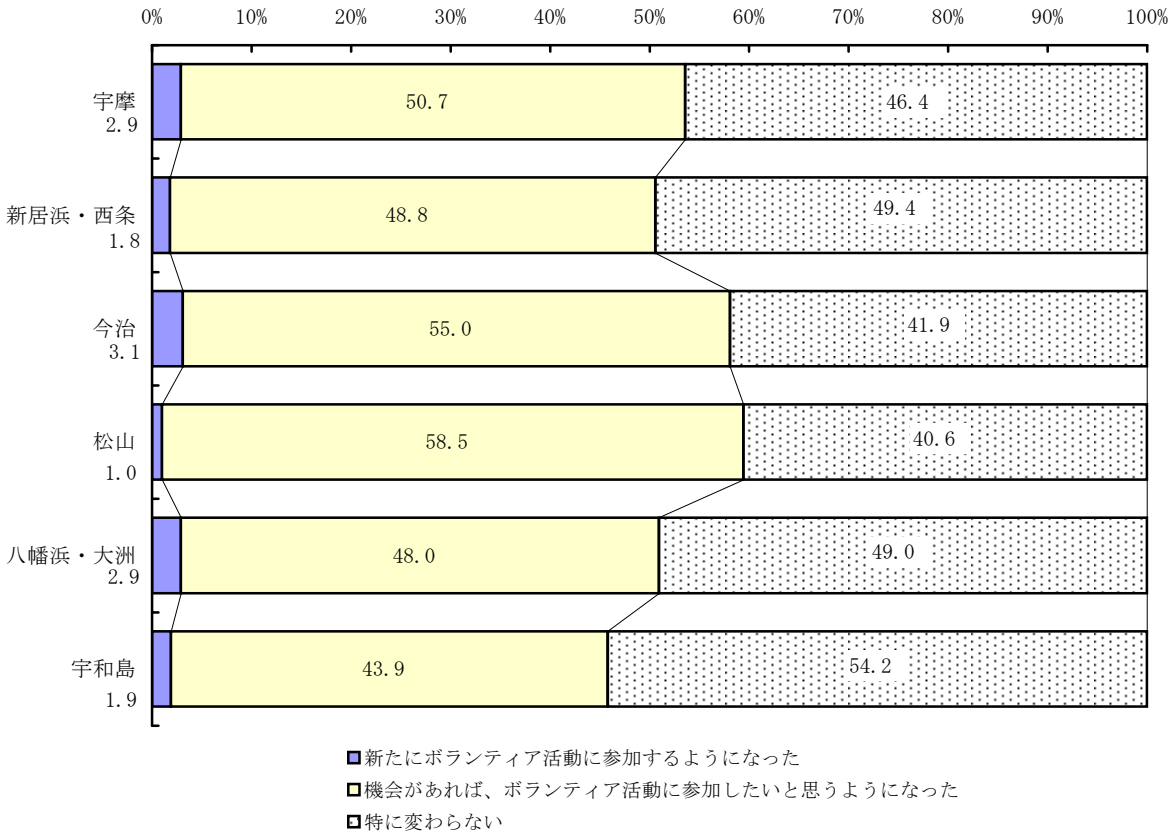
【職業別】

職業別にみると、「新たにボランティア活動に参加するようになった」と「機会があれば、ボランティア活動に参加したいと思うようになった」と答えた人の割合の合計は、勤め人が60.5%で最も多く、その他の職種が49.0%で最も少ない。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、「新たにボランティア活動に参加するようになった」と「機会があれば、ボランティア活動に参加したいと思うようになった」と答えた人の割合の合計は、松山圏域が59.5%で最も多く、宇和島圏域が45.8%で最も少ない。

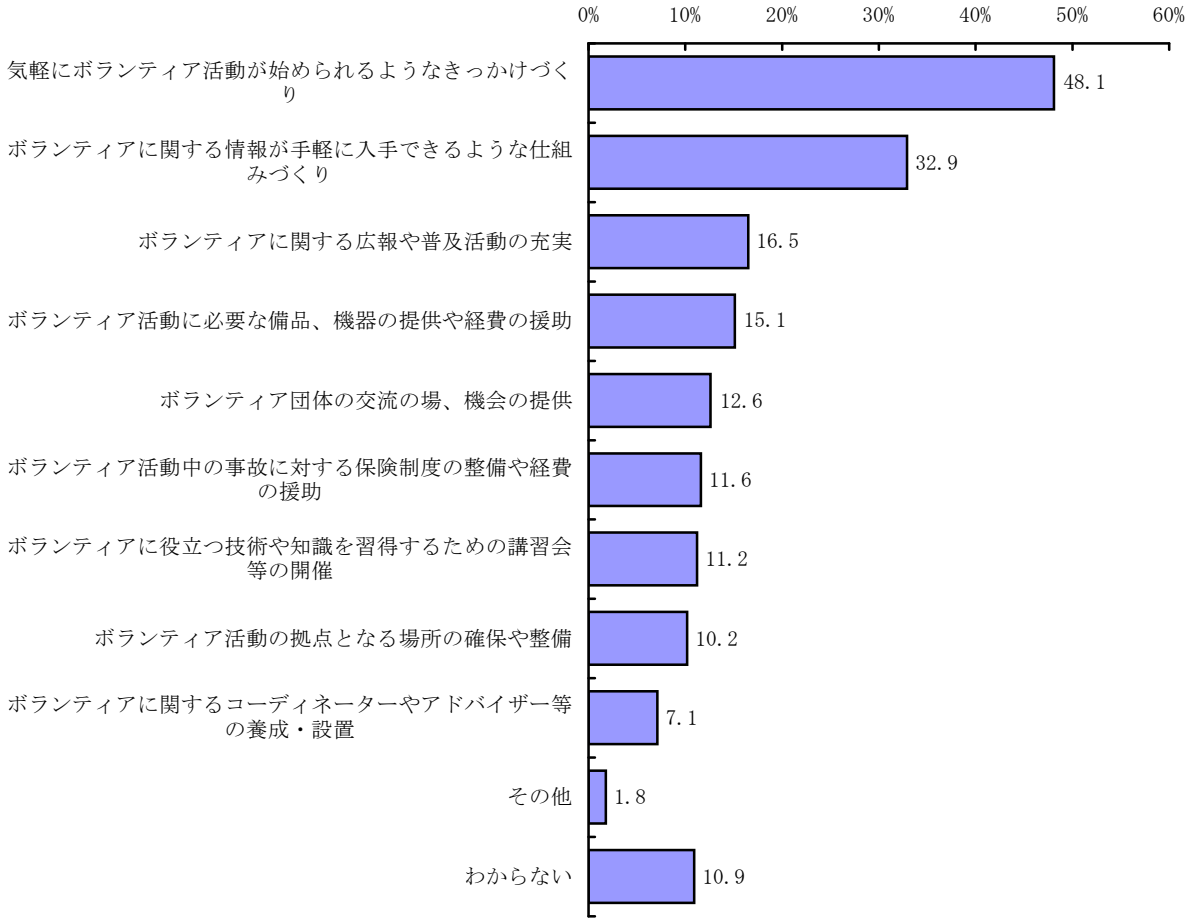


問３５－２　ボランティア活動の活性化への取組み

ボランティア活動の活性化を図るために、県はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。次の中から**<u>二つまで選んで</u>**番号を○で囲んでください。

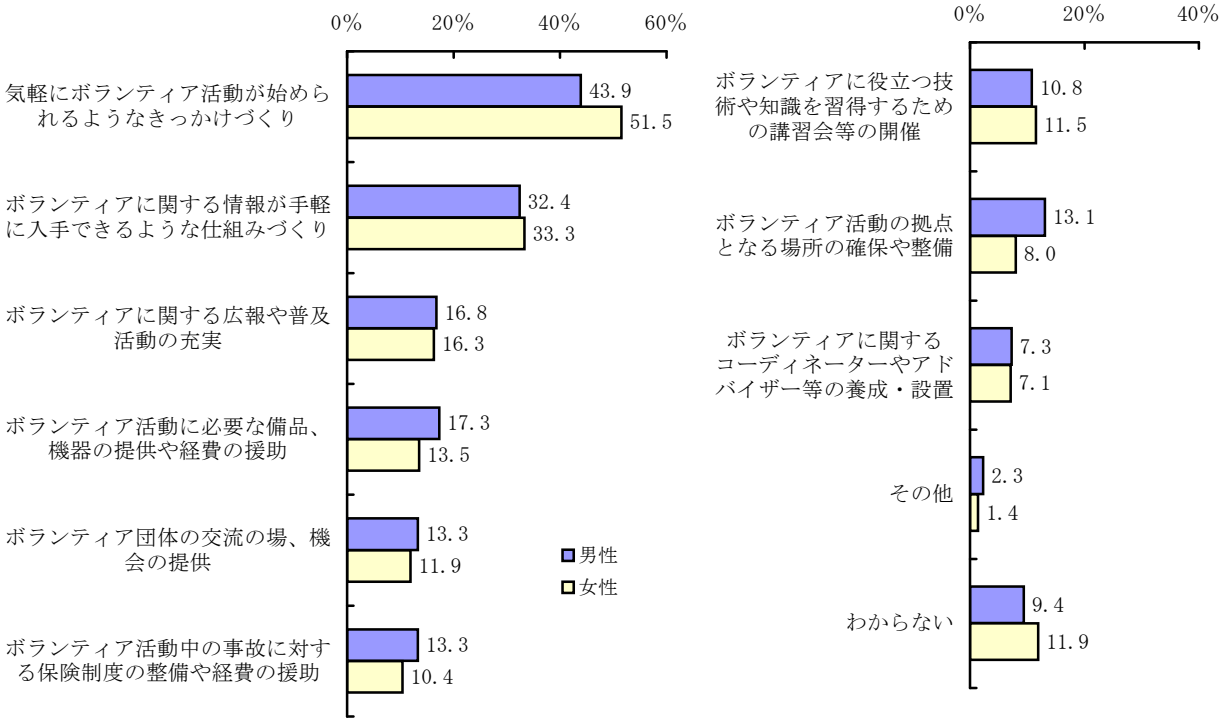
		（複数回答）　（%）
1	気軽にボランティア活動が始められるようなきっかけづくり	４８．１
2	ボランティアに関する情報が手軽に入手できるような仕組みづくり	３２．９
3	ボランティアに関するコーディネーターやアドバイザー等の養成・設置	７．１
4	ボランティア活動の拠点となる場所の確保や整備	１０．２
5	ボランティア活動に必要な備品、機器の提供や経費の援助	１５．１
6	ボランティアに関する広報や普及活動の充実	１６．５
7	ボランティア活動中の事故に対する保険制度の整備や経費の援助	１１．６
8	ボランティアに役立つ技術や知識を習得するための講習会等の開催	１１．２
9	ボランティア団体の交流の場、機会の提供	１２．６
10	その他	１．８
11	わからない	１０．９

ボランティア活動の活性化を図るために、県はどのようなことに力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「気軽にボランティア活動が始められるようなきっかけづくり」と答えた人の割合が48.1%で最も多く、以下「ボランティアに関する情報が手軽に入手できるような仕組みづくり」（32.9%）、「ボランティアに関する広報や普及活動の充実」（16.5%）、「ボランティア活動に必要な備品、機器の提供や経費の援助」（15.1%）などの順となっている。



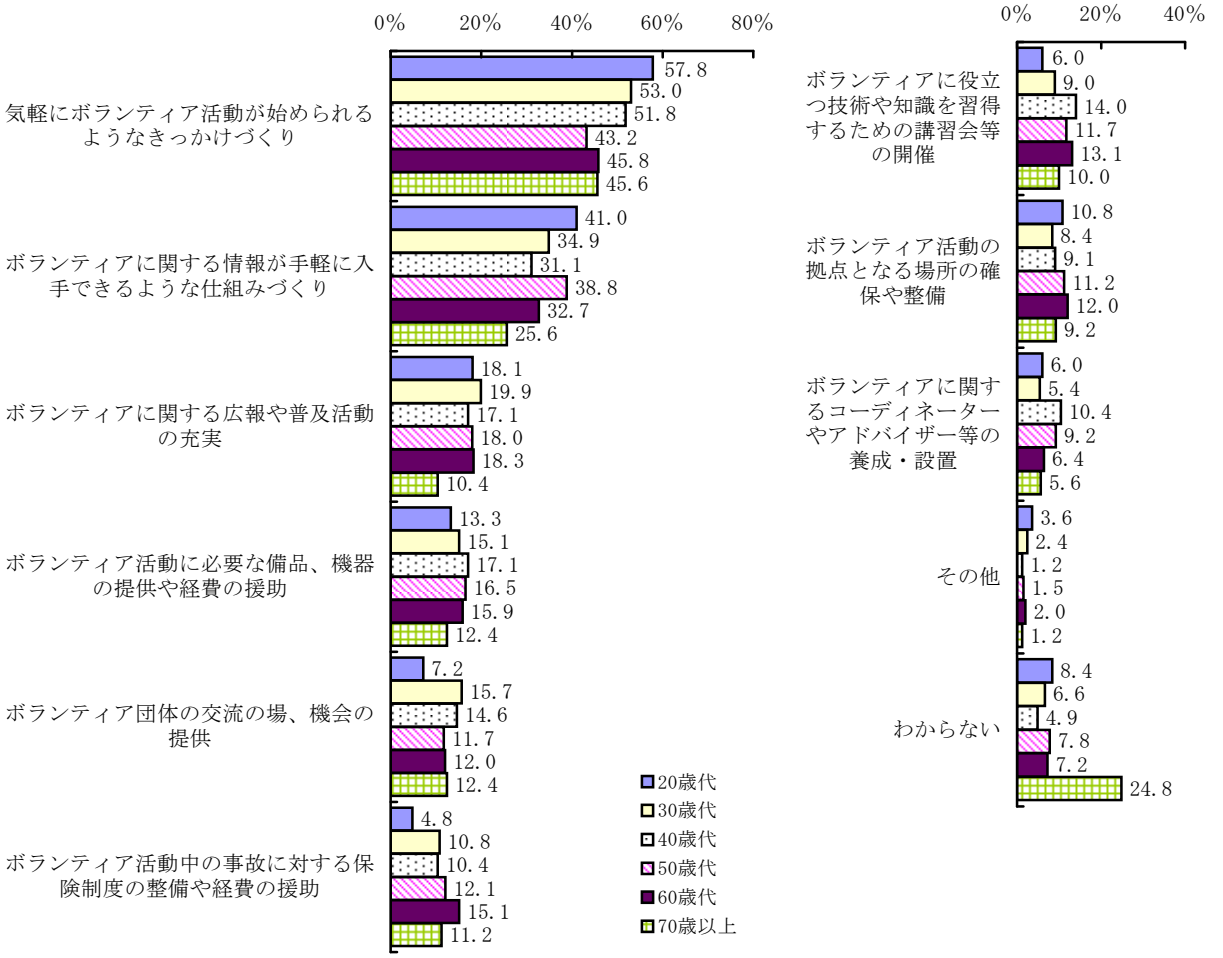
【性別】

性別にみると、男女共に「気軽にボランティア活動が始められるようなきっかけづくり」と答えた人の割合が最も多く、女性（51.5%）の方が男性（43.9%）より7.6ポイント多い。



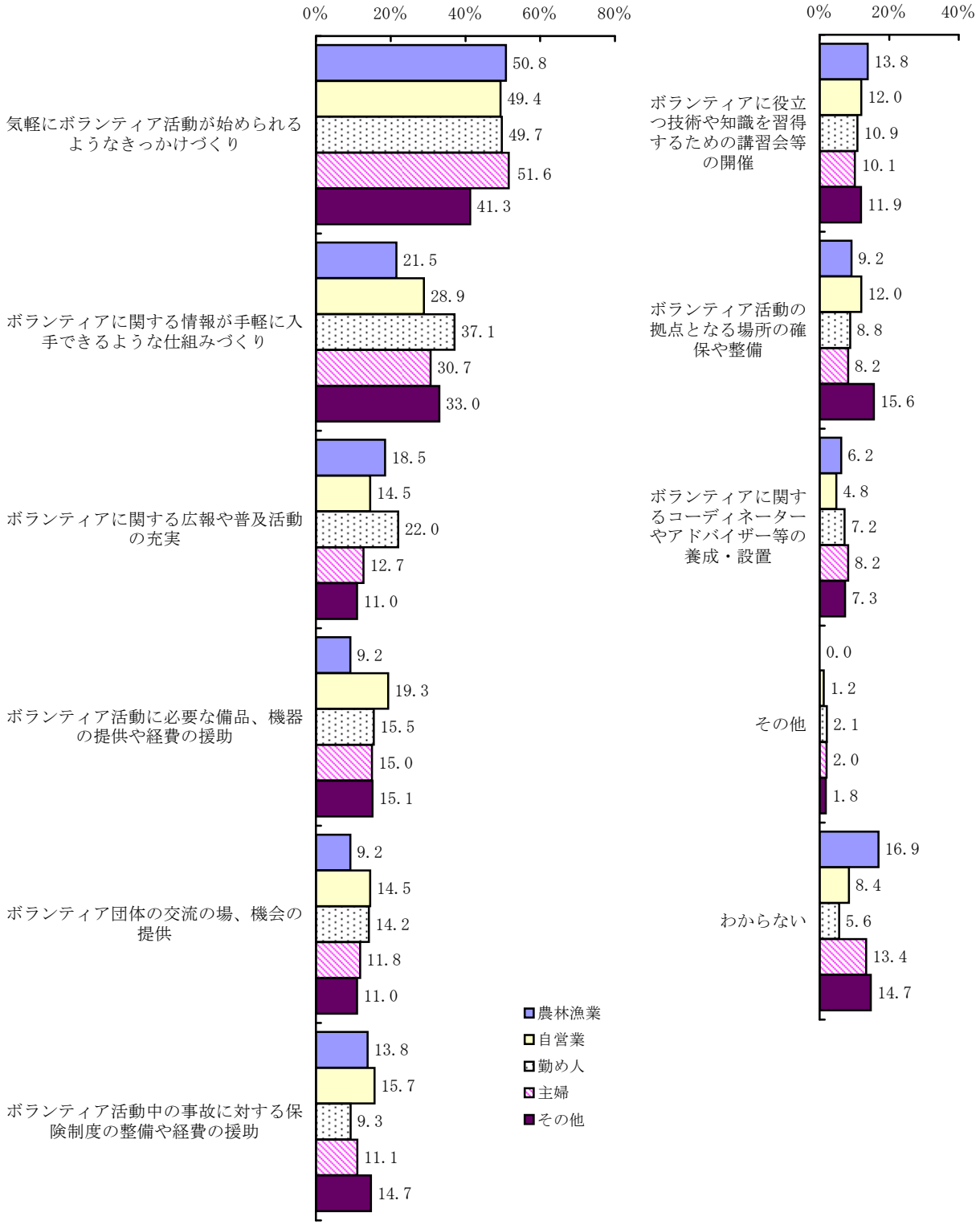
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「気軽にボランティア活動が始められるようなきっかけづくり」と答えた人の割合が最も多く、20歳代では57.8%と特に多い。



【職業別】

職業別にみると、全ての職種で「気軽にボランティア活動が始められるようなきっかけづくり」と答えた人の割合が最も多い。勤め人では「ボランティアに関する情報が手軽に入手できるような仕組みづくり」(37.1%)と「ボランティアに関する広報や普及活動の充実」（22.0%）が他の職種と比較して多い。



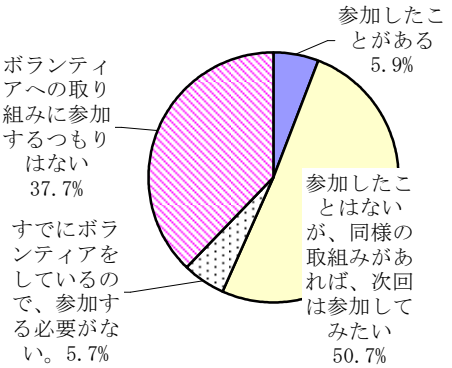
問３５－３　ボランティア活動への参加

県では、ボランティア活動への参加のきっかけづくりとして、「ボランティアキャンペーン（７月～９月）（１２月～１月）」を実施し、県内のボランティア募集情報を掲載した「ボランティアイベントブック」の配布により、県民の皆様のボランティア体験を促進しています。

これまでに**「イベントブック」や愛媛ボランティアネットで紹介したボランティア活動に参加**したことがありますか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

		（%）
１	参加したことがある	５．９
２	参加したことはないが、同様の取組みがあれば、次回は参加してみたい	５０．７
３	すでにボランティアをしているので、参加する必要がない	５．７
４	ボランティアへの取組みに参加するつもりはない	３７．７

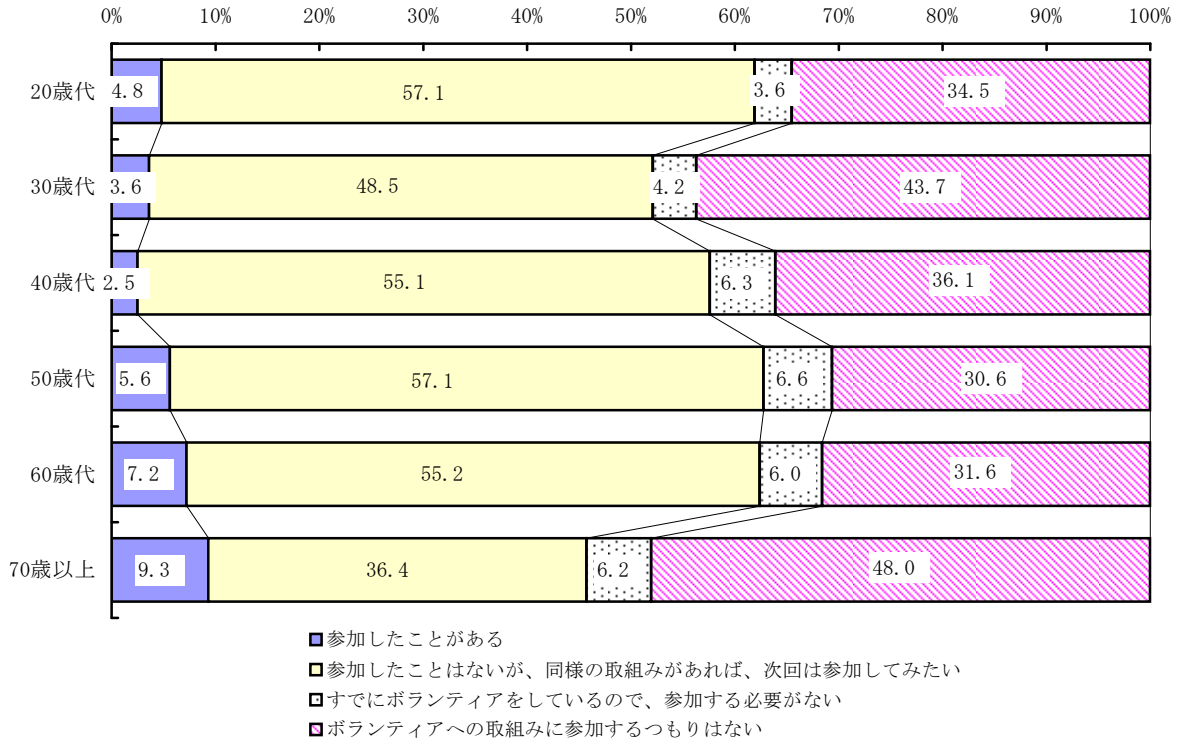
これまでに「ボランティアイベントブック」で紹介したボランティア活動に参加したことがあるかを聞いたところ、「参加したことはないが、同様の取組みがあれば、次回は参加してみたい」と答えた人の割合が50.7%で最も多く、その他「参加したことがある」（5.9%）、「すでにボランティアをしているので、参加する必要がない」（5.7%）、「ボランティアへの取り組みに参加するつもりはない」（37.7%）となっている。



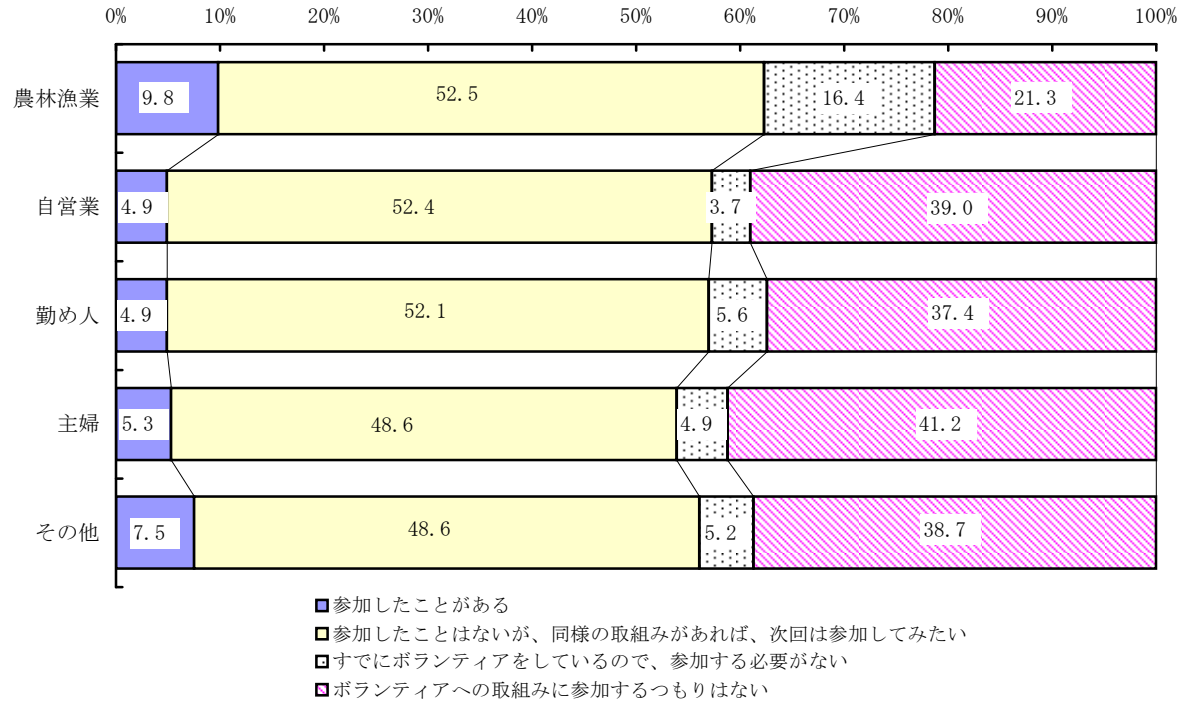
【年齢別】

年齢別にみると、70歳以上を除く全ての年齢層で「参加したことはないが、同様の取組みがあれば、次回は参加してみたい」と答えた人の割合が最も多く、これに「参加したことがある」と答えた人を加えた参加する意思のある人の割合は、20歳代（61.9%）、50歳代（62.7%）及び60歳代（62.4%）で多くなっている。

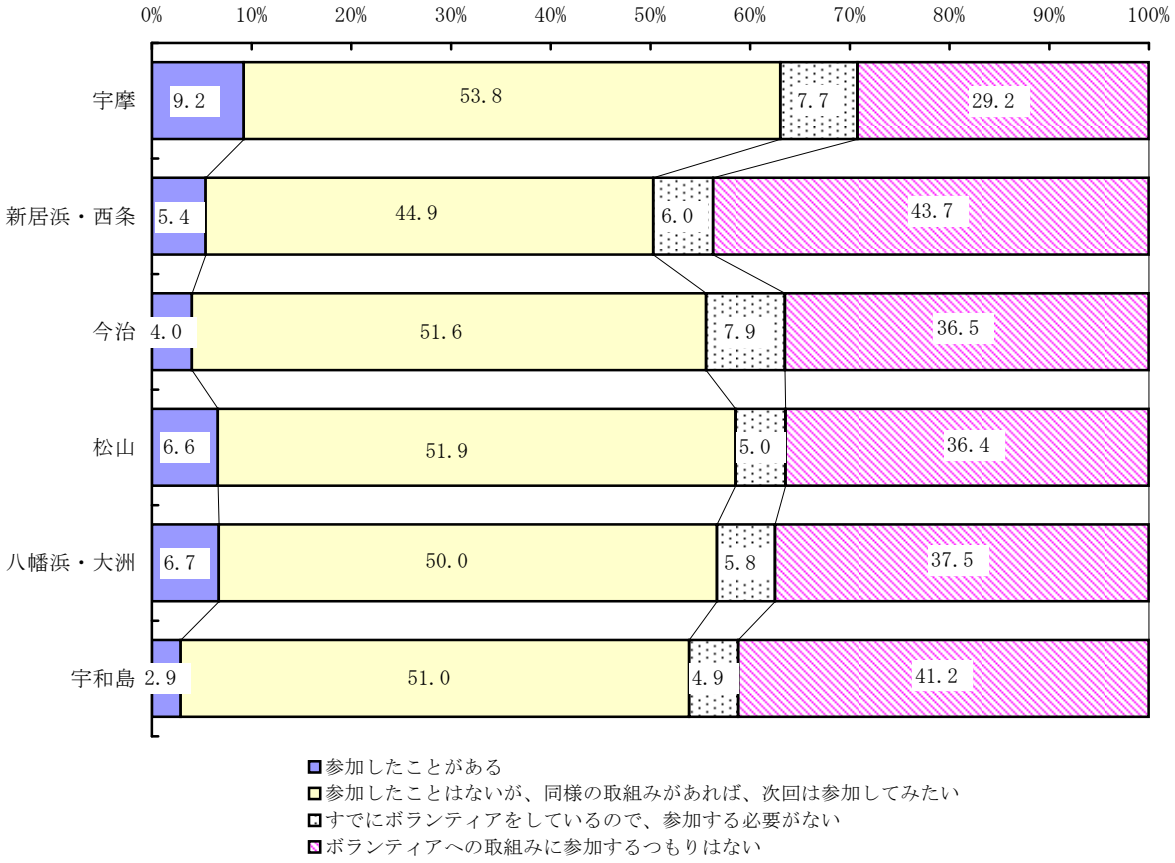
また、70歳以上では「参加したことがある」と答えた人の割合は9.3%と他の年齢層と比較して最も多いが、「ボランティアへの取り組みに参加するつもりはない」と答えた人の割合も48.0%で特に多い。



【職業別】
職業別にみると、全ての職種で「参加したことはないが、同様の取組みがあれば、次回は参加してみたい」と答えた人の割合が最も多く、これに「参加したことがある」と答えた人を加えた参加する意思のある人の割合は、農林漁業が62.3%で最も多い。



【生活圏域別】
生活圏域別にみると、全ての圏域で「参加したことはないが、同様の取組みがあれば、次回は参加してみたい」と答えた人の割合が最も多く、これに「参加したことがある」と答えた人を加えた参加する意思のある人の割合は、宇摩圏域が63.0%で最も多い。

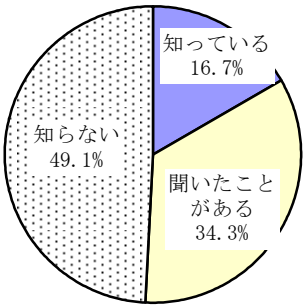


生物多様性の保全
問３６　「生物多様性」という言葉の認知度

「生物多様性」とは、地域には固有の自然があり、それぞれに特有の数多くの生き物が存在し、そしてそれらが様々な関係で繋がりあっている状態のことであり、我々は、こうした自然から衣食住に始まり、豊かな文化、災害防止などの安全・安心の基礎など、様々な恩恵（生態系サービス）を受けています。あなたは、「生物多様性」という言葉をご存知でしたか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

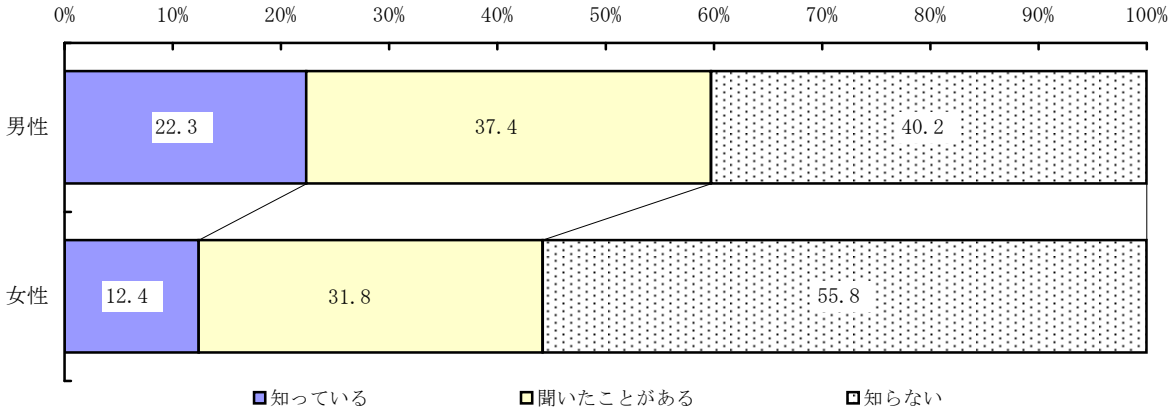
		(%)
1	知っている	１６．７
2	聞いたことがある	３４．３
3	知らない	４９．１

「生物多様性」という言葉を知っているかを聞いたところ、「知っている」と答えた人の割合が16.7%、「聞いたことがある」が34.3%、「知らない」が49.1%となっている。



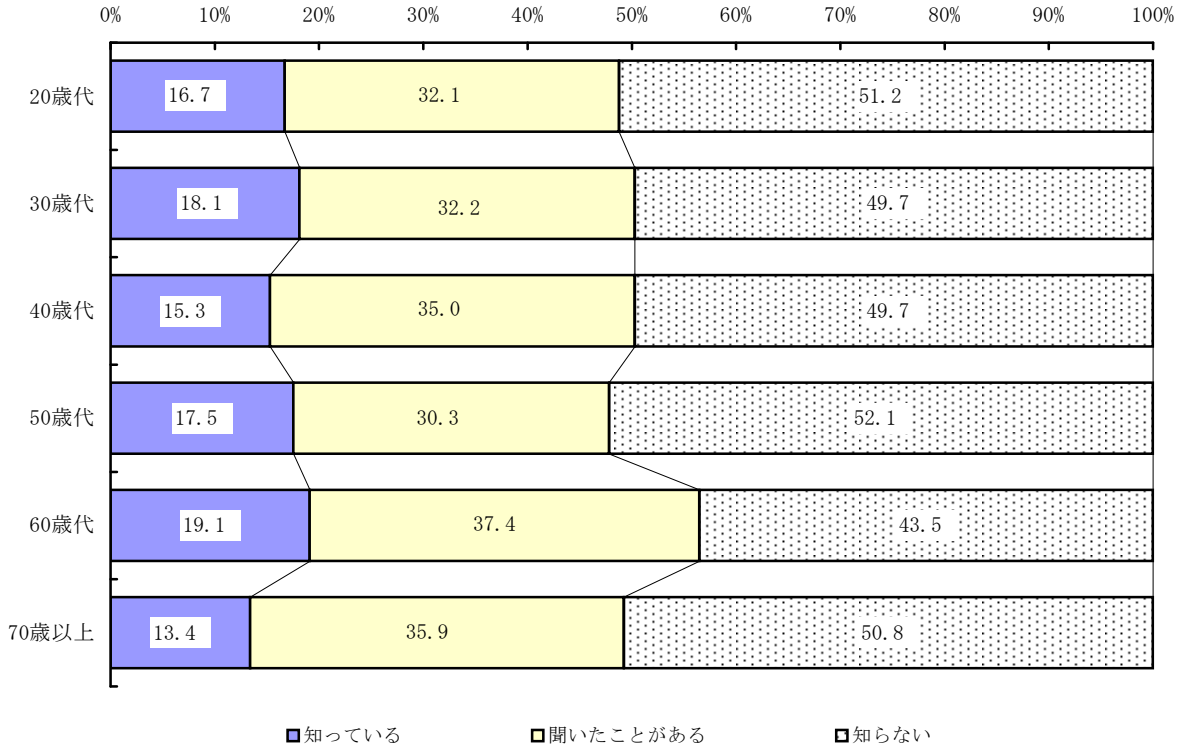
【性別】

性別にみると、「知っている」と答えた人の割合は、男性（22.3%）の方が女性（12.4%）より9.9ポイント多くなっており、逆に「知らない」と答えた人の割合は、男性（40.2%）の方が女性（55.8%）より15.6ポイント少ない。



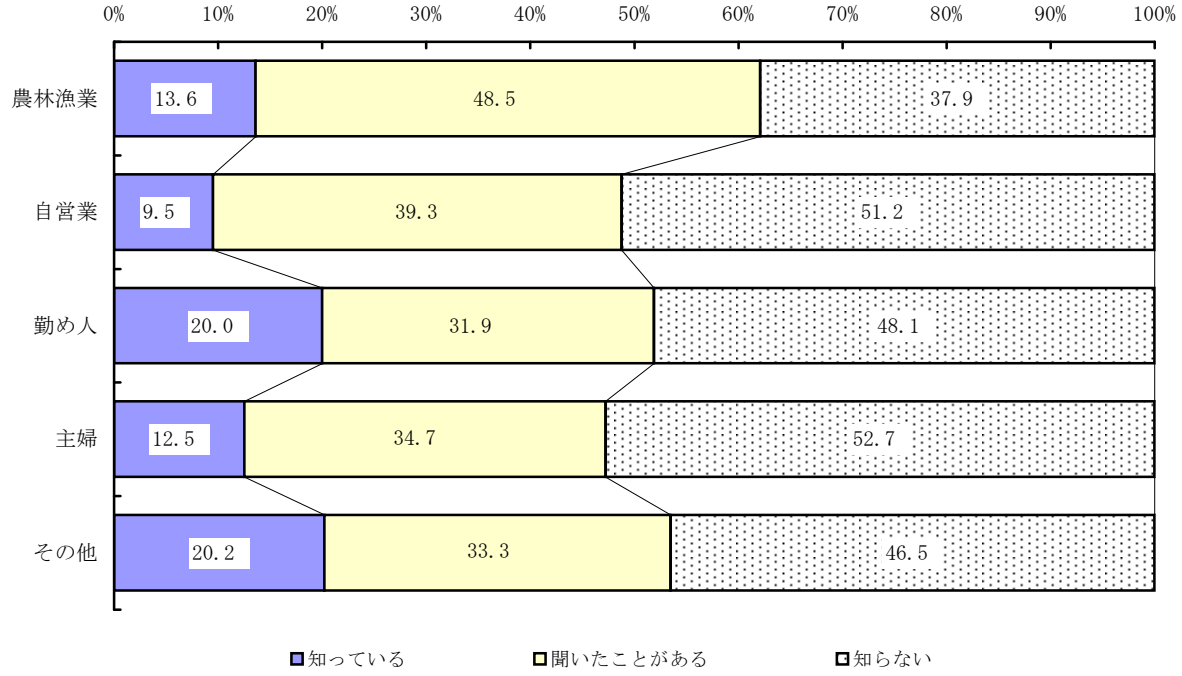
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「知らない」と答えた人の割合が最も多く、60歳代を除いて50%前後となっており、60歳代は「知っている」と答えた人の割合が19.1%で他の年齢層と比較して最も多い。



【職業別】

職業別にみると、「知っている」と答えた人の割合が、勤め人（20.0%）とその他（20.2%）で他の職種と比較して多くなっている。また、農林漁業においては「知っている」と答えた人は13.6%であるが、これに「聞いたことがある」（48.5%）を加えると62.1%となり、全職種の中で最も多い。



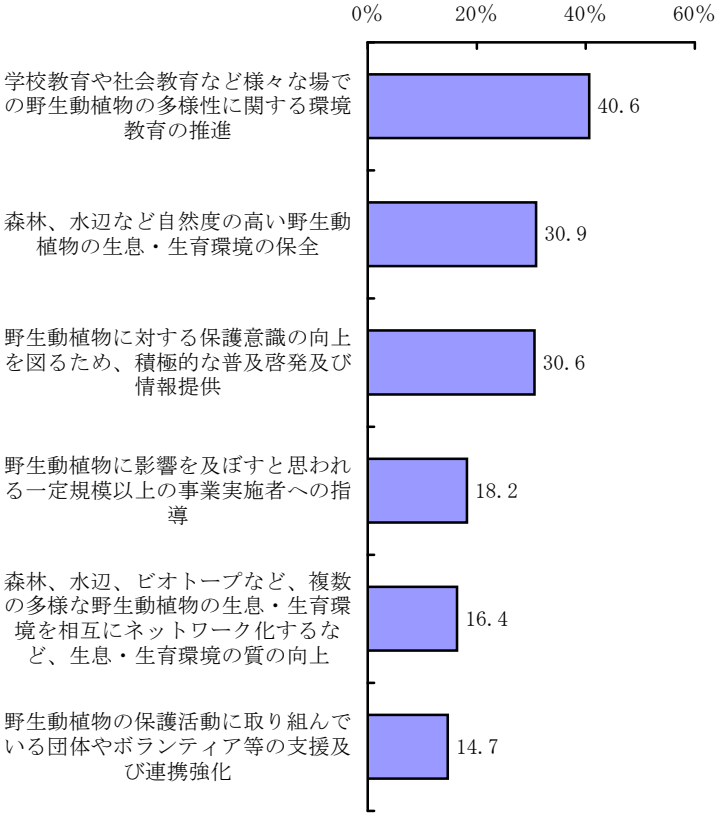
問３６－１　生物多様性の保全のための取組み（県が力を入れるべきことがら）

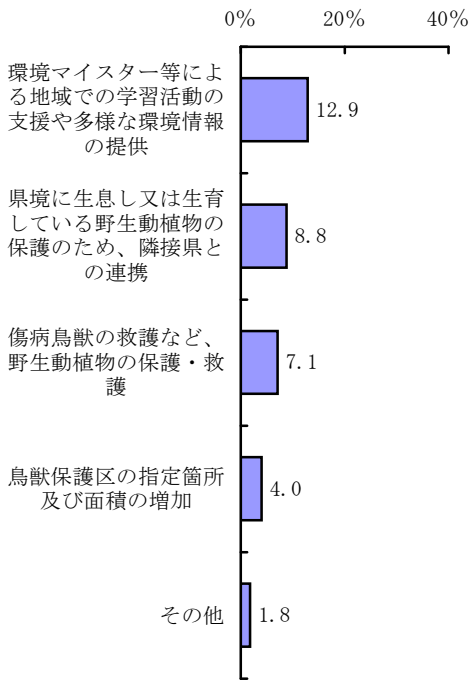
将来にわたって、生物多様性の保全を図っていくために、今後、県はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを**<u>二つまで選んで</u>**番号を○で囲んでください。

	（複数回答）　（%）
１　野生動植物に対する保護意識の向上を図るため、積極的な普及啓発及び情報提供	３０．６
２　環境マイスター（注１）等による地域での学習活動の支援や多様な環境情報の提供	１２．９
３　野生動植物に影響を及ぼすと思われる一定規模以上の事業実施者への指導	１８．２
４　森林、水辺など自然度の高い野生動植物の生息・生育環境の保全	３０．９
５　森林、水辺、ビオトープ（注２）など、複数の多様な野生動植物の生息・生育環境を相互にネットワーク化するなど、生息・生育環境の質の向上	１６．４
６　傷病鳥獣の救護など、野生動植物の保護・救護	７．１
７　鳥獣保護区の指定箇所及び面積の増加	４．０
８　学校教育や社会教育など様々な場での野生動植物の多様性に関する環境教育の推進	４０．６
９　野生動植物の保護活動に取り組んでいる団体やボランティア等の支援及び連携強化	１４．７
10　県境に生息し又は生育している野生動植物の保護のため、隣接県との連携	８．８
11　その他	１．８

注１　環境マイスター：地域の環境学習活動等に派遣される県内の登録された研究者等。
注２　ビ オ ト ー プ：生物が住んでいる場所のことで、生息場所とも言われる。

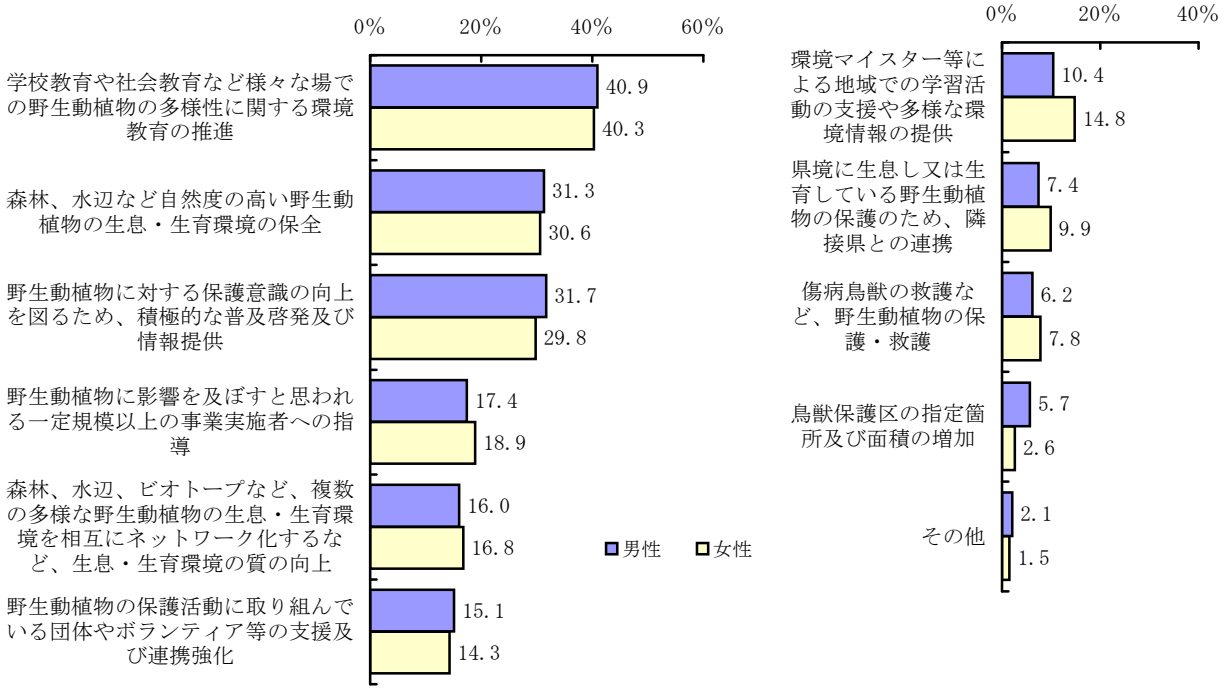
生物多様性の保全を図っていくために、今後、県はどのようなことに力を入れていくべきだと思うかを聞いたところ、「学校教育や社会教育など様々な場での環境教育の推進」と答えた人の割合が40.6%で最も多く、以下「森林、水辺など自然度の高い野性動植物の生息・生育環境の保全」（30.9%）、「野生動物に対する保護意識の向上を図るため、積極的な普及啓発及び情報提供」（30.6%）、「野生動植物に影響を及ぼすと思われる一定規模以上の事業者への指導」（18.2%）などの順となっている。





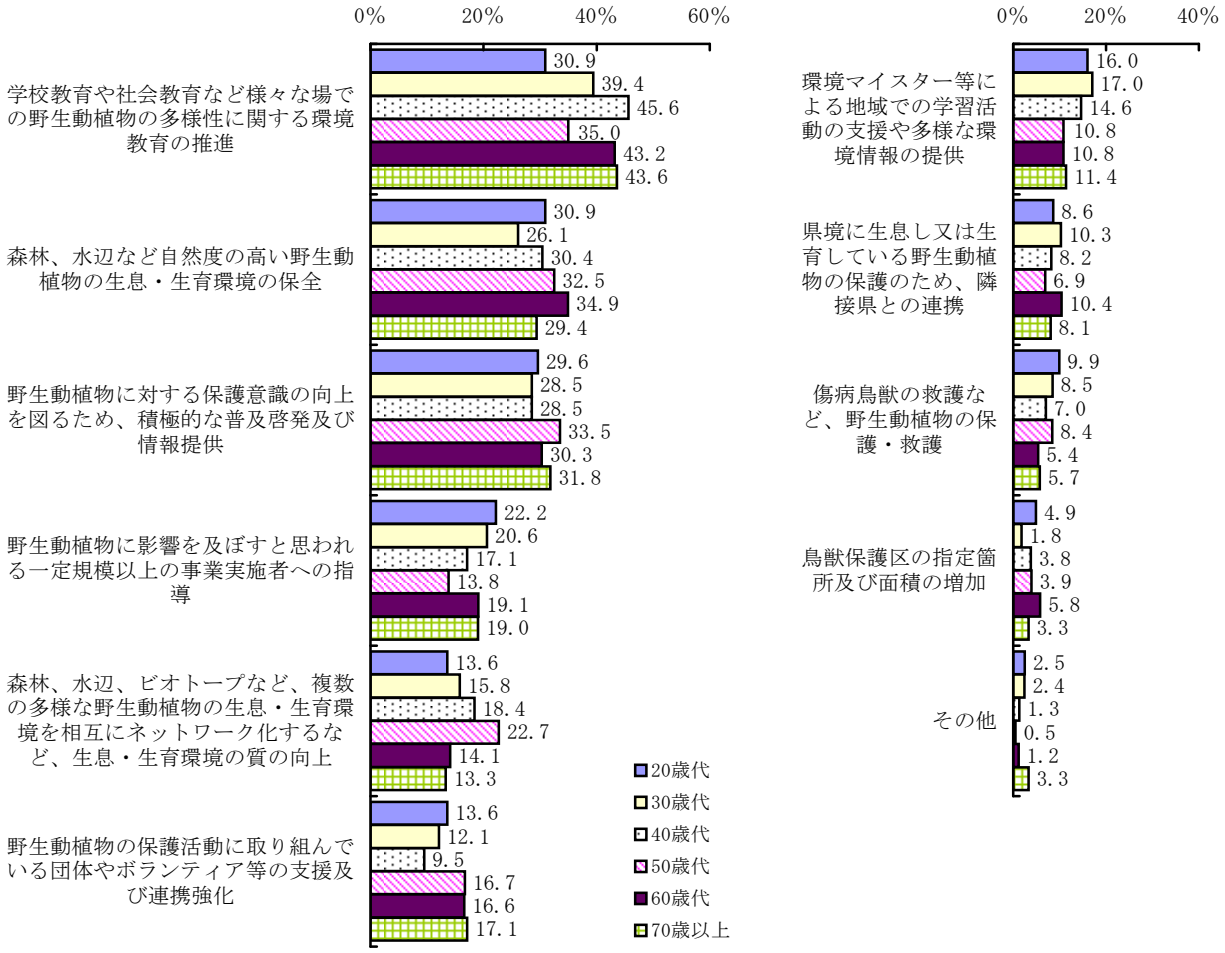
【性別】

性別にみると、男女共に 「学校教育や社会教育など様々な場での野生動植物の多様性に関する教育の推進」と答えた人の割合が最も多い。全体的に男女間の差は大きくない。



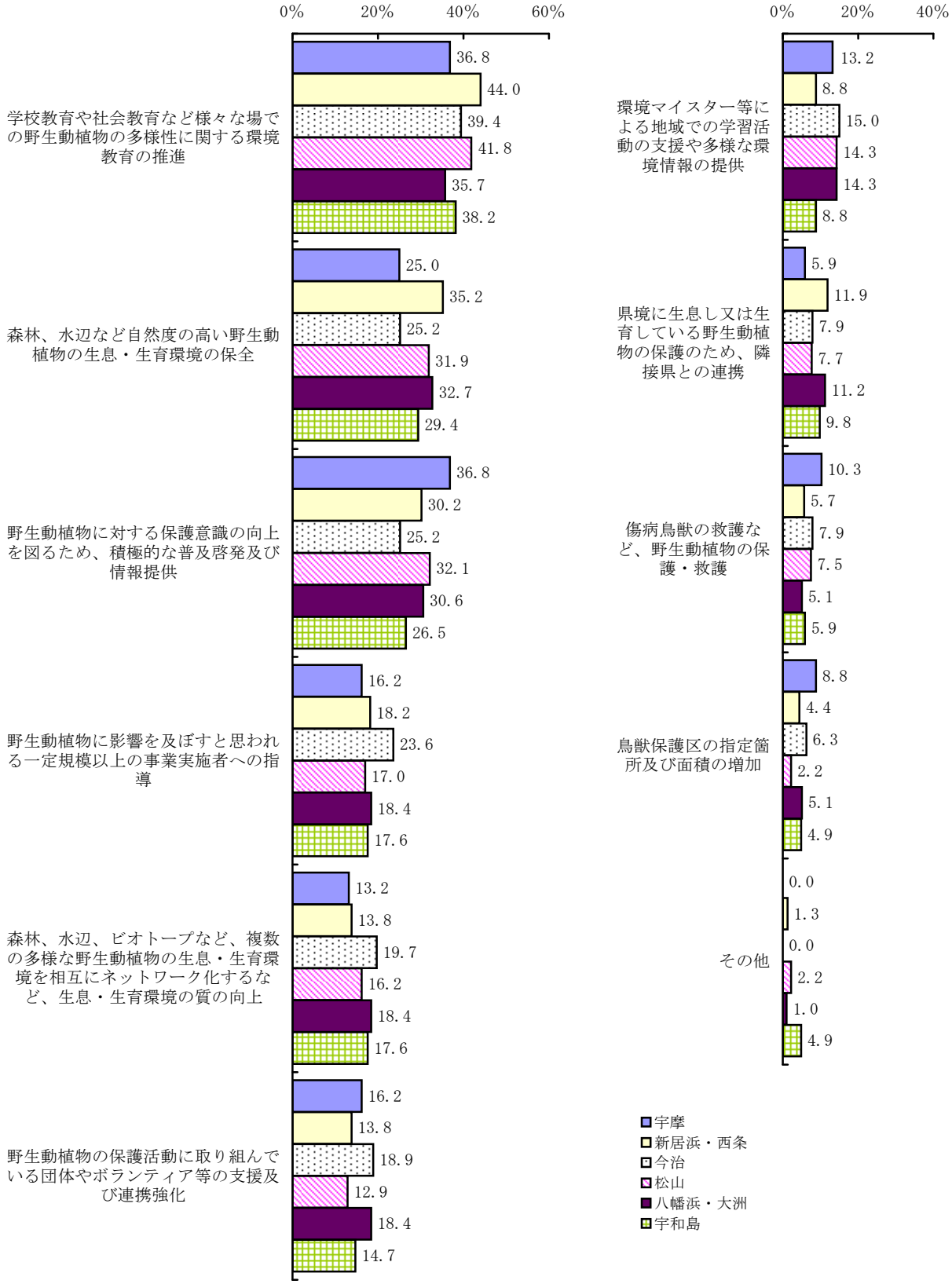
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「学校教育や社会教育など様々な場での野生動植物の多様性に関する環境教育の推進」が最も多いが、20歳代では、同項目と「森林、水辺など自然度の高い野性動植物の生息・生育環境の保全」と答えた人の割合が同率で最も多い。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域において「学校教育や社会教育など様々な場での野生動植物の多様性に関する環境教育の推進」が最も多いが、宇摩圏域では、同項目と「野生動植物に対する保護意識の向上を図るため、積極的な普及啓発及び情報提供」と答えた人の割合が同率で最も多い。

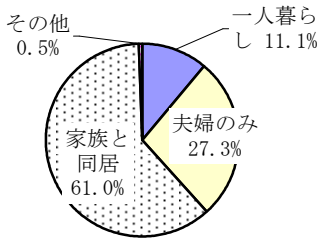


日常の買い物環境
問３７　家族(世帯)構成

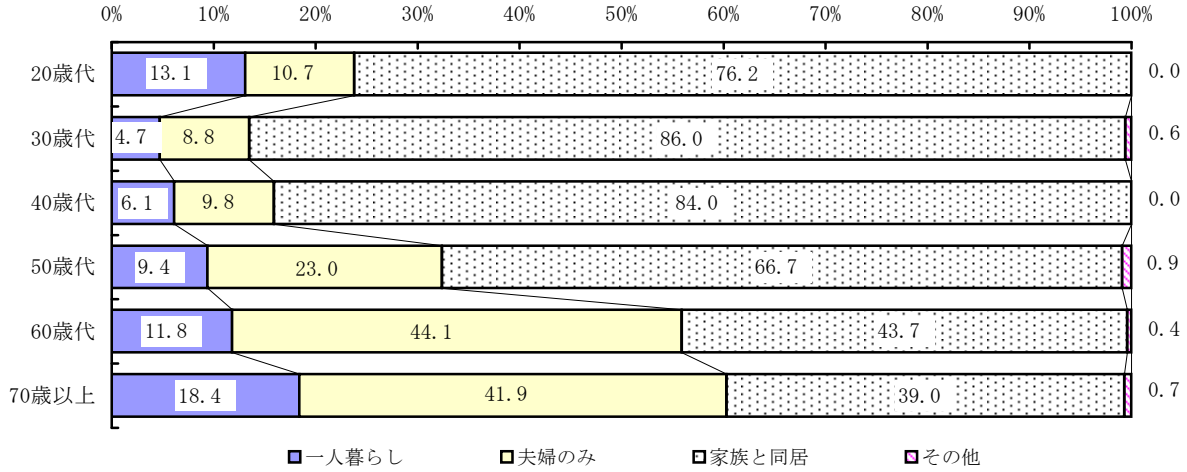
近年、身近な食料品店の廃業や商店街の衰退により、日常の買い物に不便を感じている方が増えています。
あなたの家族（世帯）構成について、次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

		(%)
1	一人暮らし	１１．１
2	夫婦のみ	２７．３
3	家族と同居	６１．０
4	その他	０．５

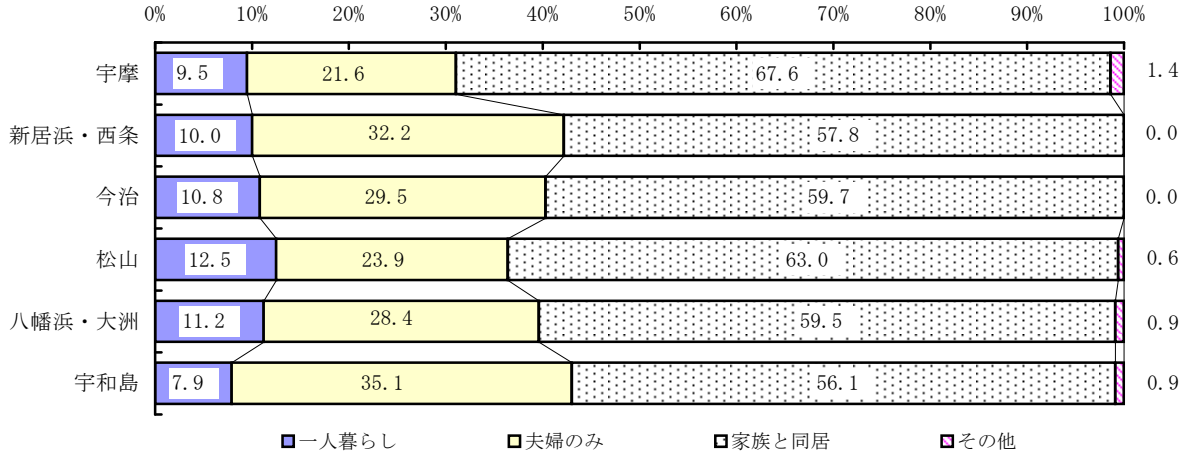
日常の買い物環境を尋ねるため、その前提となる家族(世帯)構成について聞いたところ、「家族と同居」と答えた人の割合が61.0%と最も多く、以下「夫婦のみ」（27.3%）、「一人暮らし」（11.1%）、その他（0.5%）の順となっている。



【年齢別】
年齢別にみると、20歳代～50歳代は「家族と同居」と答えた人が大部分を占めるが、60歳代及び70歳代では「夫婦のみ」と答えた人の割合が大きく増えて、「家族と同居」と答えた人の割合を若干上回っている。また、70歳以上では、「一人暮らし」と答えた人の割合が18.4%で他の年齢層と比較して特に多い。



【生活圏域別】
生活圏域別にみると、全ての圏域で「家族と同居」と答えた人の割合が最も多い。宇和島圏域では「一人暮らし」が7.9%で他の圏域と比較して少なく、「夫婦のみ」が35.1%で比較的多い。

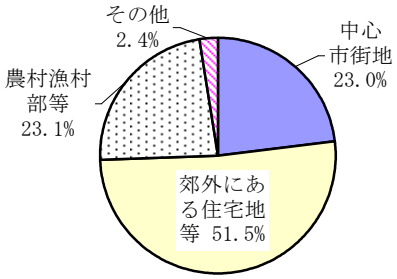


問３７－１　居住地

あなたは、どちらにお住まいですか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

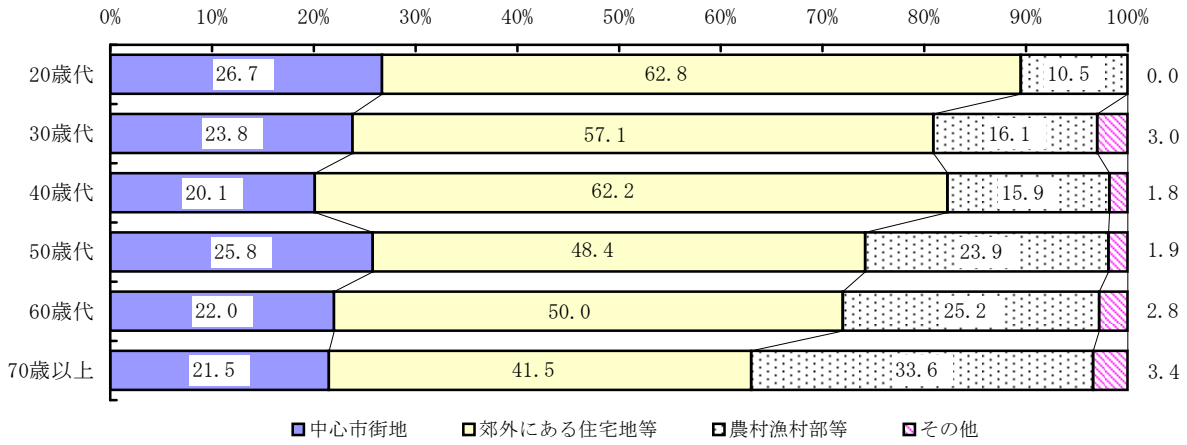
		(%)
１	中心市街地（商業者や都市機能が集積している地域）	２３．０
２	郊外にある住宅地等	５１．５
３	農村漁村部等	２３．１
４	その他	２．４

居住地について聞いたところ、「郊外にある住宅地等」と答えた人の割合が51.5%で最も多く、以下「農村漁村部等」（23.1%）、「中心市街地」（23.0%）、その他（2.4%）の順となっている。



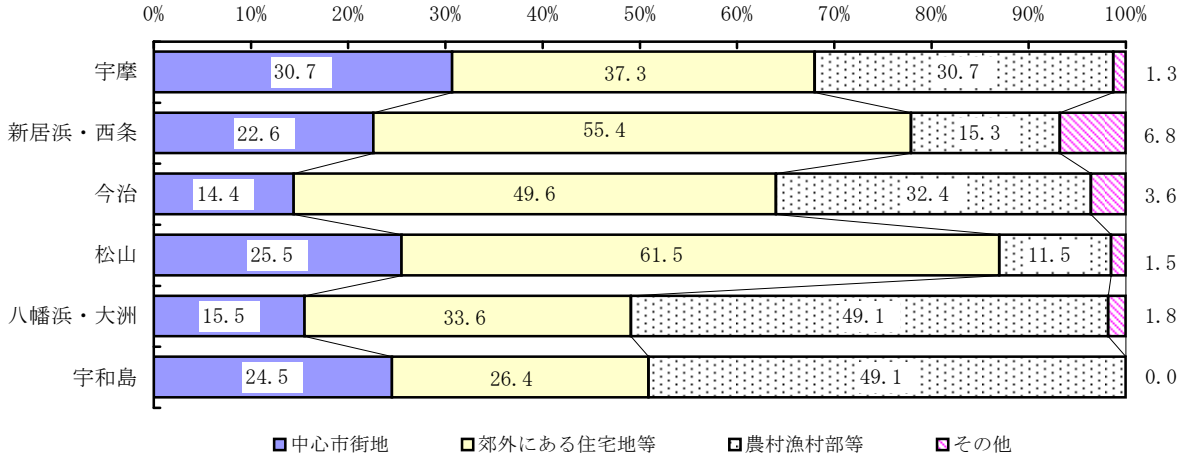
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「郊外にある住宅地等」と答えた人の割合が最も多いが、「農村漁村部等」と答えた人の割合は50歳代以上で多い。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、圏域ごとに傾向に違いがあり、宇摩圏域では「中心市街地」、「郊外にある住宅地等」及び「農村漁村部等」と答えた人の割合が全て30%台、新居浜・西条圏域、今治圏域及び松山圏域では、他の圏域と比較して「郊外にある住宅地等」と答えた人の割合が多く、松山圏域では61.5%で特に多い。また、八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域では、「農村漁村部等」と答えた人の割合が最も多く、両圏域共に49.1%となっている。

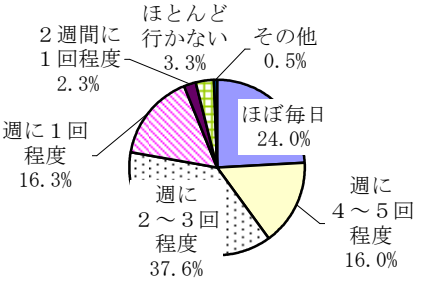


問３７－２　買い物に出かける回数

あなたが、食料品や日用品など普段の生活に必要な買い物にどのくらい出かけますか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

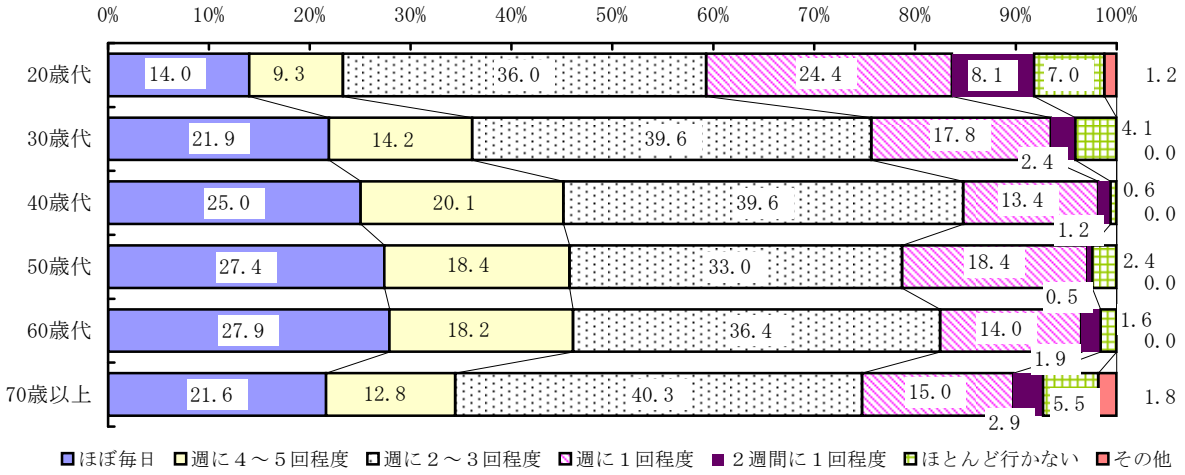
		(%)
1	ほぼ毎日	２４．０
2	週に４～５回程度	１６．０
3	週に２～３回程度	３７．６
4	週に１回程度	１６．３
5	２週間に１回程度	２．３
6	ほとんど行かない	３．３
7	その他	０．５

買物に出かける回数について聞いたところ、「週に２～３回程度」と答えた人の割合が37.6%で最も多く、以下「ほぼ毎日」（24.0%）、「週１回程度」（16.3%）、「週に４～５回程度」（16.0%）などの順となっている。



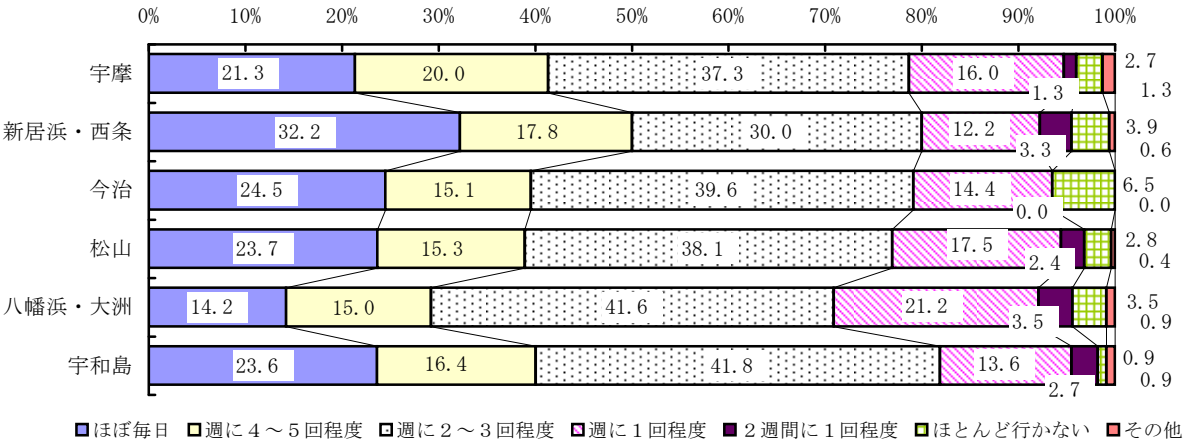
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「週に２～３回程度」と答えた人の割合が最も多い。20歳代では「週に１回程度」が24.4%で２番目に多く、30歳以上では「ほぼ毎日」が２番目に多い。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、新居浜・西条圏域を除く全ての圏域で「週に２～３回程度」と答えた人の割合が最も多い。新居浜・西条圏域では「ほぼ毎日」が最も多い。

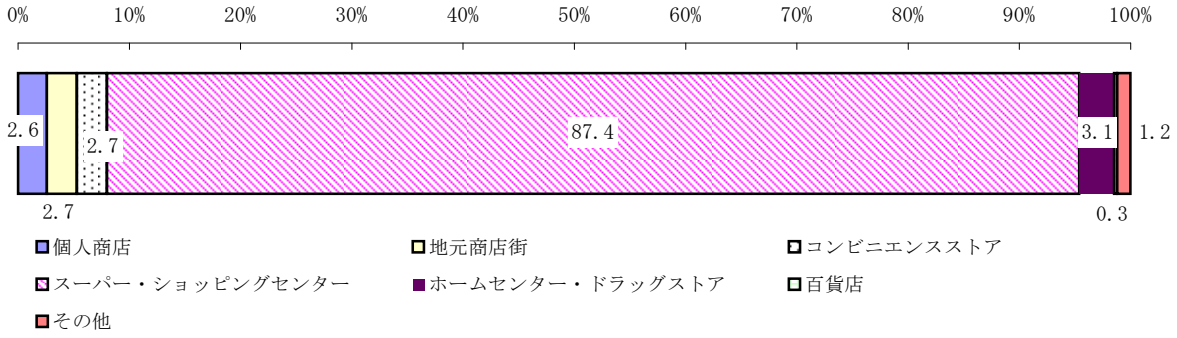


問３７－３　買い物に出かける最寄りの店

あなたが、食料品や日用品など普段の生活に必要な買い物に出かける最寄りのお店はどこですか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

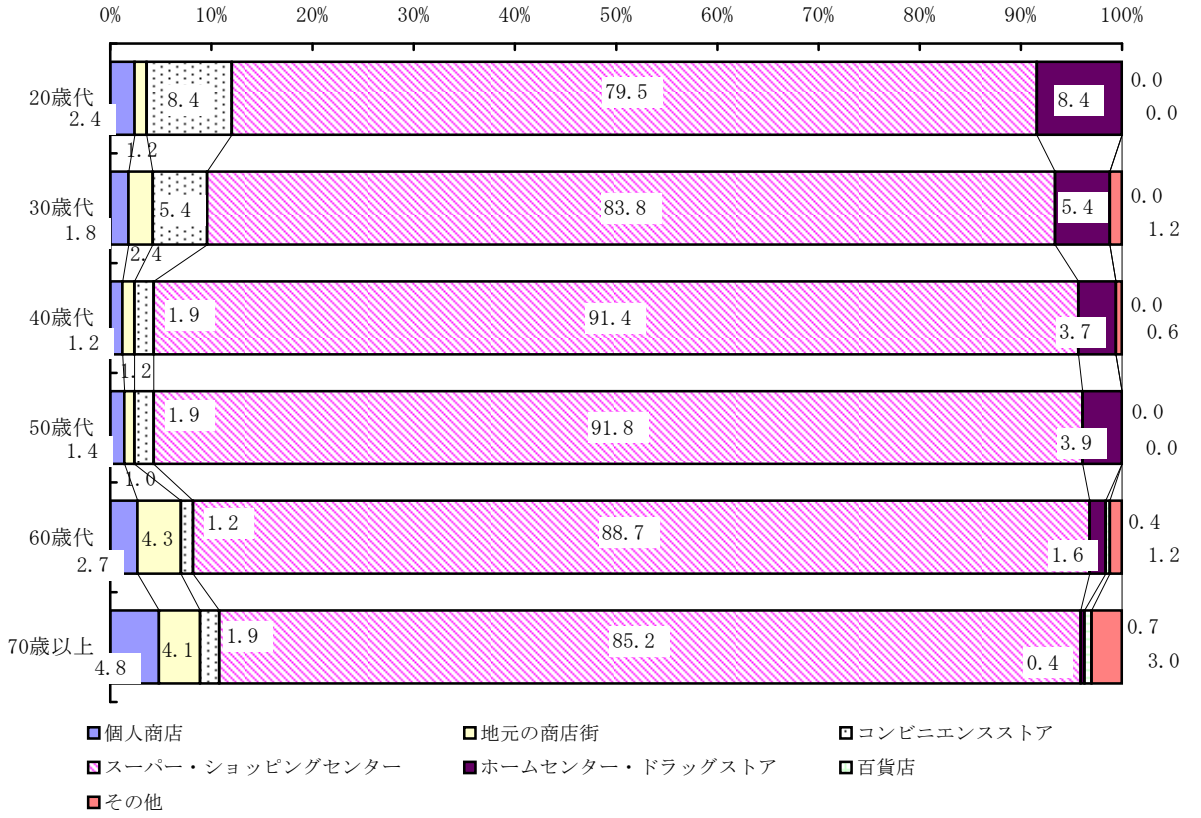
		(%)
1	個人商店	２．６
2	地元の商店街	２．７
3	コンビニエンスストア	２．７
4	スーパー・ショッピングセンター	８７．４
5	ホームセンター・ドラッグストア	３．１
6	百貨店	０．３
7	その他	１．２

買物に出かける最寄りの店について聞いたところ、「スーパー・ショッピングセンター」と答えた人が87.4%と大部分を占めている。その他「ホームセンター・ドラッグストア」（3.1%）、地元の商店街（2.7%）、コンビニエンスストア（2.7%）、個人商店（2.6%）となっている。



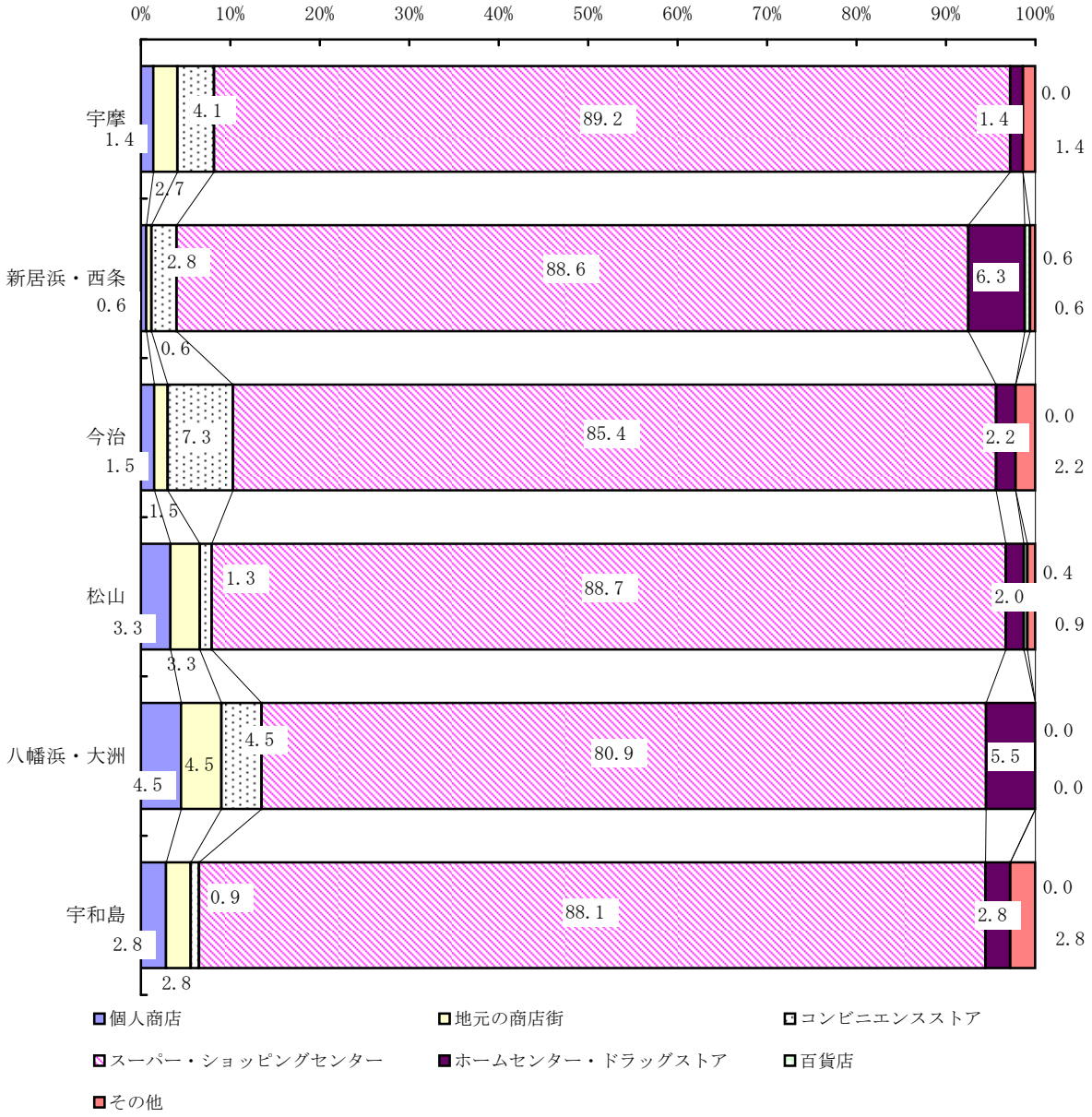
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「スーパー・ショッピングセンター」と答えた人が大部分を占めている。20歳代では「コンビニエンスストア」及び「ホームセンター・ドラッグストア」と答えた人の割合が共に8.4%で比較的多く、60歳代及び70歳以上では「個人商店」及び「地元の商店街」が比較的多い。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「スーパー・ショッピングセンター」と答えた人が大部分を占めている。新居浜・西条圏域では「ホームセンター・ドラックストア」と答えた人の割合が6.3%で他の圏域と比較して多く、八幡浜・大洲圏域では「個人商店」(4.5%)、「地元の商店街」(4.5%)及び「ホームセンター・ドラッグストア」(5.5%)と答えた人の割合が比較的多い。

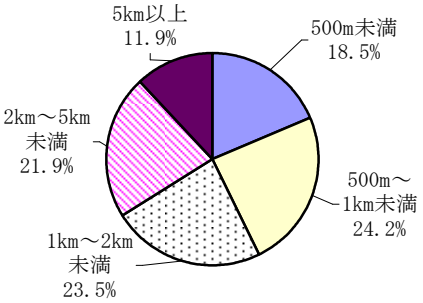


問３７－４　店までの距離

問37-3で回答したお店まで、およそどのくらいの距離がありますか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

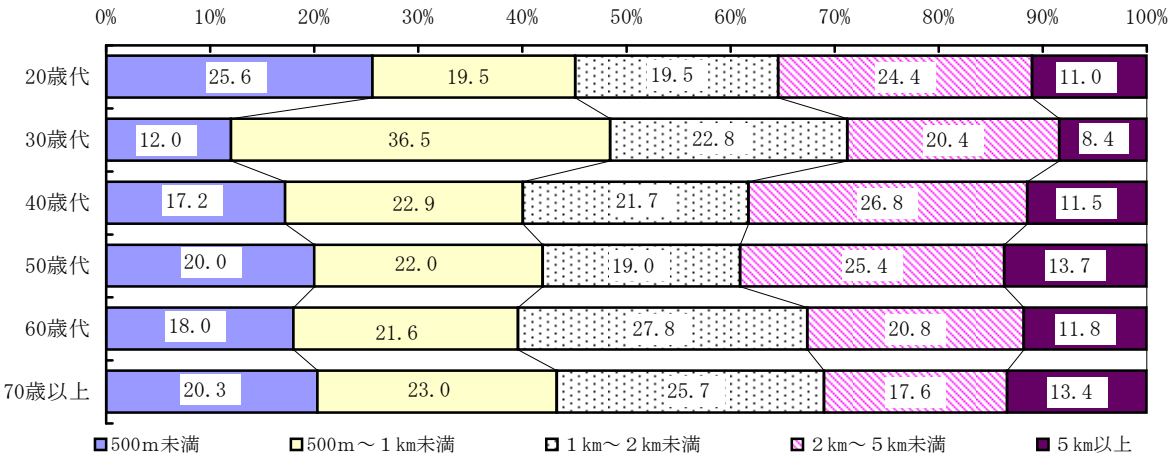
		(%)
1	５００ｍ未満	１８．５
2	５００ｍ～１ｋｍ未満	２４．２
3	１ｋｍ～２ｋｍ未満	２３．５
4	２ｋｍ～５ｋｍ未満	２１．９
5	５ｋｍ以上	１１．９

問37－3で回答した最寄のお店までの距離を聞いたところ、「500ｍ～１km未満」と答えた人の割合が24.2%で最も多く、以下「１km～２km未満」(23.5%)、「２km～５km未満」(21.9%)、「500ｍ未満」（18.5%）、「５km以上」(11.9%)となっている。



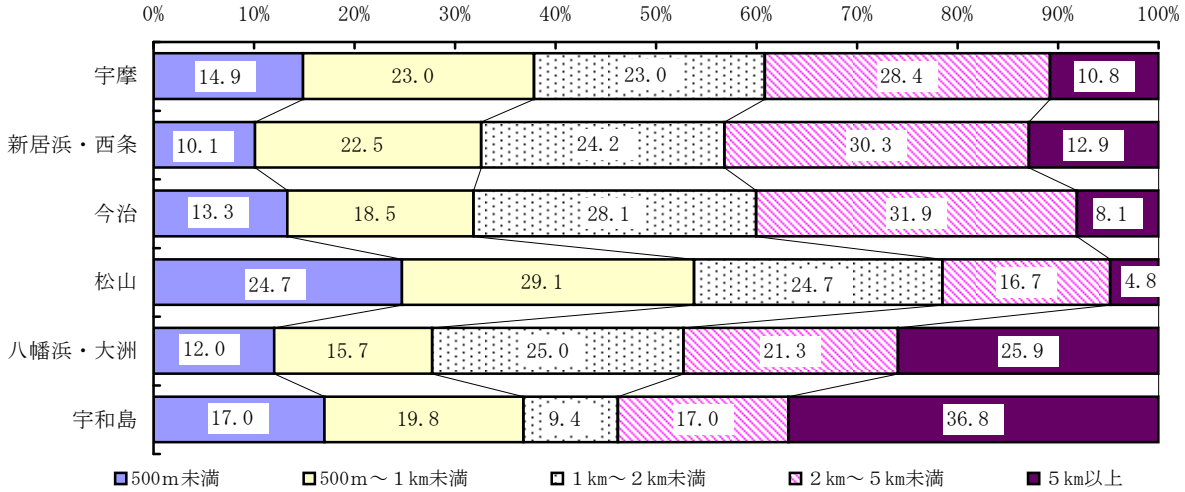
【年齢別】

年齢別に見ると、「500ｍ未満」と「500ｍ～１km未満」と答えた人の割合の合計は、30歳代がやや多いものの年齢層による大きな差はない。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、「500ｍ未満」と「500ｍ～１km未満」と答えた人の割合の合計は、松山圏域（53.8%）が特に多く、八幡浜・大洲圏域（27.7%）で少ない。また、八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域では「５km以上」と答えた人の割合が最も多い。

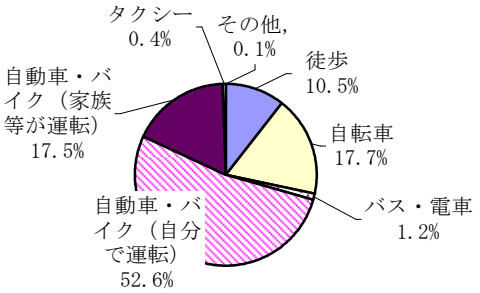


問３７－５　店までの移動手段

問37-3で回答したお店まで、主にどのような移動手段で行きますか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください。

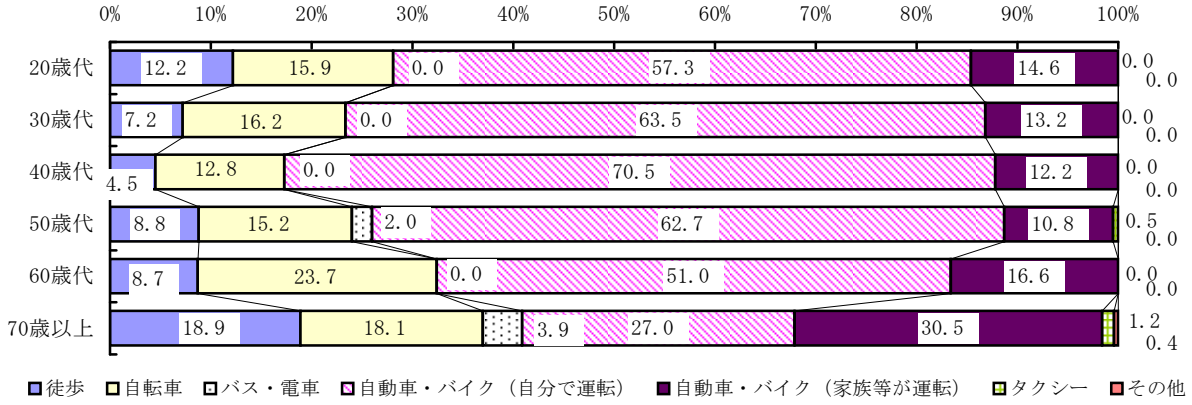
		(%)
1	徒　歩	１０．５
2	自転車	１７．７
3	バス・電車	１．２
4	自動車・バイク（自分で運転）	５２．６
5	自動車・バイク（家族等が運転）	１７．５
6	タクシー	０．４
7	その他	０．１

問37-3で回答した最寄のお店までの移動手段を聞いたところ、「自転車・バイク（自分で運転）」と答えた人の割合が52.6%で最も多く、以下「自転車」(17.7%)、「自動車・バイク（家族等が運転）」(17.5%)、「徒歩」（10.5%）、「バス・電車」(1.2%)、「タクシー」(0.4%)の順となっている。



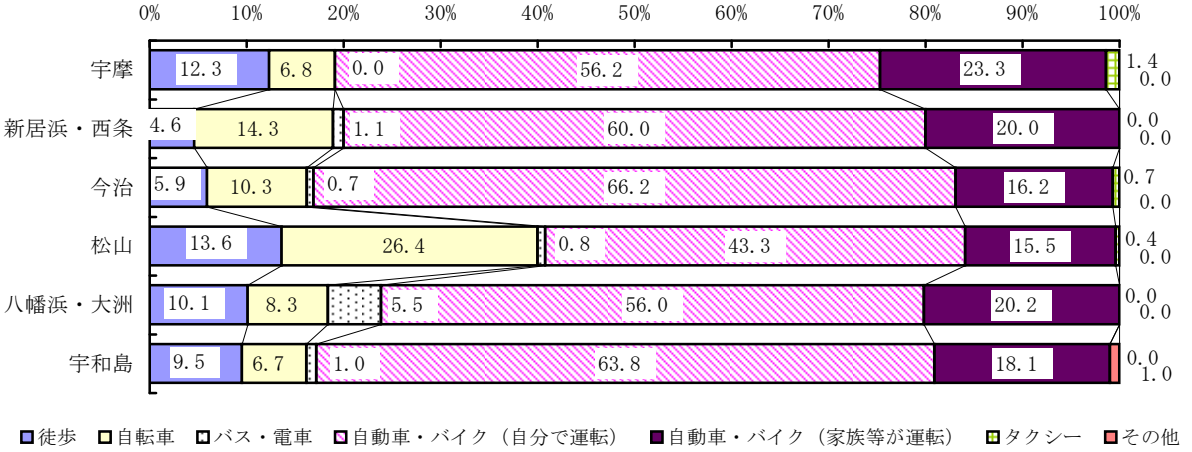
【年齢別】

年齢別に見ると、70歳を除く全ての年齢層で「自転車・バイク（自分で運転）」と答えた人の割合が最も多いが、70歳以上では「自転車・バイク（家族等が運転）」が30.5%で最も多く、「徒歩」（18.9%）も他の年齢層と比較して多い。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「自動車・バイク（自分で運転）」と答えた人の割合が最も多いが、松山圏域では43.3%で他の圏域と比較して少なく、「自転車」が26.4%で比較的多い。



問３７－６　買い物における不便さ
問３７－７　不便を感じることについて

あなたが、普段、食料品や日用品の買い物において、不便を感じていることはありますか。次の中から**一つ選んで**番号を○で囲んでください

		(%)
1	不便を感じている	１７．３
2	不便を感じていない	８２．７

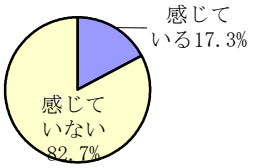
（問３７－７）

不便を感じていることについて、次の中から**いくつでも選んで**番号を○で囲んでください。

（回答者＝１９３人）（複数回答）

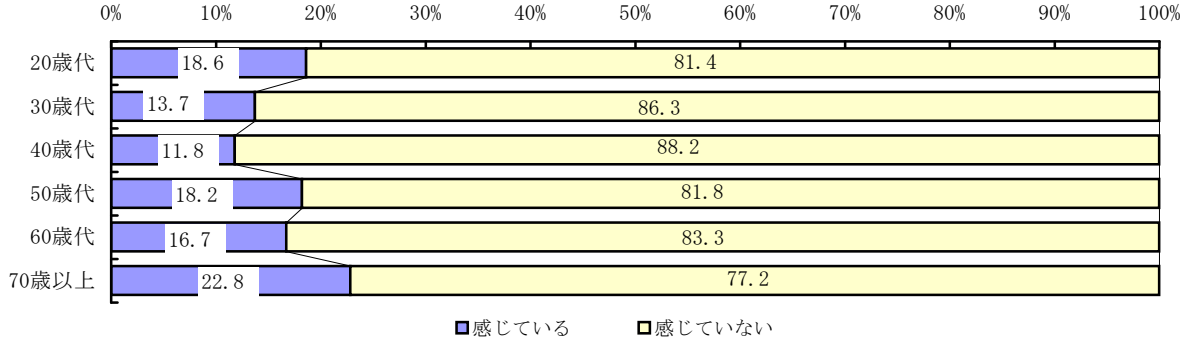
		(%)
1	歩いていける距離にお店がない	６７．４
2	歩いて買い物に行くことが困難	２０．２
3	近くにあったお店がなくなった	２４．４
4	自動車・バイクなどの交通手段がない	６．２
5	バス・電車などの交通の便が悪い	３１．１
6	バス・電車などの交通費が高い	１２．４
7	バス・電車などの交通機関がなくなった、又は便が悪くなった	５．７
8	買い物を手伝ってくれる人（家族等）がいない	７．８
9	重い物が持てないため、一度に少量しか購入できない	１４．５
10	買い物に行く時間にお店が開いていない	９．８
11	その他	８．８

普段の食料品や日用品の買い物において、不便を感じているかを聞いたところ、「感じている」と答えた人の割合が17.3%、「感じていない」と答えた人の割合が82.7%となっている。



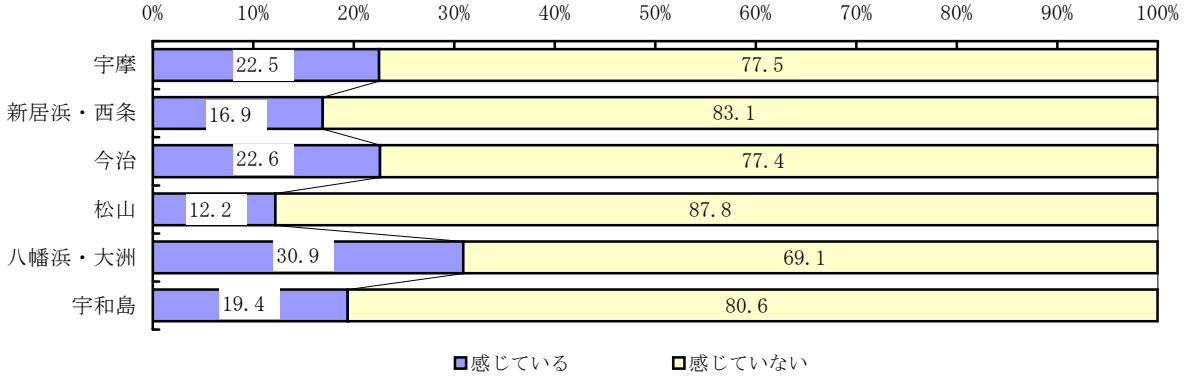
【年齢別】

年齢別にみると、「感じている」と答えた人の割合は、70歳代で22.8%で他の年齢層と比較して多く、30歳代（13.7%）及び40歳代（11.8%）は比較的少ない。



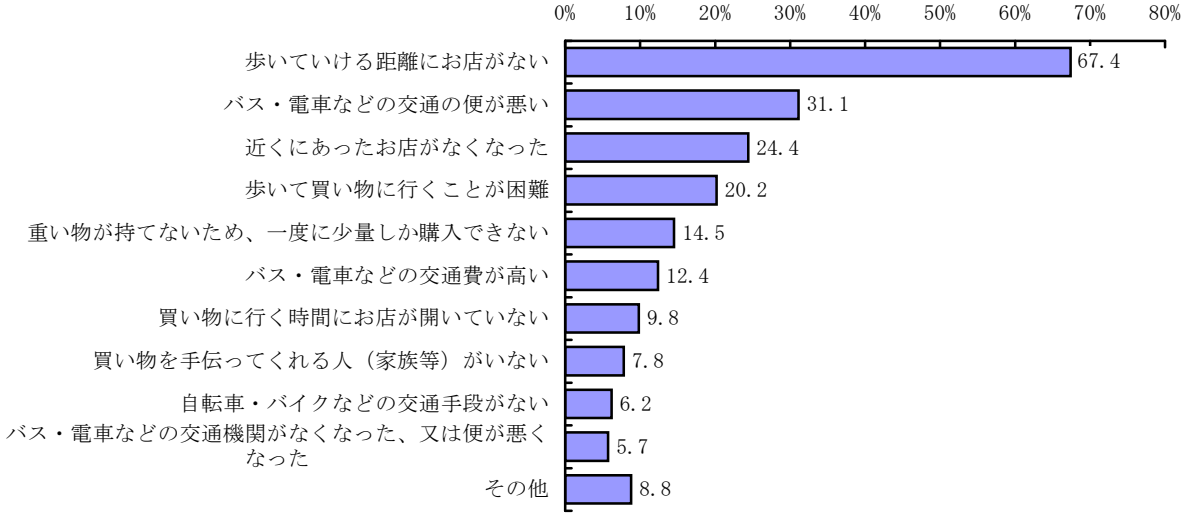
【生活圏域別】

生活圏域別にみると、「感じている」と答えた人の割合は、八幡浜・大洲圏域で30.9%と他の圏域と比較して多く、松山圏域では12.2%で比較的少ない。



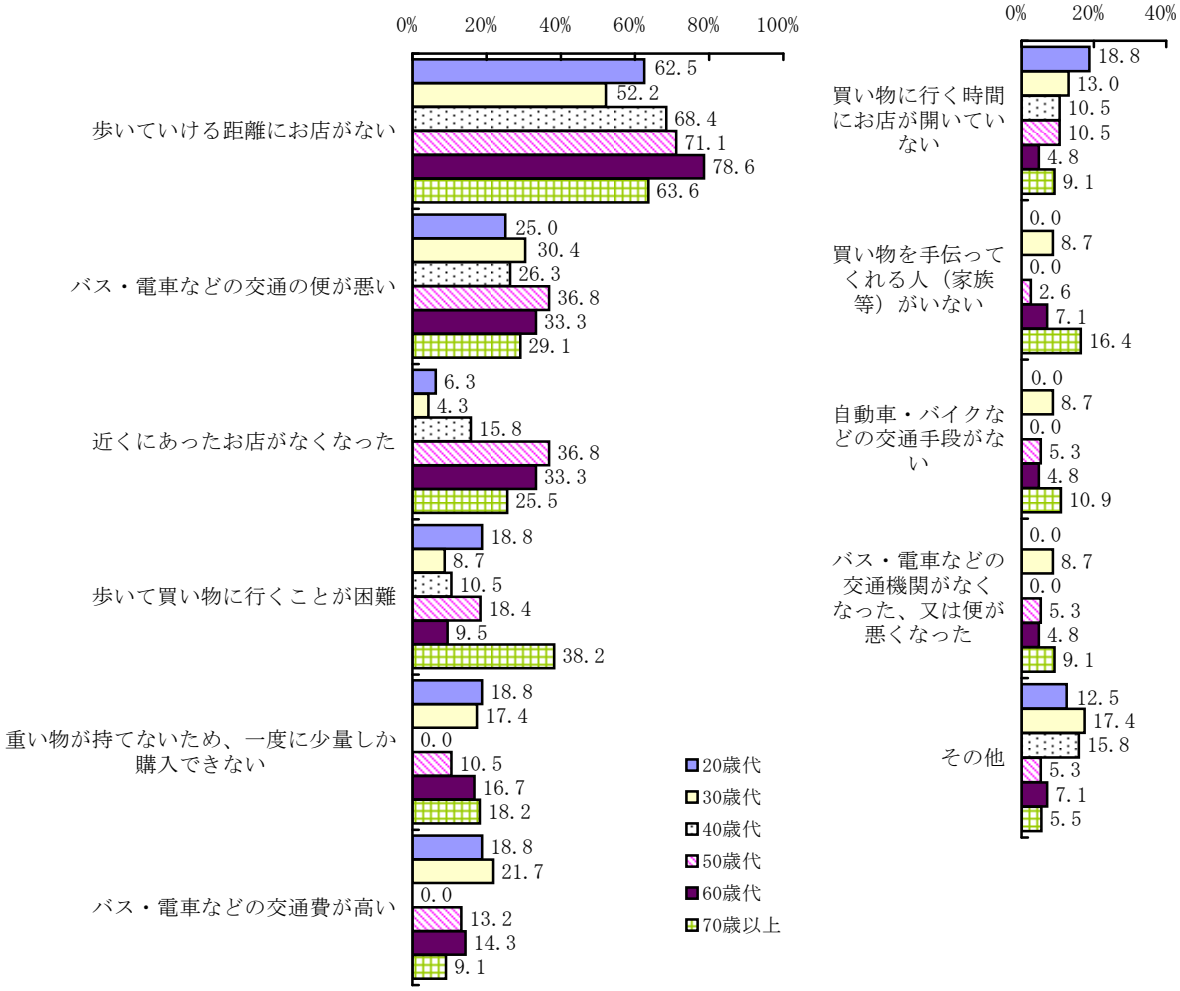
《問３７－７　不便を感じることについて》

問37-6で「不便を感じている」と答えた人に具体的な内容を聞いたところ、「歩いていける距離にお店がない」と答えた人が67.4%で最も多く、以下「バス・電車などの交通の便が悪い」（31.1%）、「近くにあったお店がなくなった」（24.4%）、「歩いて買い物に行くことが困難」（20.2%）などの順となっている。



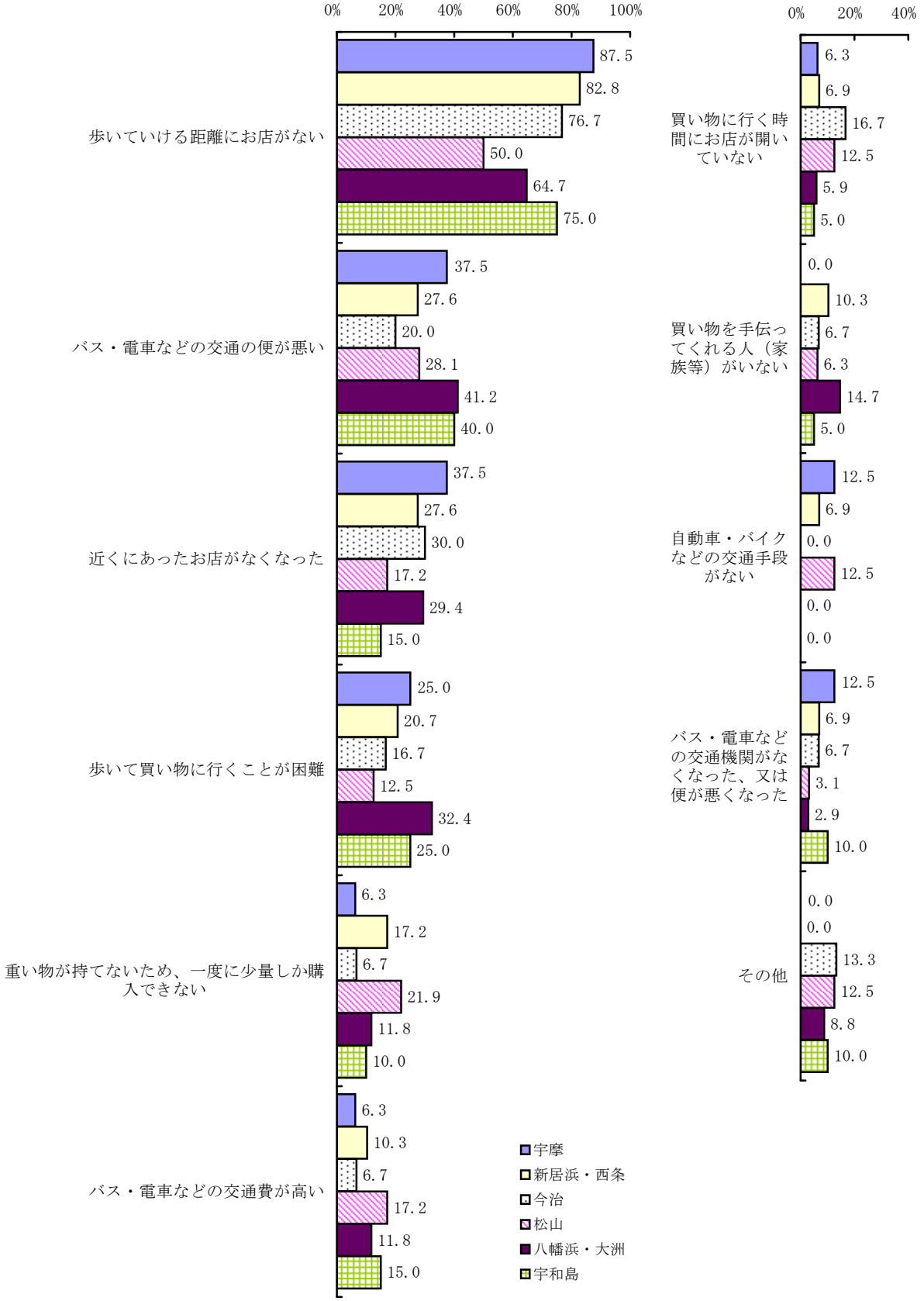
【年齢別】

年齢別に見ると、全ての年齢層で「歩いていける距離にお店がない」と答えた人の割合が最も多く、特に50歳代（71.1%）及び60歳代（78.6%）で他の年齢層と比較して多くなっている。70歳代は「歩いて買い物に行くことが困難」（38.2%）、「買い物を手伝ってくれる人(家族等)がいない」（16.4%）と答えた人の割合が比較的多い。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「歩いていける距離にお店がない」と答えた人の割合が最も多いが、松山圏域（50.0%）は他の圏域と比較すると大幅に少ない。「バス・電車などの交通の便が悪い」は、八幡浜・大洲圏域（41.2%）及び宇和島圏域（40.0%）で比較的多く、「歩いて買い物に行くことが困難」は、八幡浜・大洲圏域で32.4%で比較的多い。



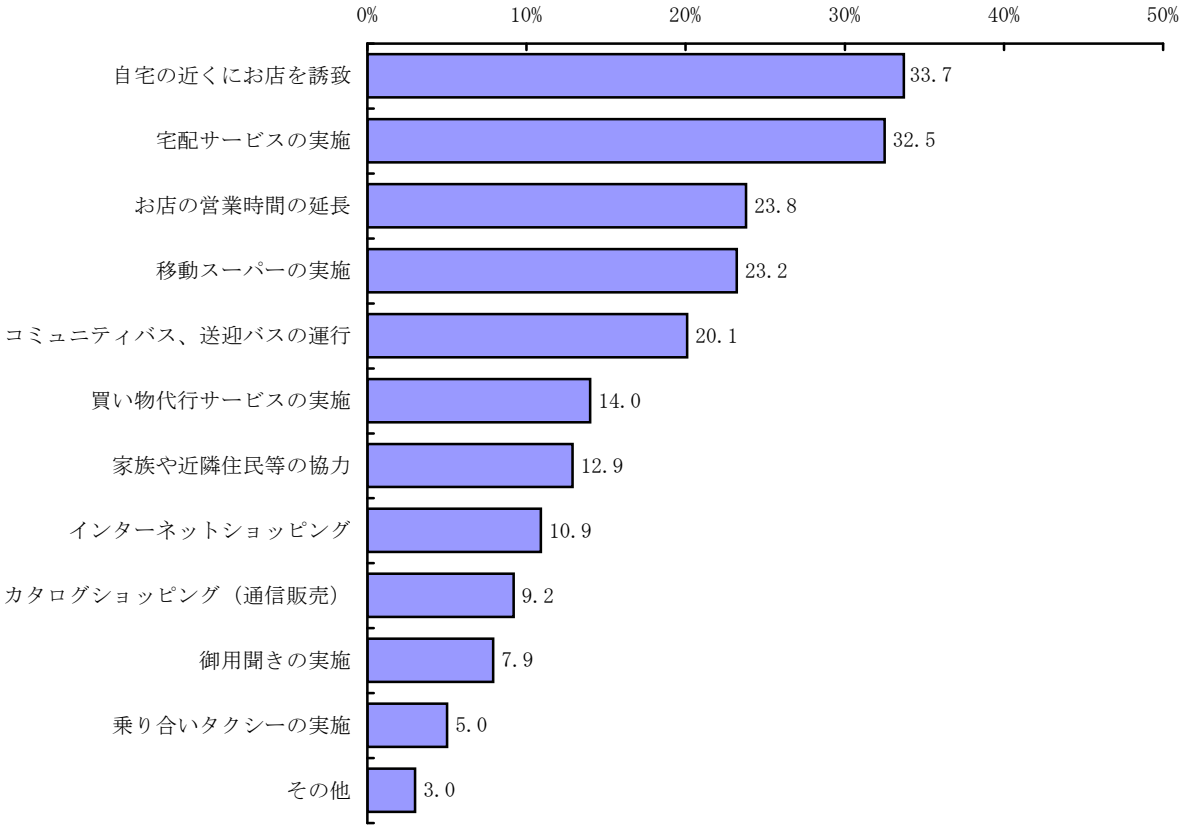
問３７－８　買い物の環境を良くするために必要なもの

あなたは、買い物の環境を良くするために、何が必要であると思いますか。次の中から**いくつでも選んで**番号を○で囲んでください。

		（複数回答）　（%）
1	自宅の近くにお店を誘致	３３．７
2	宅配サービスの実施	３２．５
3	移動スーパーの実施	２３．２
4	買い物代行サービスの実施	１４．０
5	御用聞き（注１）の実施	７．９
6	コミュニティバス（注２）、送迎バスの運行	２０．１
7	乗り合いタクシーの実施	５．０
8	インターネットショッピング	１０．９
9	カタログショッピング（通信販売）	９．２
10	お店の営業時間の延長	２３．８
11	家族や近隣住民等の協力	１２．９
12	その他	３．０

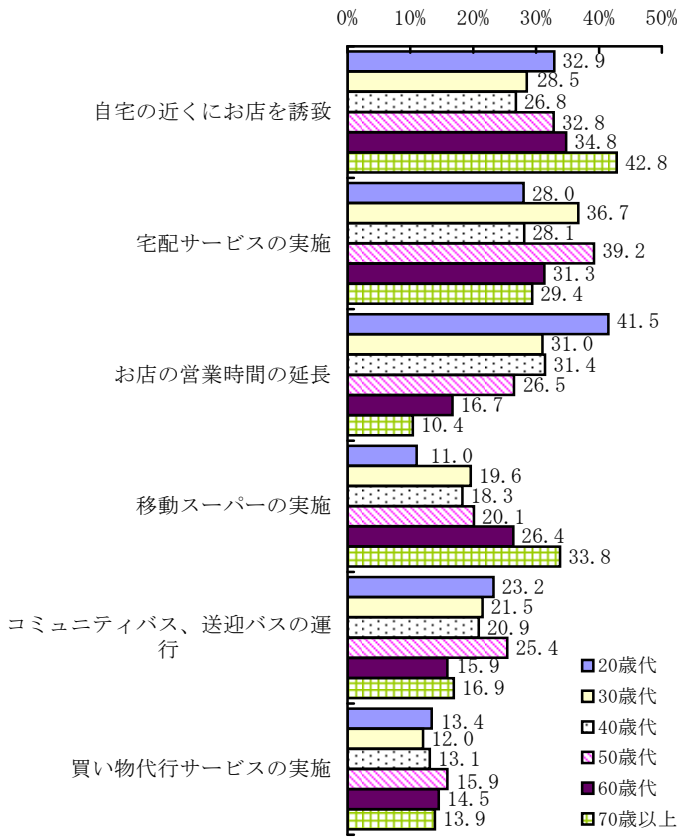
注１　「御用聞き」とは、定期的に商店からお客に注文を聞いて回り、注文品を届けるサービス
注２　「コミュニティバス」とは、公共交通機関がない交通空白地帯などで地域住民の移動手段を確保するために、自治体などが運行するバス

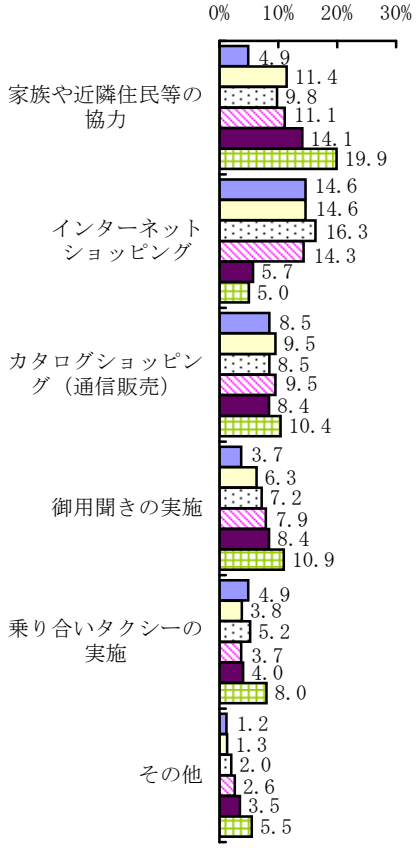
買い物環境を良くするために何が必要かを聞いたところ、「自宅の近くにお店を誘致」と答えた人の割合が33.7%で最も多く、以下「宅配サービスの実施」（32.5%）、「お店の営業時間の延長」（23.8%）、「移動スーパーの実施」（23.2%）、「コミュニティバス、送迎バスの運行」（20.1%）などの順となっている。



【年齢別】

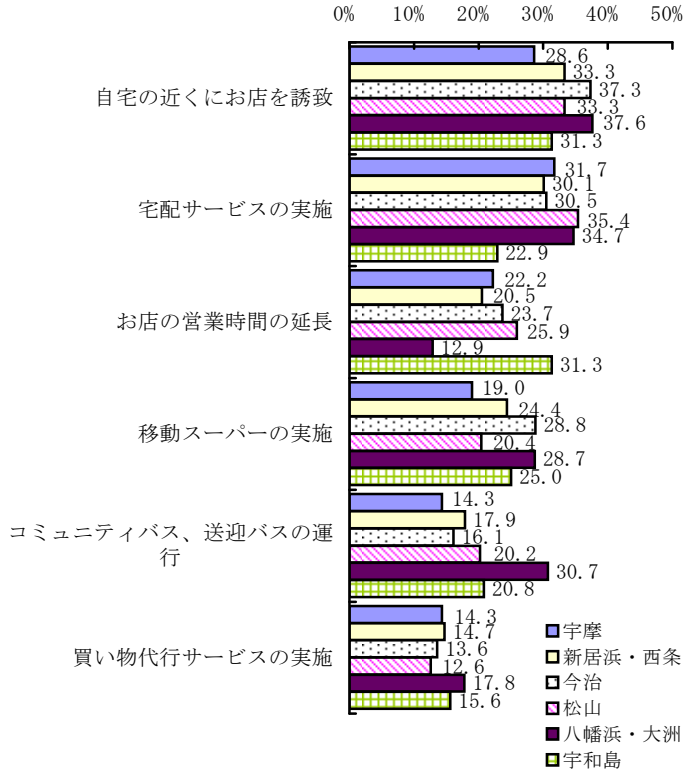
年齢別にみると、20歳代及び40歳代では「お店の営業時間の延長」と答えた人の割合が最も多く、30歳代及び50歳代では「宅配サービスの充実」が最も多く、60歳代及び70歳以上では「自宅の近くにお店を誘致」が最も多い。

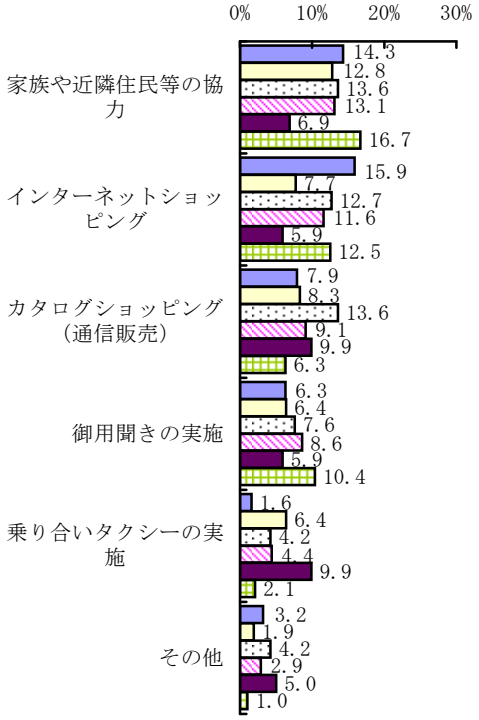




【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「自宅の近くにお店を誘致」と「宅配サービスの充実」と答えた人の割合が多い。宇和島圏域では「お店の営業時間の延長」が31.3%で他の圏域と比較して特に多く、八幡浜・大洲圏域では「コミュニティバス、送迎バスの運行」が30.7%で特に多い。



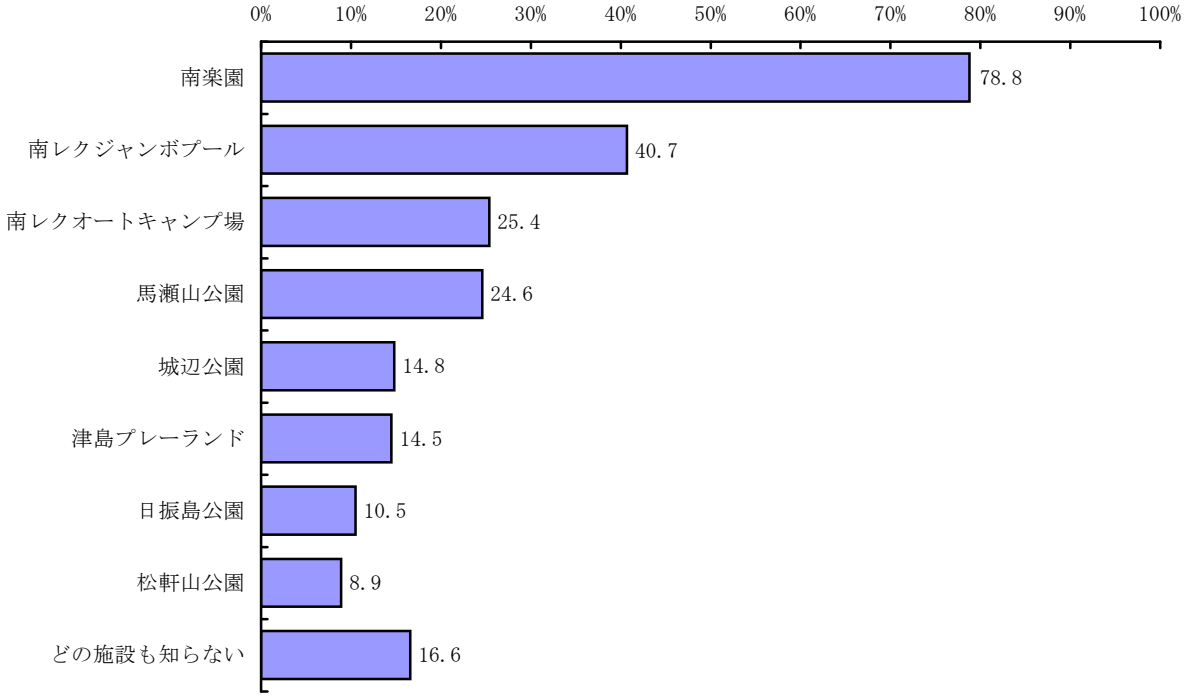


南予レクリエーション都市公園の認知度
問３８　南レク公園の施設の認知度

南予レクリエーション都市公園（以下、「南レク公園」という。）は、宇和島市から、愛南町にかけて多くの施設を整備しています。あなたが知っている施設を次の中から**いくつでも選んで**番号を○で囲んでください。

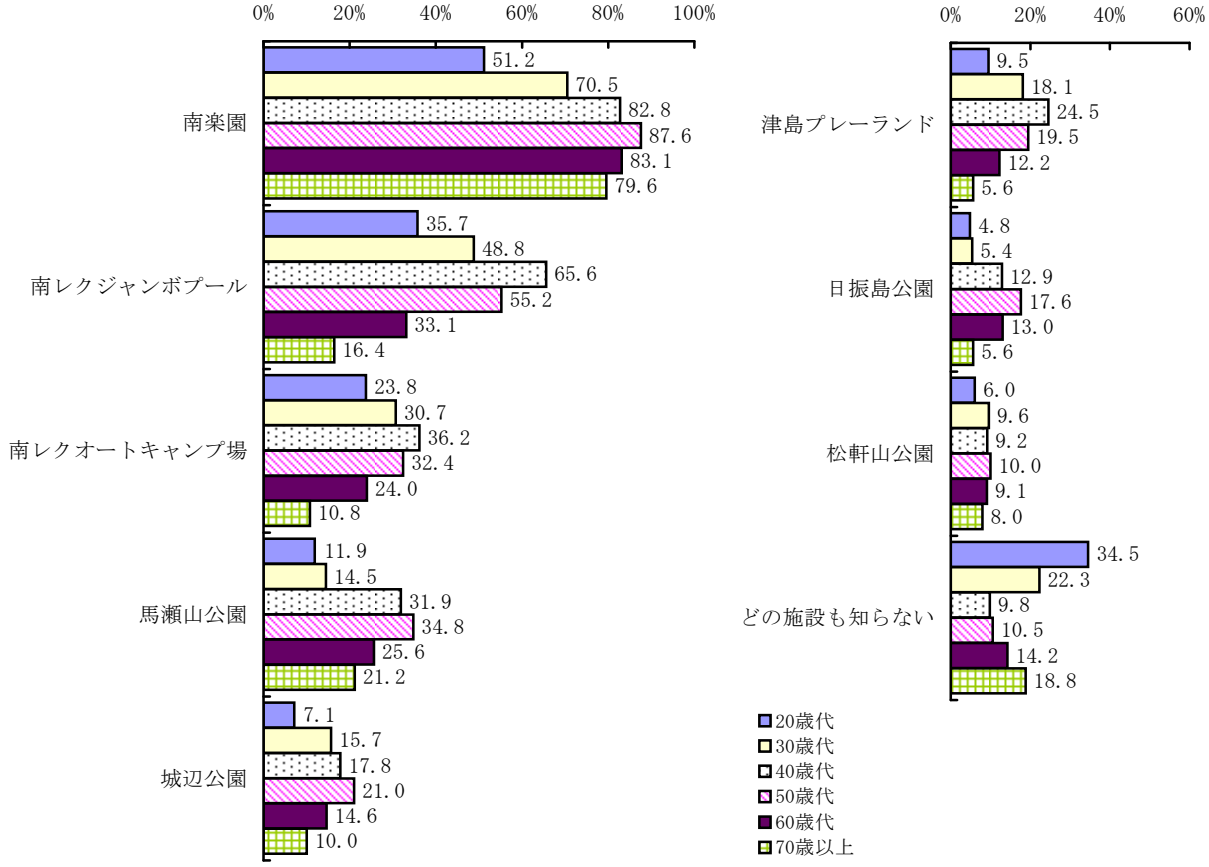
	（複数回答）　（%）
１　南楽園（日本庭園、遊具広場、ローラースケート場他）	７８．８
２　南レクオートキャンプ場	２５．４
３　津島プレーランド（ゴーカート、テニスコート、バードアイランド他）	１４．５
４　馬瀬山公園（展望タワー、紫電改展示館、こども動物園他）	２４．６
５　南レクジャンボプール	４０．７
６　松軒山公園（梅林園、ジャンボスライダー、スロープカー他）	８．９
７　城辺公園（野球場、テニスコート、球技広場、屋内運動場、キャンプ場他）	１４．８
８　日振島公園（海水浴場、キャンプ場）	１０．５
９　どの施設も知らない	１６．６

南レク公園のうち知っている施設について聞いたところ、知っていると答えた人の割合が最も多いのは「南楽園」の78.8%で、以下「南レクジャンボプール」（40.7%）、「南レクオートキャンプ場」（25.4%）、「馬瀬山公園」（24.6%）などの順になっている。
また、「どの施設も知らない」と答えた人の割合は16.6%となっている。



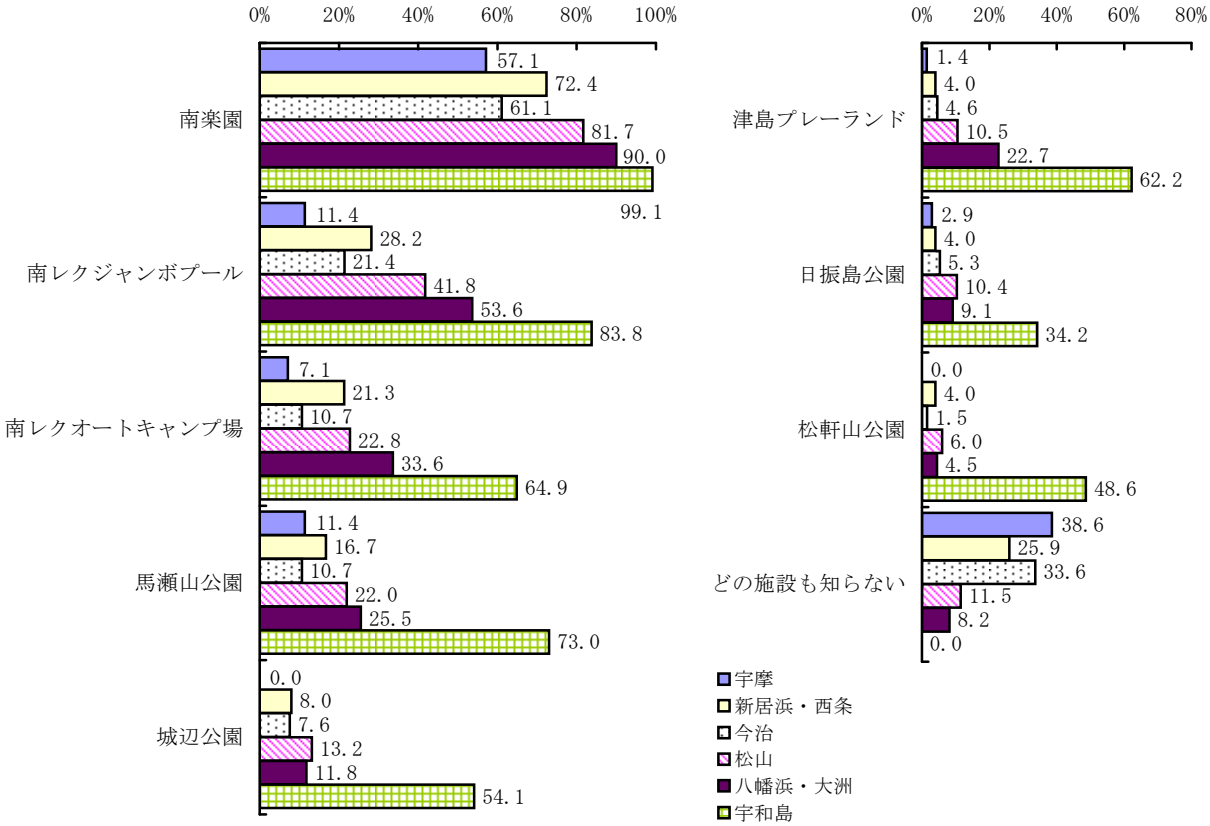
【年齢別】

年齢別にみると、全ての施設において概ね40歳代及び50歳代の認知度が高く、20歳代の認知度は低い。20歳代では「どの施設も知らない」と答えた人の割合は34.5%となっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての施設において宇和島圏域の認知度は非常に高く、宇摩圏域の認知度は低い。宇摩圏域で「どの施設も知らない」と答えた人の割合は38.6%となっている。



問３８－１　南レク公園のうち行ったことのある施設

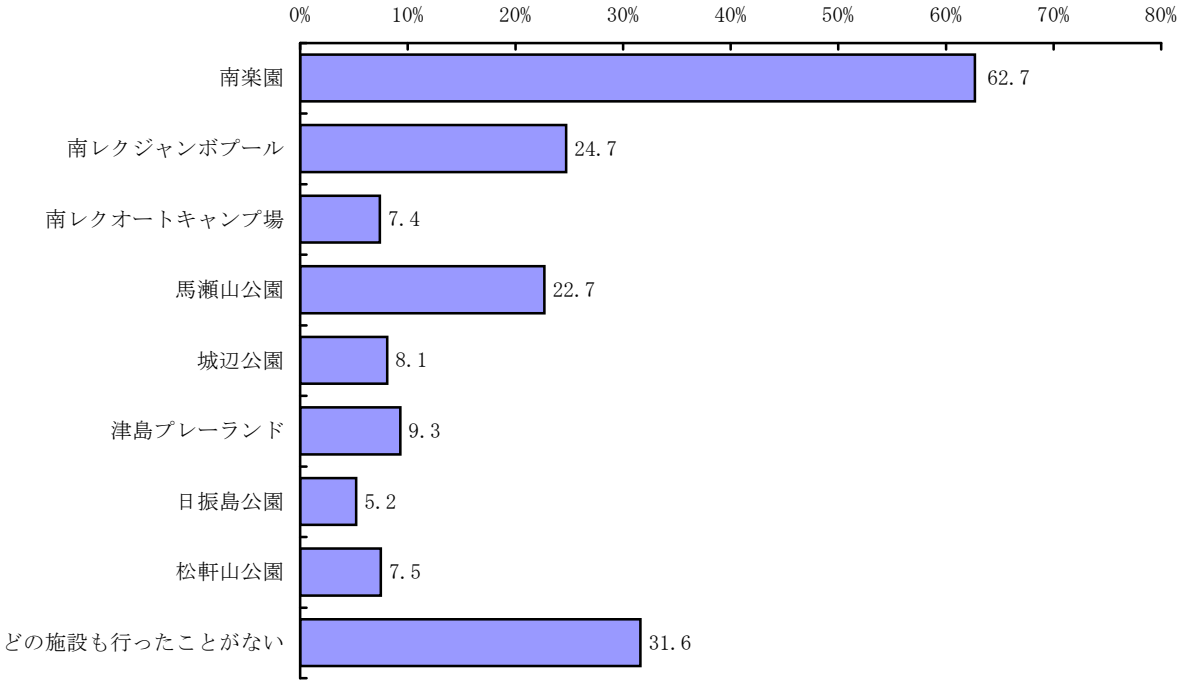
あなたは「南レク公園」に行ったことがありますか。あなたが行ったことのある施設を次の中から**いくつでも選んで**番号を○で囲んでください。

	（複数回答）	（%）
１	南楽園（日本庭園、遊具広場、ローラースケート場他）	６２．７
２	南レクオートキャンプ場	７．４
３	津島プレーランド（ゴーカート、テニスコート、バードアイランド他）	９．３
４	馬瀬山公園（展望タワー、紫電改展示館、こども動物園他）	２２．７
５	南レクジャンボプール	２４．７
６	松軒山公園（梅林園、ジャンボスライダー、スロープカー他）	７．５
７	城辺公園（野球場、テニスコート、球技広場、屋内運動場、キャンプ場他）	８．１
８	日振島公園（海水浴場、キャンプ場）	５．２
９	どの施設も行ったことがない	３１．６

南レク公園のうち行ったことがある施設について聞いたところ、行ったことがあると答えた人の割合が最も多いのは「南楽園」の62.7%で、以下「南レクジャンボプール」（24.7%）、「馬瀬山公園」（22.7%）などの順になっている。

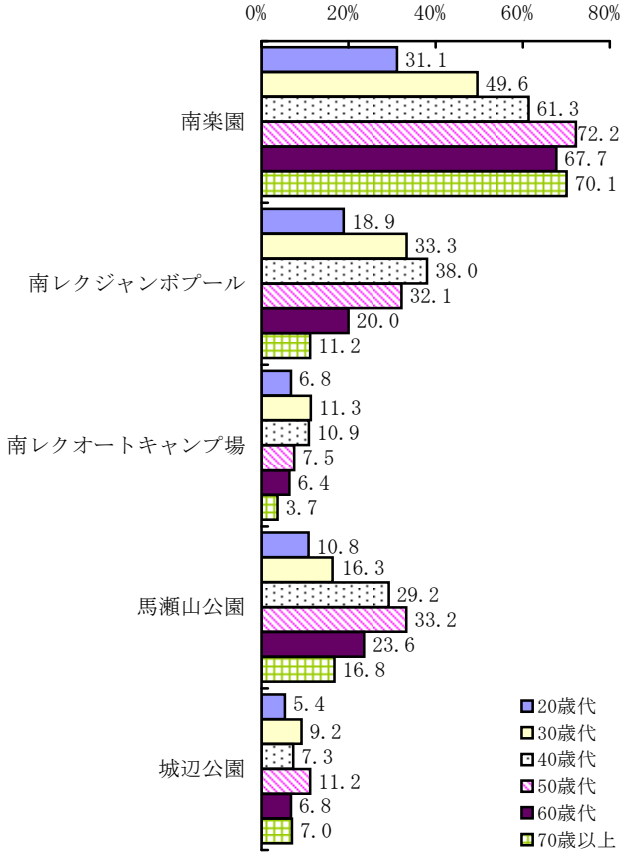
「南レクオートキャンプ場」は、問38で「知っている」と答えた人は25.4%であったが、「行ったことがある」と答えた人は7.4%にとどまっている。

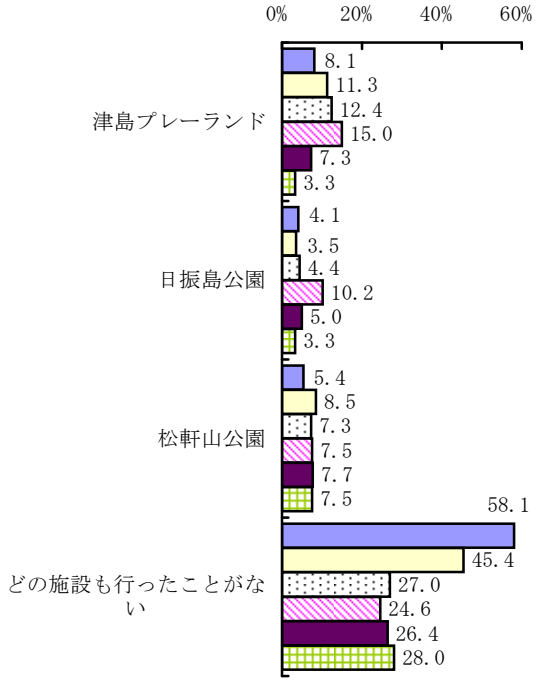
また「どの施設も行ったことがない」と答えた人の割合は31.6%となっている。



【年齢別】

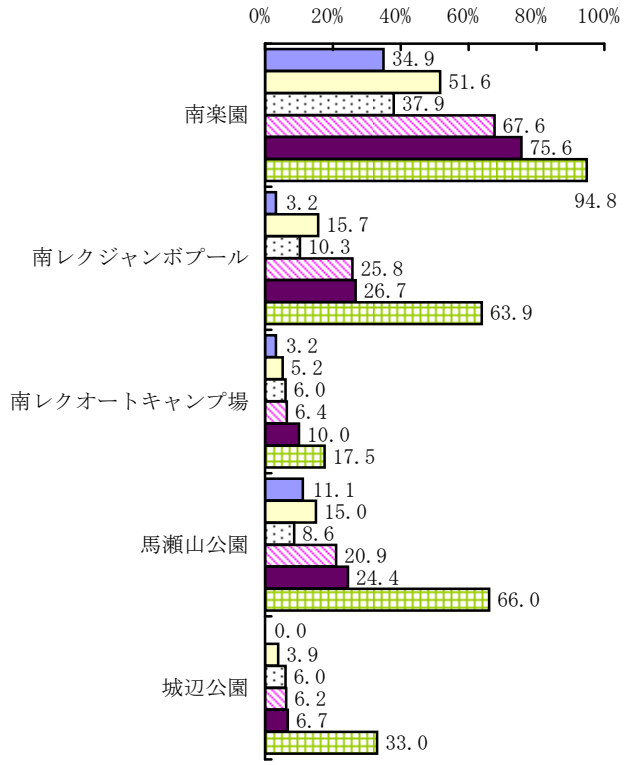
年齢別にみると、全ての施設において、行ったことがあると答えた人の割合は、40歳代～60歳代で多く、20歳代は極端に少ない。20歳代で「どの施設も行ったことがない」は58.1%となっている。

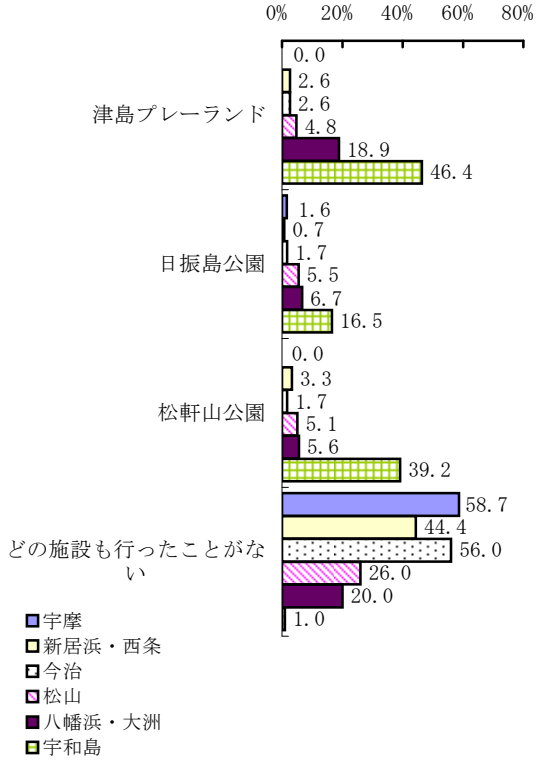




【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての施設において、行ったことがある答えた人の割合は、宇和島圏域で多く、宇摩圏域で少ない。宇摩圏域では「どの施設も行ったことがない」と答えた人の割合は58.7%となっている。





問３８－２　南レク公園の情報

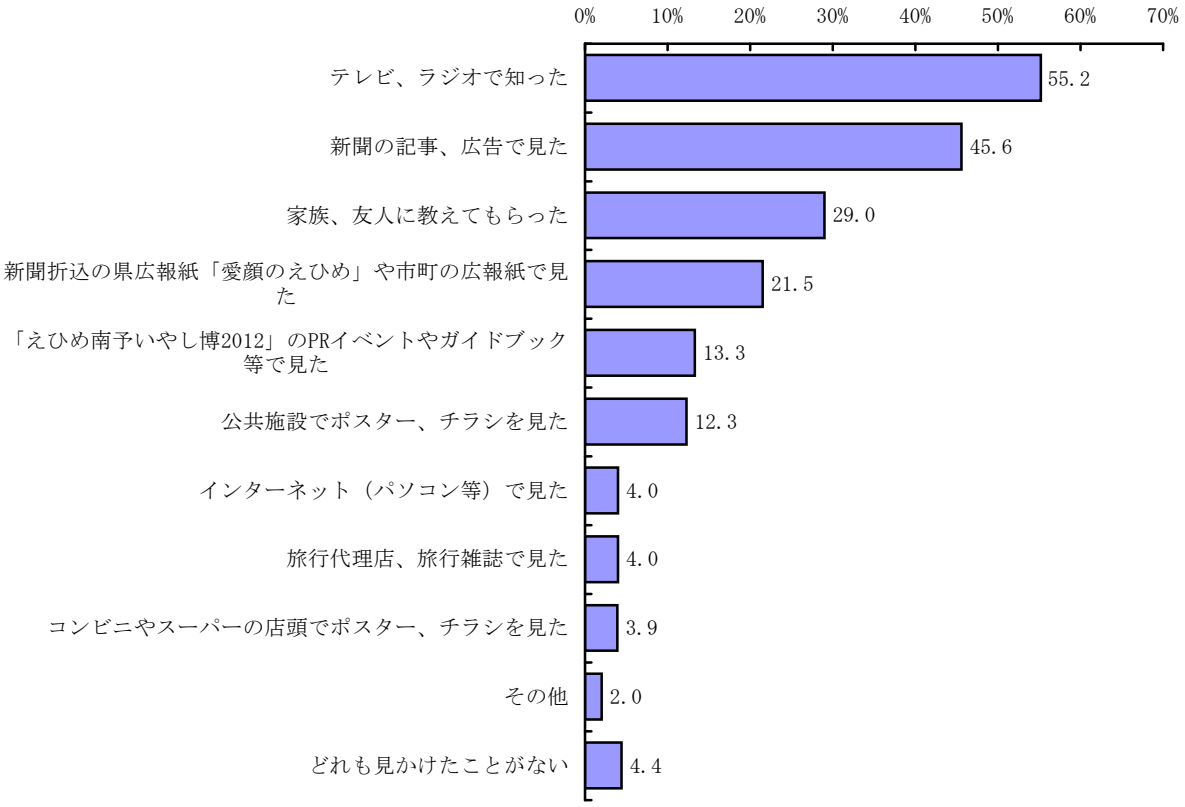
（※問38で、南レク公園のいずれかの施設（問38の1～8）を知っていると答えた人が対象）

あなたは「南レク公園」や南楽園花菖蒲まつりなど「南レク公園でのイベント」のことを何で知りましたか。次の中から**いくつでも選んで**番号を○で囲んでください。

（回答者＝９２２人）　（複数回答）　（%）

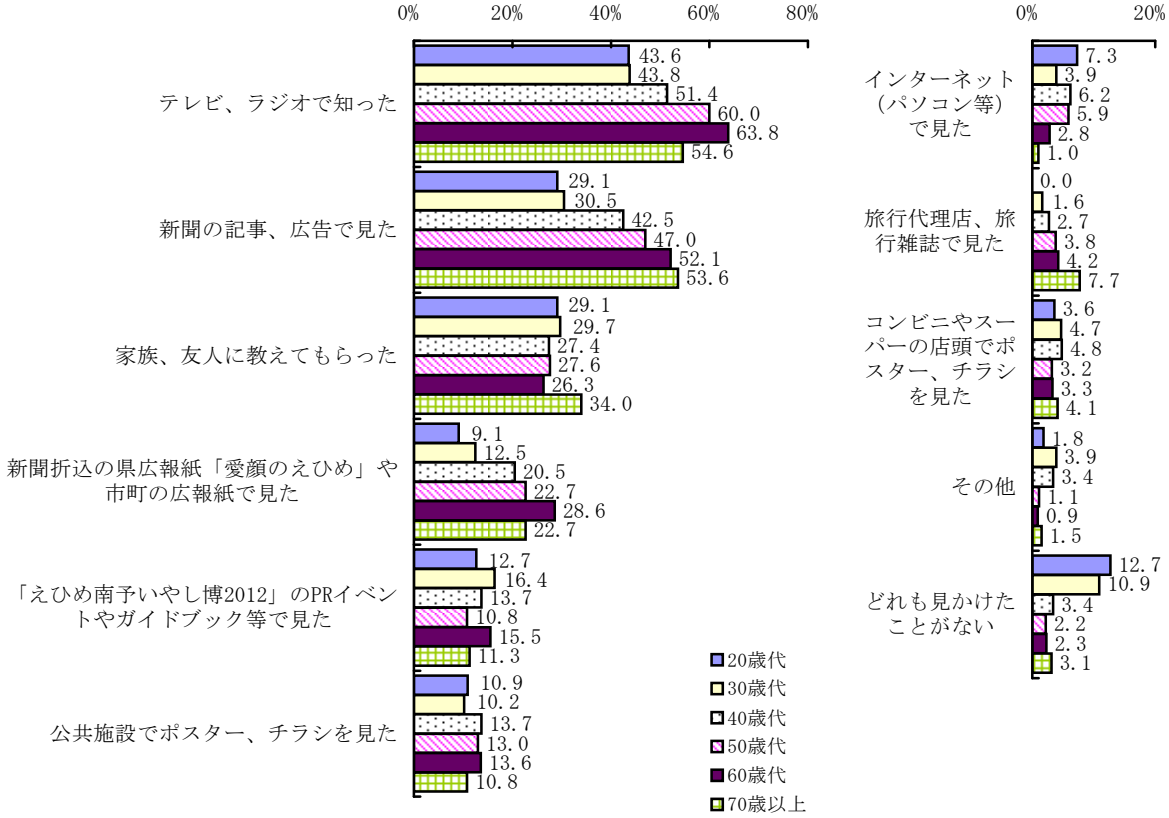
1	新聞の記事、広告で見た	４５．６
2	テレビ、ラジオで知った	５５．２
3	インターネット（パソコン等）で見た	４．０
4	新聞折込の県広報紙「愛顔のえひめ」や市町の広報紙で見た	２１．５
5	「えひめ南予いやし博2012」のPRイベントやガイドブック等で見た	１３．３
6	公共施設でポスター、チラシを見た	１２．３
7	旅行代理店、旅行雑誌で見た	４．０
8	コンビニやスーパーの店頭でポスター、チラシを見た	３．９
9	家族、友人に教えてもらった	２９．０
10	その他	２．０
11	どれも見かけたことがない	４．４

問38で、南レク公園のいずれかの施設（問38の1～8）を知っていると答えた人を対象に、南レク公園や南レク公園でのイベントのことを何で知ったかを聞いたところ、「テレビ、ラジオで知った」と答えた人の割合が55.2%で最も多く、以下「新聞の記事、広告で見た」（45.6%）、「家族や友人に教えてもらった」（29.0%）、「新聞折込の県広報紙『愛顔のえひめ』や市町の広報紙で見た」（21.5%）などの順となっている。



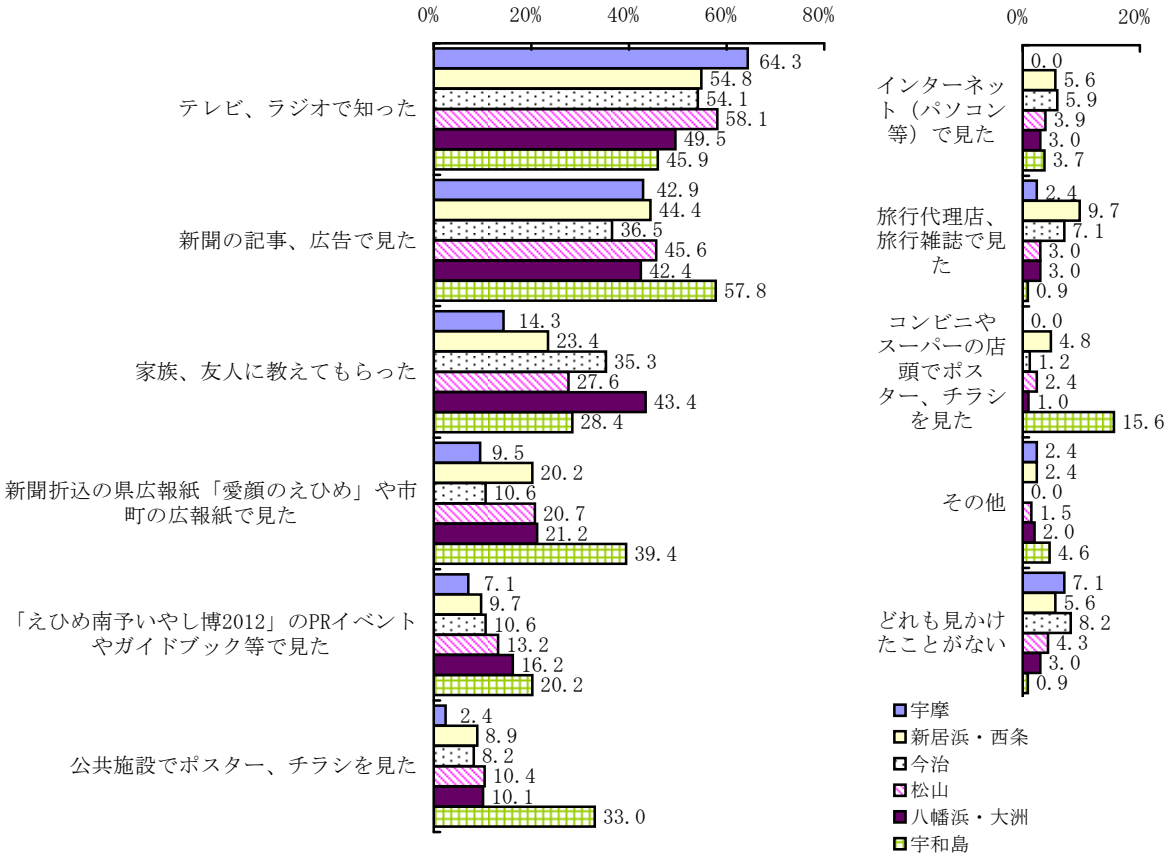
【年齢別】

年齢別に見ると、どの年齢層も「テレビ、ラジオで知った」と答えた人の割合が最も多いが、40歳代以上では「新聞の記事、広告で見た」と答えた人の割合も多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇和島圏域を除く全ての圏域で「テレビ、ラジオで知った」と答えた人の割合が最も多い。宇和島圏域では「新聞の記事、広告で見た」と答えた人の割合が57.8%で最も多い。

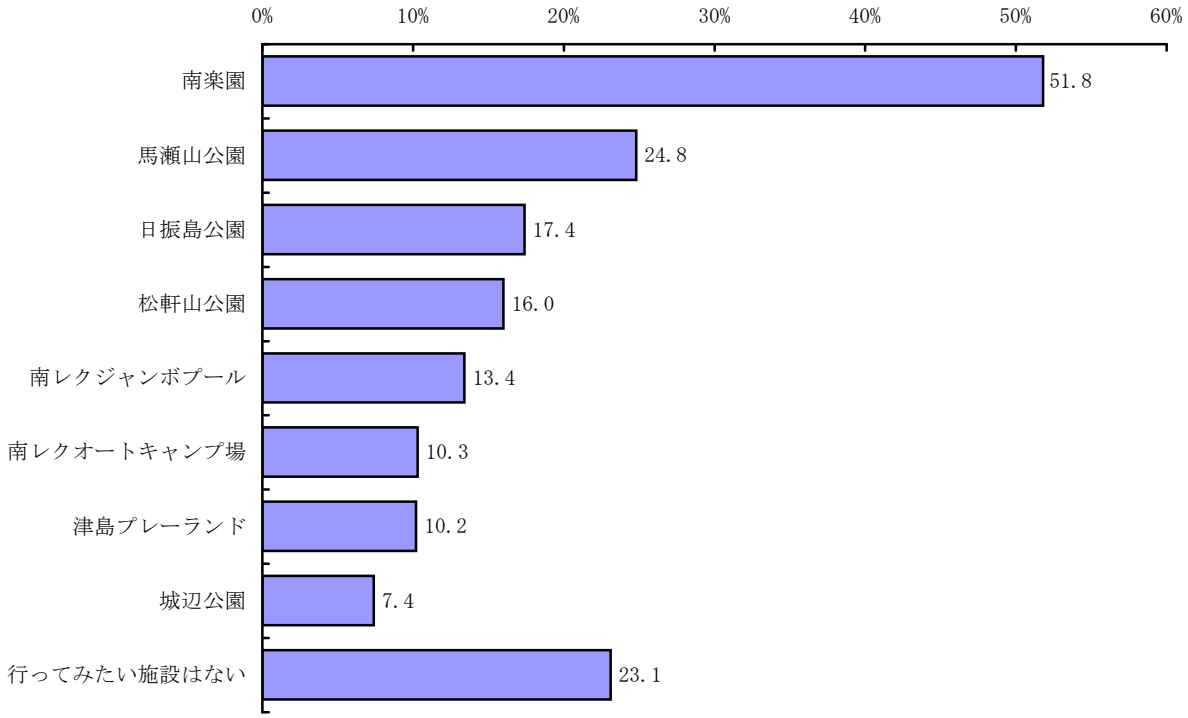


問３８－３　南レク公園のうち行ってみたい施設

あなたは「南レク公園」に行ってみたいですか。行ってみたい施設を次の中から**いくつでも選んで**番号を○で囲んでください。（既に行ったことのある方は、もう一度行ってみたい施設を選んでください。）

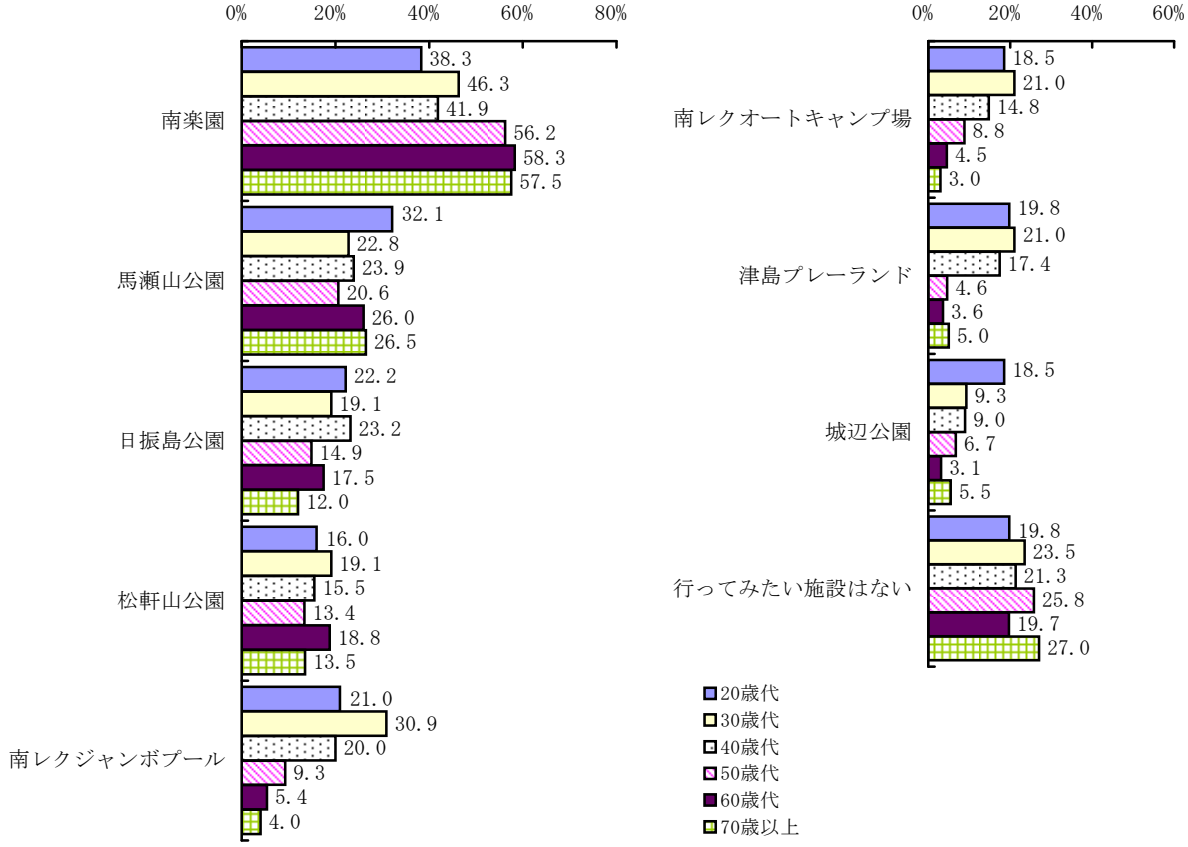
	（複数回答）	（%）
１	南楽園（日本庭園、遊具広場、ローラースケート場他）	５１．８
２	南レクオートキャンプ場	１０．３
３	津島プレーランド（ゴーカート、テニスコート、バードアイランド他）	１０．２
４	馬瀬山公園（展望タワー、紫電改展示館、こども動物園他）	２４．８
５	南レクジャンボプール	１３．４
６	松軒山公園（梅林園、ジャンボスライダー、スロープカー他）	１６．０
７	城辺公園（野球場、テニスコート、球技広場、屋内運動場、キャンプ場他）	７．４
８	日振島公園（海水浴場、キャンプ場）	１７．４
９	行ってみたい施設はない	２３．１

南レク公園のうち行ってみたい施設について聞いたところ、「南楽園」と答えた人の割合が51.8%で最も多く、以下「馬瀬山公園」（24.8%）、「日振島公園」（17.4%）、「松軒山公園」（16.0%）などの順となっている。



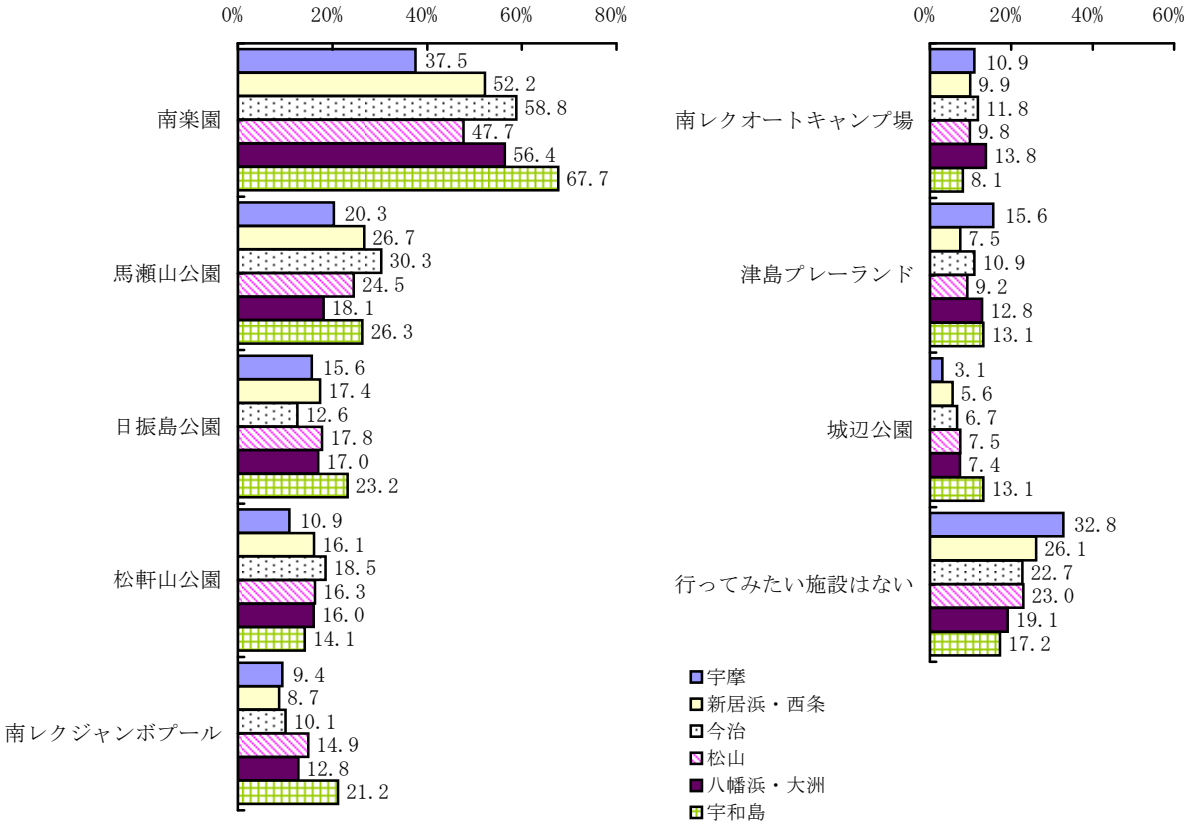
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「南楽園」と答えた人の割合が最も多い。30歳代を除く全年齢で「馬瀬山公園」が２番目に多いが、30歳代では「南レクジャンボプール」が２番目に多い。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「南楽園」と答えた人の割合が最も多く、２番目は「馬瀬山公園」となっている。宇摩圏域では「行ってみたい施設はない」が32.8%となっている。

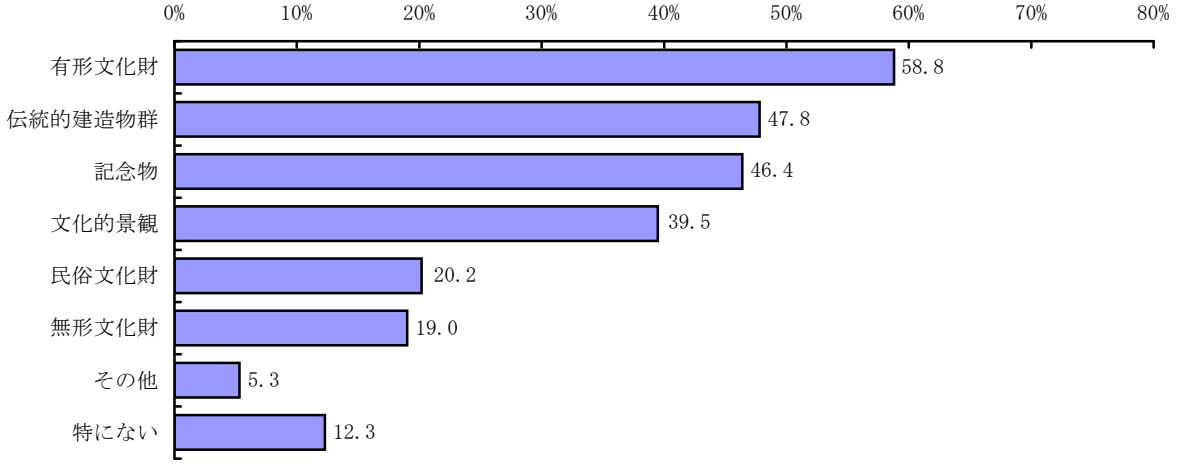


文化財の活用
問３９　興味や関心がある文化財について

愛媛の文化財で、どのような種類のものに興味や関心がありますか。次の中から**いくつでも選んで**番号を○で囲んでください。

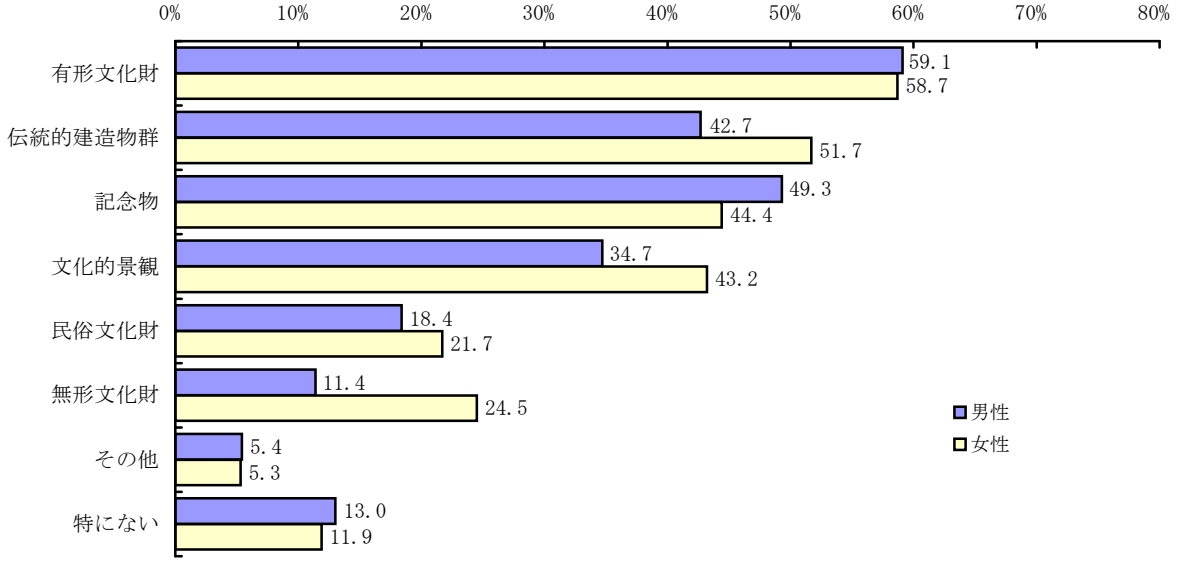
	（複数回答）　（%）
１　有形文化財（古い寺社などの建造物や絵画・彫刻・工芸品・書跡・古文書など）	５８．８
２　無形文化財（演劇・音楽や工芸技術）	１９．０
３　民俗文化財（衣食住・生業・信仰・年中行事などの慣わしや民俗芸能、これらに用いられる衣服・道具など）	２０．２
４　記念物（古墳・城跡などの史跡、庭園・渓谷などの名勝、動植物・地質鉱物などの天然記念物）	４６．４
５　文化的景観（棚田・里山など地域の風土に育まれた景観）	３９．５
６　伝統的建造物群（歴史的な風情のある古い町並み）	４７．８
７　その他（埋蔵文化財など）	５．３
８　特にない	１２．３

愛媛の文化財で、興味や関心がある文化財について聞いたところ、「有形文化財」と答えた人の割合が58.8%で最も多く、以下「伝統的建造物群」（47.8%）、「記念物」（46.4%）、「文化的景観」（39.5%）などの順となっている。



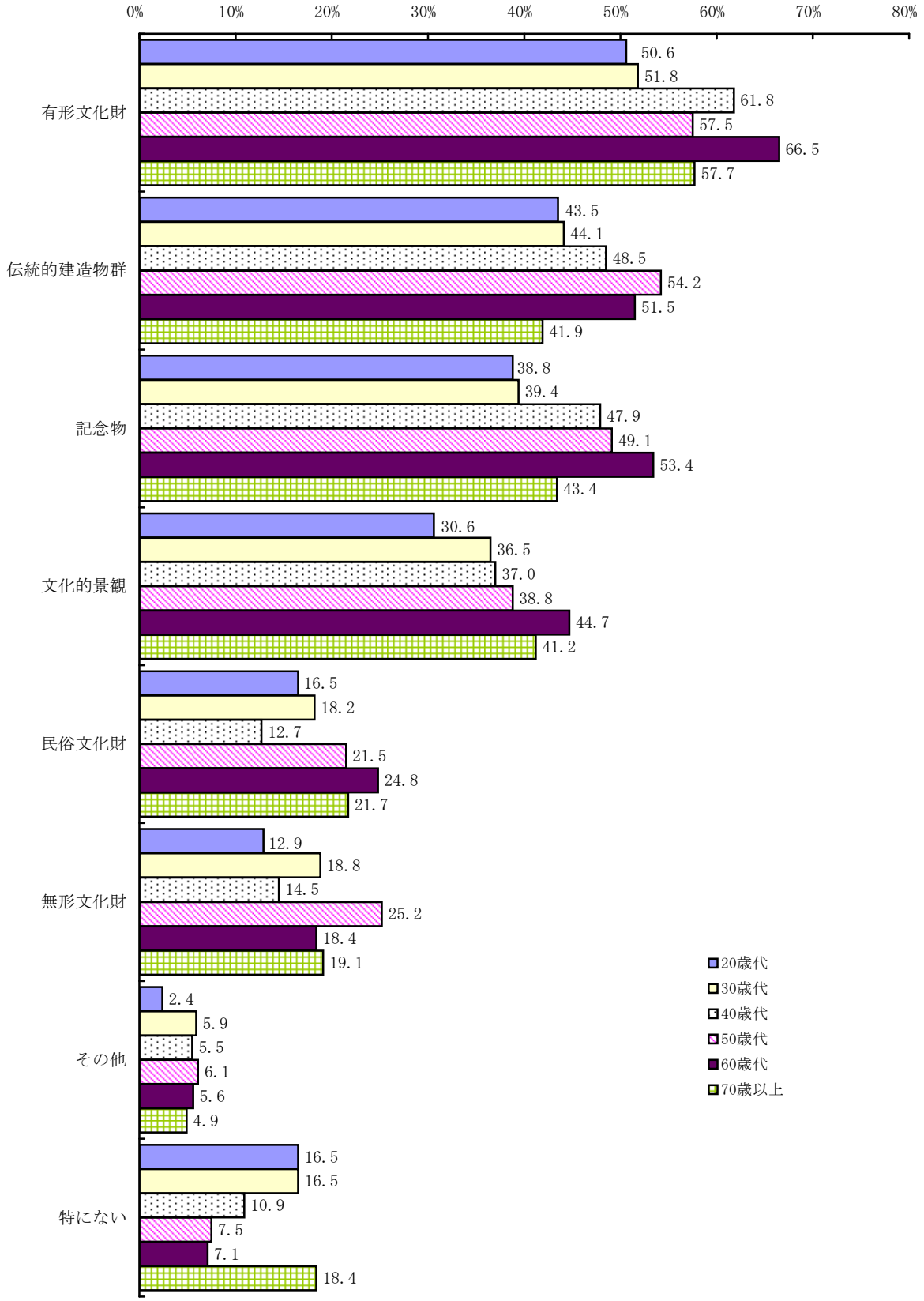
【性別】

年齢別にみると、男女とも「有形文化財」と答えた人の割合が最も多い。「伝統的建造物群」と答えた人の割合は、女性（51.7%）が男性（42.7%）より9.0ポイント多く、「文化的景観」も女性（43.2%）が男性（34.7%）より8.5ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全年齢層で「有形文化財」と答えた人の割合が最も多いが、「伝統的建造物群」、「記念物」及び「文化的景観」についても、全ての年齢層で興味や関心の度合いが高い。

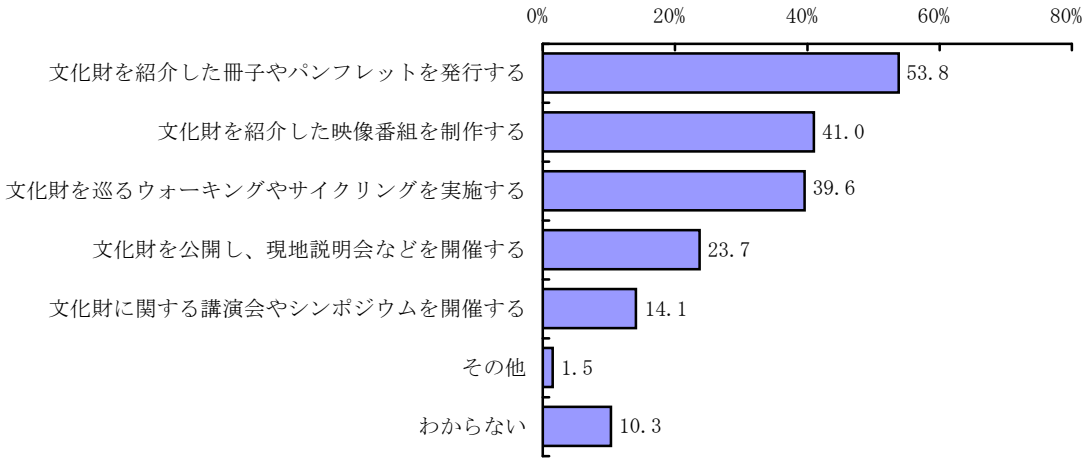


問３９－１　文化財活用のための施策

文化財の価値や魅力を県民に広く知ってもらい、より親しみあるものとするために、県はどのような施策を行えばよいと思いますか。次の中から**いくつでも選んで**番号を○で囲んでください。

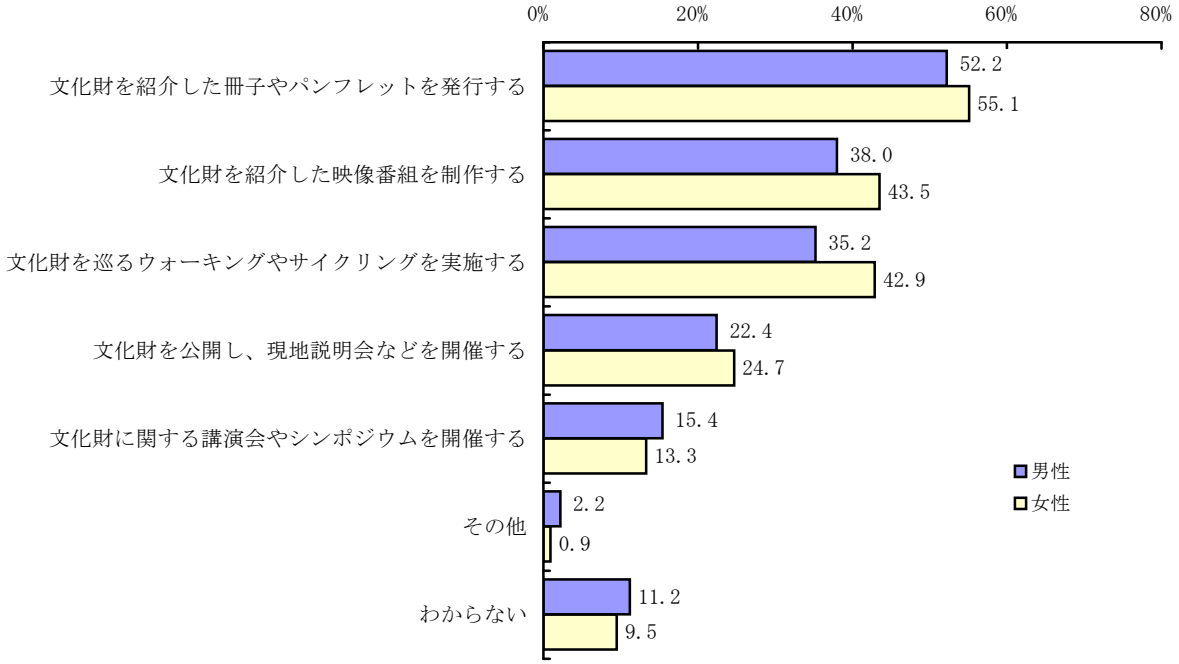
		（複数回答）　（%）
１	文化財を紹介した冊子やパンフレットを発行する	５３．８
２	文化財を紹介した映像番組を制作する	４１．０
３	文化財を公開し、現地説明会などを開催する	２３．７
４	文化財を巡るウォーキングやサイクリングを実施する	３９．６
５	文化財に関する講演会やシンポジウムを開催する	１４．１
６	その他	１．５
７	わからない	１０．３

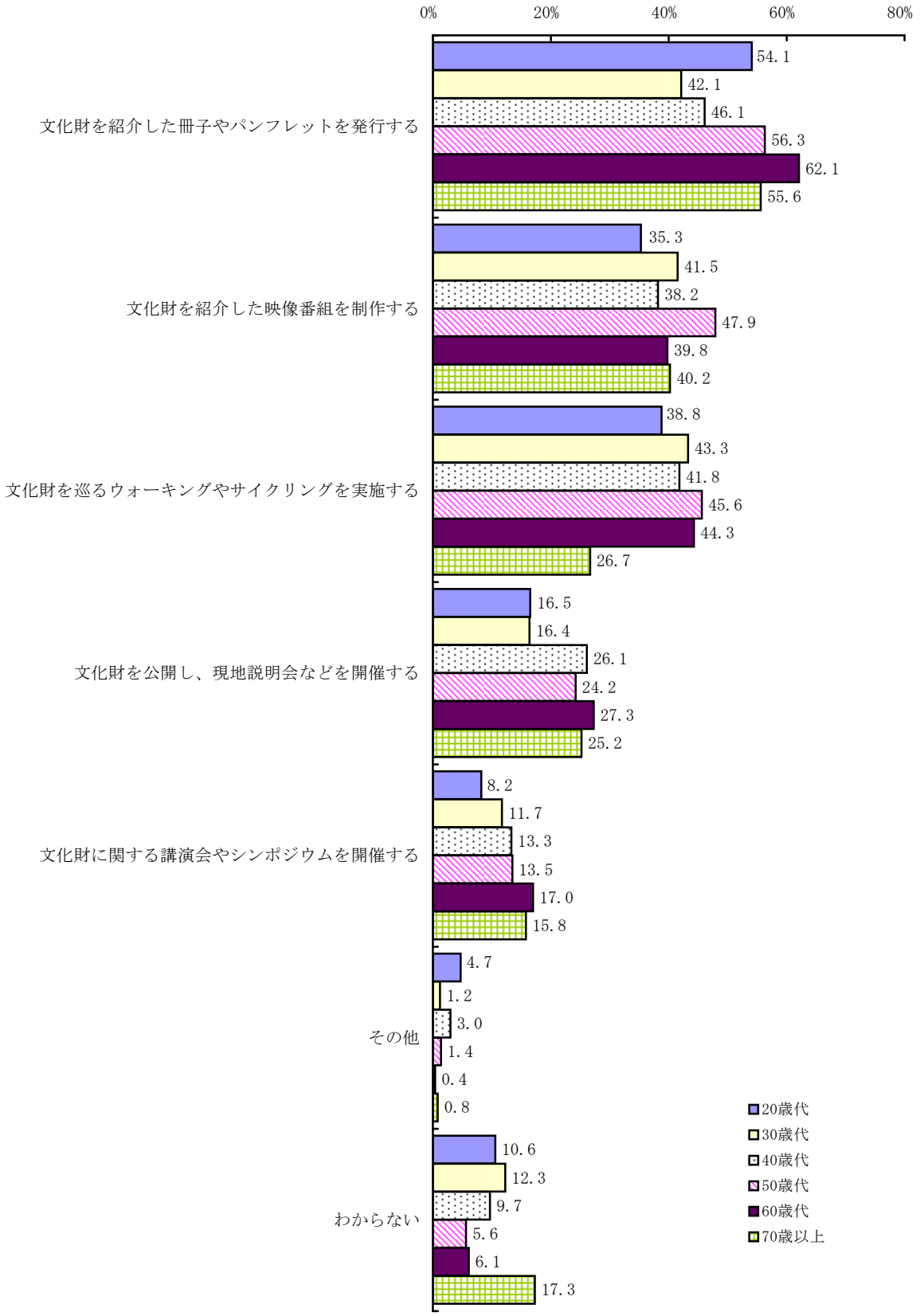
文化財活用のために県はどのような施策を行えばよいか聞いたところ、「文化財を紹介した冊子やパンフレットを発行する」と答えた人の割合が53.8%で最も多く、以下「文化財を紹介した映像番組を制作する」（41.0%）、「文化財を巡るウォーキングやサイクリングを実施する」（39.6%）などの順になっている。



【性別】

性別にみると、男女共に「文化財を紹介した冊子やパンフレットを発行する」、「文化財を紹介した映像番組を制作する」、「文化財を巡るウォーキングやサイクリングを実施する」と答えた人の割合が多く、全体的に、男性よりも女性の方が、それぞれの施策に対し実施すべきと答えた人の割合が多い。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「文化財を紹介した冊子やパンフレットを発行する」、「文化財を紹介した映像番組を制作する」、「文化財を巡るウォーキングやサイクリングを実施する」と答えた人の割合が多い。このうち「文化財を紹介した冊子やパンフレットを発行する」は60歳代（62.1%）で特に多く、「文化財を紹介した映像番組を制作する」は50歳代（47.9%）で特に多い。